

地域に生き、世界に伸びる



熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

2027 University Guide
大学案内

「未来のわたし」を創る場所



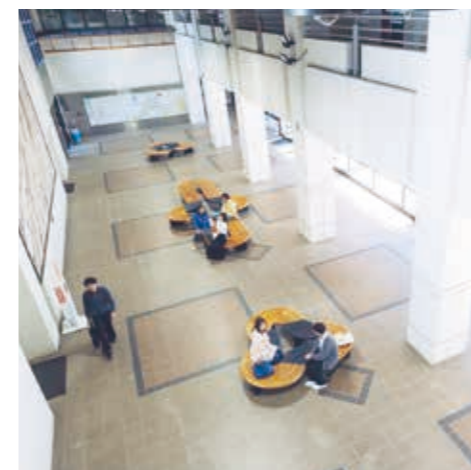
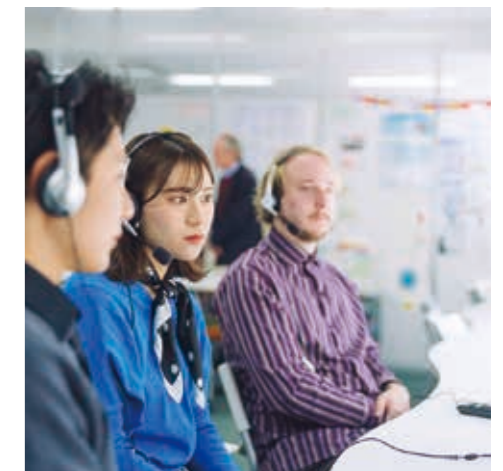
熊本から世界へ羽ばたく

熊本県立大学は、文、環境共生、総合管理、半導体（仮称）*の4学部3研究科からなり、人文科学系、自然科学系、社会科学系、工学系の4つが有機的に結合した先進的な「集約型大学」です。

また、「地域実学主義」を教育理念とし、「理論を現場に学ぶ」体験的、実践的学修方法であるフィールドワークや、地域課題解決と教育を結び付けた「もやいすと」育成プログラムなど、現場に学び実践力を育むための教育を展開する特色ある大学です。

この大学に学び、地域に根ざし世界に向かって羽ばたこうとする知的探究心旺盛な学生を求めています。

*2027年4月新設予定。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。



■ 熊本県立大学の〈理念〉

総合性への志向

本学は、人文・社会・自然の学問の三分野から成る大学として、学際的な方法を重視しつつ、総合的な知の形成を目指す。

地域性の重視

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜し、地域社会に開かれた大学として、当面する諸問題を分析し解決すること、地域の知的創造の拠点となることを目指す。

国際性の推進

本学は、グローバル化に対応して、アジアをはじめ世界の多様な文化を学びつつ、諸外国の人々との交流を進め、国際的・多元的な文化の創造を目指す。

■ 熊本県立大学の〈目的〉

熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とする。

大学の理念・目的	2
理事長・学長メッセージ	4
学部教育の特長	6
特色ある教育	7
地域に生きる	10
世界に伸びる	16
共通教育センター	21

文学部	24
日本語日文学科	26
グローバル・スタディーズ学科	30
環境共生学部環境共生学科	34
環境資源学専攻	36
居住環境学専攻	40
食健康環境学専攻	44
総合管理学部総合管理学科	48
New 半導体学部半導体学科（仮称）	56

大学院	62
教員一覧	64
キャリアサポート・学修支援	66
学生生活	73
キャンパスマップ	80
キャンパス周辺情報	82
学費・奨学金・経済支援	83
入試情報	84

Contents



公立大学法人熊本県立大学

理事長 黒田 忠広 博士(工学)
Kuroda Tadahiro

熊本県立大学のスローガンは「地域に生き、世界に伸びる」です。熊本は今、急速にグローバル化が進んでいます。世界の超優良企業が競って熊本に進出してきました。熊本には世界の頭脳を惹きつける魅力があるからです。つまり、私たちの地域は国際的に注目される地域です。ですから、深い愛郷心を持つことと高い国際性を育むことは、自然と両立します。それが「くまもと新時代」の持つ大きな可能性です。

本学の文学部では、日本や海外の言葉と文化を学ぶことができます。自国の文化を学び、世界から熊本に集まる人々に日本の文化を伝えたり、あるいは世界の文化を学び、熊本に集まる世界の人々と交流することの喜びを知ることができます。

環境共生学部では、いかに環境と共生するかを学ぶことができます。水は熊本にとって最も重要な資源です。そして、半導体の製造にも必要不可欠な資源です。世界最先端の半導体工場が建設される熊本だからこそ、この地で環境共生を考えることは、世界の環境を考えることにつながります。

また、総合管理学部では、複雑に要因が絡む問題を総合的にとらえ解決するための多様な知識や手法を学ぶことができます。グローバル企業が産業エコシステムを携えて集まってくる熊本だからこそ、この地で総合管理を学ぶことで、世界に大きく貢献できます。

さらに、半導体学部(仮称)が新設されます。半導体とコンピュータとAIを横断的に学ぶことにより、半導体の力で社会課題を解決できる人材となることを目指します。

熊本県立大学は、「くまもと新時代」を逞しく生き、熊本を愛して世界から愛される人を育てます。

本学では、「地域に生きる」「世界に伸びる」という教育研究のスローガンを掲げています。「地域に生きる」とは、私たちが暮らす地域の課題を学び、将来にわたってより良く生きるための解決策を主体的に考えることを意味します。ここでいう「地域」とは、皆さんが学ぶ熊本に限られるものではありません。人が暮らす場所はそれぞれの地域であり、地理的に離れていても、多くの場合、共通する課題を抱えています。ある地域の課題に向き合い、その解決策を見出すことは、他の地域にも通じる普遍的な価値を持つものとなります。

もう一つのスローガンである「世界に伸びる」も、地域の将来にとって重要な視点です。インターネットや交通手段の発達により、人や情報の往来は急速にボーダレス化しています。熊本には阿蘇山や天草の海に象徴される豊かな自然があり、そこから生まれる多彩な食の恵みがあり、さらに長い歴史の中で育まれてきた文化があります。これらの魅力は特に海外から注目を集め、外国からの観光客が増加しています。また、阿蘇山に由来する豊富で良質な水資源は、近年の半導体産業の発展を支える重要な要素となっています。半導体は現代および近未来社会に不可欠な基盤的資源であり、熊本の地域は世界の最先端産業と密接に結びついています。今日では、海外に出向かずとも、多様な国や文化を持つ人々と日常的に関わる社会が実現しています。このような背景を踏まえ、本学では世界共通語である英語の運用能力の向上に力を入れています。eラーニングシステムの導入により、時間や場所にとらわれず学習できる環境を整備し、海外との多様な交流プログラムも推進しています。

学生の皆さんが熊本の地で学び、地域と世界の双方に目を向けながら本学での学びを深め、近未来社会へと羽ばたいていくことを願っています。一人ひとりが自らの幸福を実現するとともに、地域社会の発展に貢献されることを期待します。



熊本県立大学

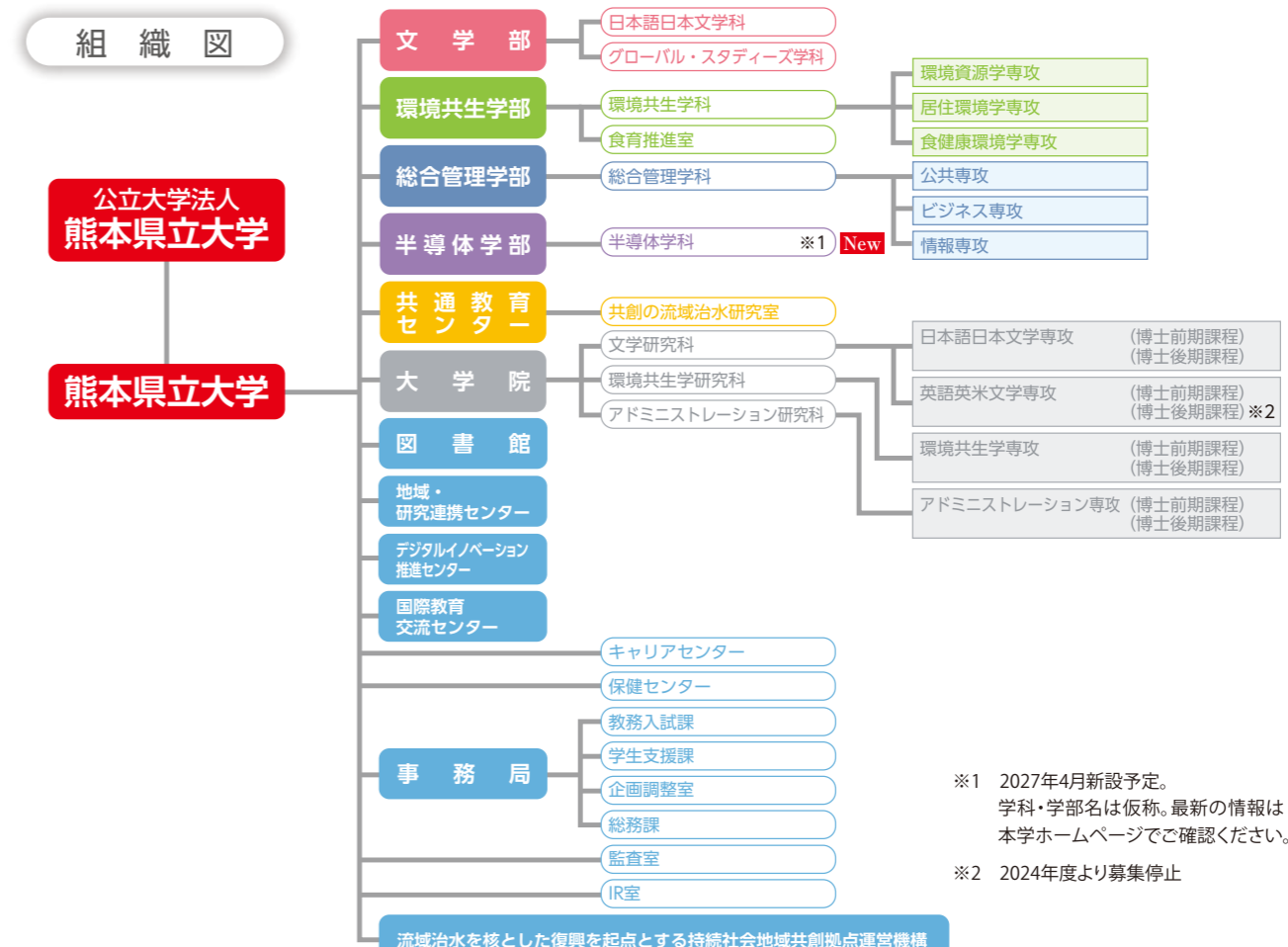
学長 堤 裕昭 博士(理学)
Tsutsumi Hiroaki

沿革

- 1947(昭和22)年 4月 熊本県立女子専門学校創立(熊本城内)
- 1949(昭和24)年 4月 熊本女子大学開学
学芸学部/文学科、生活学科
- 1950(昭和25)年 6月 熊本市大江渡鹿に校舎移転(現:県立劇場敷地)
- 1953(昭和28)年 4月 文家政学部/文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科に名称変更
- 1960(昭和35)年 4月 文学科→英文学科、国文学科に分割改組
- 1963(昭和38)年 4月 家政学科→家政学科、食物学科に分割改組
- 1980(昭和55)年 4月 熊本市健軍町水洗(現:月出)に移転
文学部と生活科学部の2学部制とし学科改組
文学部/国文学科、英文学科、生活科学部/食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科
- 1991(平成 3)年 4月 外国語教育センター設置
- 1993(平成 5)年 4月 文学研究科/日本語日本文学専攻(修士課程)、英語英米文学専攻(修士課程)設置
- 1994(平成 6)年 4月 名称を熊本県立大学に変更、男女共学化
国文学科→日本語日本文学
英文学科→英語英米文学科に名称変更
総合管理学部/総合管理学科を設置
- 1998(平成10)年 4月 アドミニストレーション研究科(修士課程)設置
- 1999(平成11)年 4月 生活科学部を環境共生学部へ改組
環境共生学部/環境共生学科/生態・環境資源学専攻、居住環境学専攻、食・健康環境学専攻

- 2000(平成12)年 4月 アドミニストレーション研究科(博士課程)設置
- 2003(平成15)年 4月 環境共生学研究科(修士課程)設置
- 2005(平成17)年 4月 環境共生学研究科(博士課程)設置
- 2006(平成18)年 4月 公立大学法人熊本県立大学設立(法人化)
地域連携センター、学術情報メディアセンター設置
- 2008(平成20)年 4月 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程)設置
環境共生学部学科を改組し3学科体制となる
- 2009(平成21)年 4月 学生支援組織改組 キャリアセンター、保健センター設置
- 2010(平成22)年 4月 文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程)設置
- 2013(平成25)年 4月 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組
- 2014(平成26)年 4月 全学教育推進センター設置
- 2019(平成31)年 4月 環境共生学部学科を改組し現在の1学科3専攻となる
環境共生学部/環境共生学部に食育推進室を設置
地域連携・研究推進センターを地域連携政策センターに改組
- 2020(令和 2)年 4月 国際教育交流センター、IR室を設置
- 2021(令和 3)年 4月 全学教育推進センターを共通教育センターに改組
同センター内に緑の流域治水研究室設置
- 2022(令和 4)年 4月 デジタルイノベーション推進センターを設置
地域連携政策センターを地域・研究連携センターに改組
- 2024(令和 6)年 4月 総合管理学部総合管理学科に専攻制を導入
総合管理学科/公共専攻、ビジネス専攻、情報専攻
- 2026(令和 8)年 4月 英語英米文学科→グローバル・スタディーズ学科に名称変更

組織図



※1 2027年4月新設予定。学科・学部名は仮称。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。
※2 2024年度より募集停止

『地域に生き、世界に伸びる』

Think Globally, Act Locally

熊本県立大学は、創立から79年の歴史と伝統を礎に、新しい時代の要請にこたえる教育を展開し、あなたの持つ知的好奇心を満たし、時代を拓くたくましい想像力を育みます。そして、地域社会、ひいては国際社会の発展に貢献できる人材にあなたを育成します。

学部教育の特長

熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、21世紀の地域社会ひいては国際社会の発展に貢献できる創造性豊かな人材を育成します。

特に、学部教育においては、次の目標を掲げ、教育の充実に力を注いでいます。

- 1 幅広い知識・教養に基づき学問の意義を理解し、自己を認識して、将来を構想できる人材
- 2 多角的視点を備え、自ら課題を抽出し、論理的、分析的に思考して、総合判断ができる人材
- 3 地域社会及び国際社会に興味・関心を有し、異質性を認めることができる人材
- 4 積極性、自律性及び行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応でき、社会において協調し協働できる人材
- 5 他者と理解しあい、共生していく上に必要なコミュニケーション能力がある人材

全学(学士課程)の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)より



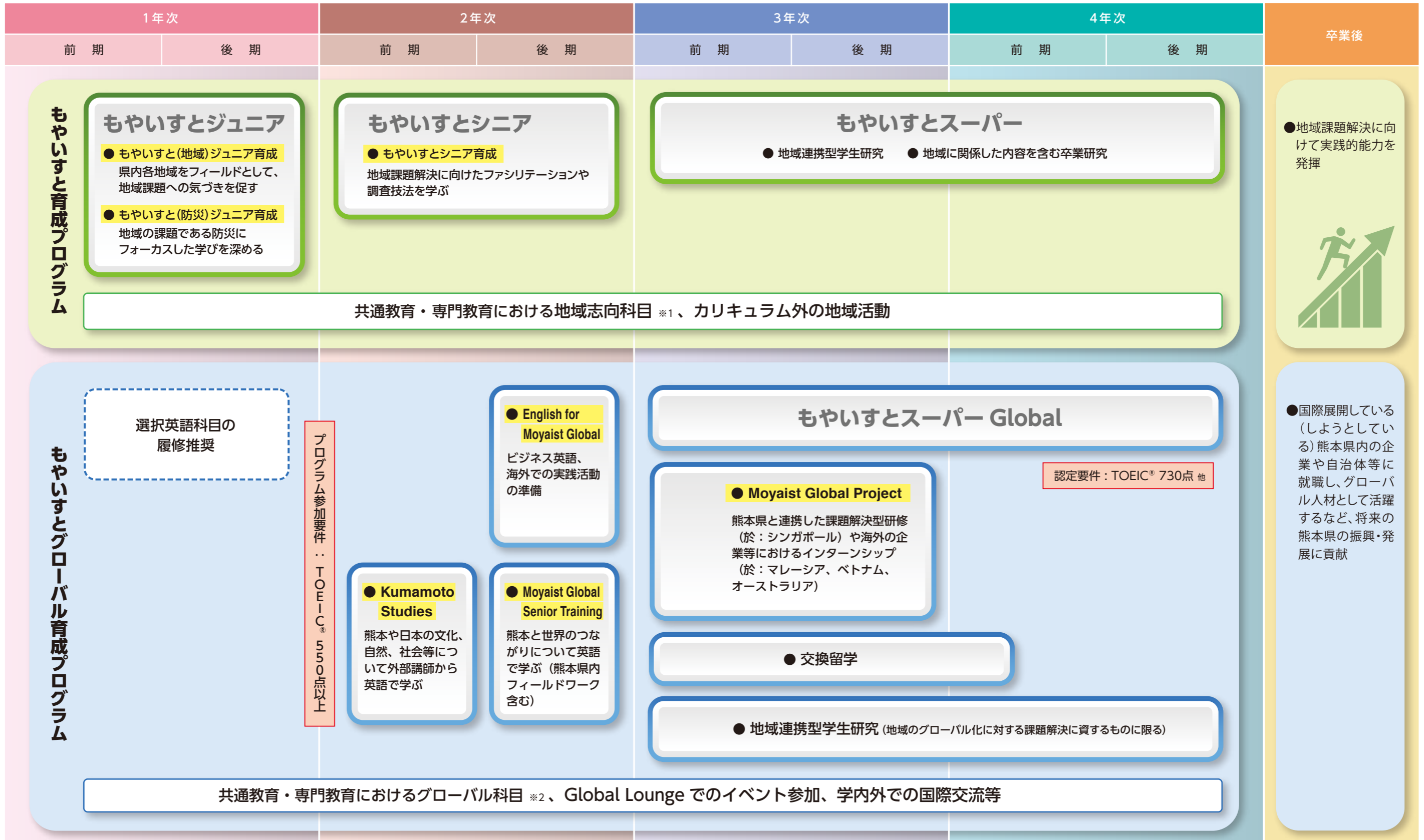
特色ある教育

- 地域に生き、世界に伸びる
Think Globally, Act Locally



もやいすと育成システム

■「もやいすと」とは 本学では、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、地域に根ざしながら世界を見据える人材の育成に努めています。その人材養成の目的を表す概念として、「もやいすと」という用語を用いています。この「もやいすと」の「もやい(舳い)」とは、もともと船を相互に繋ぐことを意味し、人と自然と地域社会とを再構築する「もやい直し」という言葉に由来しています。その「もやい」と「～する人」の「-ist」から、地域づくりのキーパーソンを「もやいすと」と呼んでいます。



※1 地域志向科目…熊本に関する内容(文化、自然、社会等)を含む科目、地域課題を内容として含む科目
 ※2 グローバル科目…外国語能力の向上や国際理解・異文化理解を深める科目

地域に生きる

もやいすと育成プログラム

“地域づくりのキーパーソン”を育成する教育プログラム

このプログラムでは、熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて自ら課題を認識・発見し、地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材（もやいすと）の育成を目指します。

ジュニア、シニア、スーパーの3段階で実施しております。1年生から卒業まで「地域づくりのキーパーソン」としての素養を段階的に養成していくプログラムです。

県内各所へのフィールドワークや災害に備えるためのワークショップなどを通じて地域への理解や防災に対する意識を高め、グループワークを通じて合意形成能力やファシリテーターとしてのスキルを向上していきます。

もやいすと育成での学びや地域活動を積極的に行う学生には「もやいすとスーパー」として評価し認定する独自の評価制度を設け、卒業後も地域課題解決に向けて実践的能力を発揮する人材を育成しています。

もやいすとジュニア育成

1年生全員が受講する必修科目です。「地域」か「防災」、どちらかを選択します。「地域」・「防災」ともに、フィールドワークやワークショップを終えた後はグループワークを行い、学部を交えたチームのメンバーと共に課題を見つけ、その解決策をまとめて成果発表を行います。

地域

地域への気付きを促す導入科目です。熊本県内の対象地域へのフィールドワークや地域課題発見と、解決へ向けたワークショップなどを行います。

防災

地域課題である「防災」にフォーカスした導入科目です。被災時に役立つ実践的なワークショップを行いながら防災意識を高め、災害が起きた時にどう対応をすべきか、また被災した地域をどのように復興していくかを学びます。



グループワークの様子 (2025年度撮影)



地域 阿蘇の輪地切り活動 (2025年度撮影)



防災 球磨川流域散策 (2025年度撮影)

もやいすとシニア育成

「もやいすとジュニア育成」を受講した2年生を対象にした選択科目です。

地域リーダーに要求される基礎的なスキル、「リーダーシップと合意形成能力」を養成します。また、熊本県内各所へのフィールドワークを通して、聞き取り調査スキルや分析力などの調査技法のスキルを養い、ジュニアに対するファシリテーターとしての授業サポートを通じて「地域課題解決に向けたファシリテーションスキル」を養います。



人吉市
青井阿蘇神社周辺散策
(2023年度撮影)



フィールドワーク後の
振り返り
(2025年度撮影)



石川県輪島市 白米千枚田
ボランティア活動
(2025年度撮影)



石川県輪島市
仮設団地の視察
(2025年度撮影)

2024年度・2025年度もやいすと育成プログラムの一部は一般財団法人 三菱みらい育成財団の助成により実施しました。

もやいすとスーパー

独自の制度「もやいすと評価制度」では、もやいすと育成プログラムでの学び、ジュニアに対するファシリテーターや地域でのボランティア活動などを評価し「もやいすとスーパー」として認定しています。



2025年度 第1回・第2回認定式



2025年度認定

総合管理学部 総合管理学科（公共）
4年

小山 桃加 さん

（熊本県立東陵高等学校出身）

「もやいすとシニア」で、能登半島地震のボランティアへ行ったことで、現状を把握し、災害についてより深く考えるきっかけになりました。SA(Student Assistant)の経験では、いかにメンバーの考えを引き出せるアドバイスをするのが難しかったですが、傾聴力や観察力を磨くことができたと感じています。入学する前から目指していた「もやいすとスーパー」の認定をいただいたことを誇りに思い、これからも自分の挑戦したいことを積極的に挑戦していきたいと思っています。



2025年度認定

総合管理学部 総合管理学科（情報）
4年

田添 裕己 さん

（文徳高等学校出身）

私は2024年度に「もやいすとシニア」へ参加し、石川県にてフィールドワークを行いました。現地調査や地域の方々との交流を通して、災害の爪痕を実感すると共に、地域課題を自分事として捉える重要性に気づきました。また、SA(Student Assistant)の経験を通して、物事の本質を見出すスキルを高めることができたと感じています。これらの経験やスキルを通じて、幅広い分野での社会課題解決へチャレンジしていきたいと考えています。

もやいすと育成プログラムの詳細は
大学ホームページをご参照ください。



熊本学

「熊本」を学ぶ、「地域」に学ぶ

熊本で学ぶことの意義、それはここ熊本でしか学べないことを学ぶこと。本学では、このような「熊本」にこだわった授業を全学共通科目の中で展開しています。それが、「熊本学」。「熊本」という地域に、様々な角度からアプローチしていきます。

〈開講科目〉

- 「熊本学：ことば、表現、歴史」
- 「熊本学：熊本の生活と環境」
- 「熊本学：地域社会と協働」



「熊本学」の講義風景 NPO法人熊本DARCセンター長 田邊忠司氏

協力講座

社会の第一線で活躍する人から学ぶ

「協力講座」とは、大学と協定を締結した企業の第一線で活躍する人たちから学べるオンリーワンの授業です。各授業のテーマについて学ぶだけでなく、社会で求められている知識や技能とは何か、また、大学で学ぶ理論、知識が実際の社会の中でどのように役立てられるかなどを、企業の持つ実践的知識をもとに「理論」と「実践」を学びます。

〈協定企業と開講科目〉

- 熊本日日新聞社……………「マスメディア論」
- 九州電力熊本支社……………「エネルギーと社会」



熊本日日新聞社協力講座「マスメディア論」講義の様子



九州電力熊本支社協力講座「エネルギーと社会」講義の様子

フィールドワーク

現場に学び、実践力を得る

より具体的で深い問題意識や学修意欲を高めるため、現場での学修体験を重視しています。それがフィールドワークです。本学では、このフィールドワークの手法をカリキュラムの中に積極的に取り入れています。

例：文学部

- 「長崎県島原市・肥前島原松平文庫探訪」
- 環境共生学部
- 「干潟の環境と生物群集」
- 総合管理学部
- 「菊池市街での街歩き」



和書読書実習にともなう展示見学



緑川河口干潟の環境調査



たらぎ財団と連携した多良木町特産品のPR販売



宇城市役所と連携した宇城市の魅力を探る活動



照明アート ～ナイトミュージアムinお祭りであん館～

地域連携型学生研究制度

学生研究を企業や社会と連動させたプログラム

地域連携型学生研究制度とは、地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、それを学生が地域連携型学生研究として取り組むものです。

学生は、地域が抱える問題に取り組むことで、社会人としての演習の場になり、実社会における知識活用のあり方、コミュニケーション力、問題分析・解決力などを会得していきます。



公開審査会

令和8年度 地域連携型学生研究 マッチング成立テーマ一覧

連携先企業・団体	研究テーマ	学部	担当教員
1 熊本市	住民目線で考えた公共施設の情報のありかた(公共施設の見える化)	環境共生学部	佐藤 哲
2 玉名商工会議所 玉名市	地域共創型社会調査:玉名市の持続可能な“商いの未来”を拓く学生提案プロジェクト ～人口減少・高齢化社会における商工業振興の新機軸を求めて～	総合管理学部	本田 藍
3 山鹿市	地域ブランドの形成プロセスに関する研究 ～「やまが和栗」の地域団体商標登録を事例とした実践的活動～	総合管理学部	井寺 美穂
4 熊本市	多世代協働による地域づくりの手法に関する研究 ～地域のこどもと大人が連携した課題探究学習が地域コミュニティに与える影響～	総合管理学部	井寺 美穂
5 天草市	産学官連携による地域内就職を高める取組みに関する研究	総合管理学部	井寺 美穂
6 宇土市	宇土市の情報発信が関係人口と地域経済に与える影響の分析と効果的な発信手法の提案 ～若者の視点を生かした実践的シティブロモーション研究～	総合管理学部	飯島 賢志
7 熊本日日新聞社	若者が熊日電子版で読みたいコンテンツは何か	総合管理学部	飯島 賢志
8 荒尾市	あらお海陽スマートタウンの体験価値発見とブランドコア形成に関する研究	総合管理学部	飯島 賢志
9 一般財団法人熊本県スポーツ振興事業団	熊本県民総合運動公園の利用者増加策の研究 ～動き盛り世代の運動実施率向上を図るコンテンツの開発～	総合管理学部	小園 和剛
10 株式会社 熊本シティエフエム	地域企業・地域社会の魅力発信に資するメディア活用のあり方 ～地域コミュニティ・メディア連携教育研究プログラム～	総合管理学部	宮園 博光
11 熊本県北広域本部 阿蘇地域振興局 公益財団法人 阿蘇グリーンストック	阿蘇の草原維持のための持続可能な「輪地切りボランティア」のあり方に関する研究	共通教育センター	森 裕生



制作した再興料理



制作した空き家に関するホームページ



草原ピラティスの様子

「共創の流域治水」に関する研究活動

令和2年7月豪雨の発生後、熊本県からの要請を受け、令和3年4月、学内に「緑の流域治水研究室」を設置しました(令和7年4月から「共創の流域治水研究室」)。

令和3年10月からは、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の採択を受けた研究プロジェクト(「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点)を開始。本学は、このプロジェクトの代表機関であり、地域に生きる大学として、被災地の復興と球磨川流域の持続的発展に寄与していきます。

持続的な地域構築を目指す研究開発課題

この研究プロジェクトは、「共創の流域治水を核とした、大災害後も安全・安心に住み続けられ、豊かな環境と若者が残り集う、持続可能な地域の実現」を地域ビジョンとして掲げ、以下の4つをターゲットとする6つの研究課題を設けて研究活動を行っています。



流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点

ビジョン

共創の流域治水を核とした大災害後も安全・安心に住み続けられ、豊かな環境と若者が残り集う持続可能な地域の実現

研究ターゲット

水害に
安全・安心な地域

豊かな環境と
恵みのある暮らし

若者が
残り集う地域

多世代共創による
流域治水の推進

研究開発課題

研究開発課題0
総合マネジメント

研究開発課題1
流域治水技術の
開発

研究開発課題2
流域治水
×環境再生/
森林マネジメント

研究開発課題3
流域治水
×IoT/DX

研究開発課題4
流域治水
×産業創生

研究開発課題5
パートナーシップに
よる流域治水の推進

「共創の流域治水」とは？

流域全体を対象に、ハード面だけでなく、ソフト面での対策も充実させる治水対策を「流域治水」といいます。流域内のすべての場所を対象とするため、地域との協働により実施することが求められます。「共創の流域治水」は、この対策に環境的な視点を組み込み、多様な共創により、持続的な地域づくりや環境保全にもつなげる治水対策です。



県立南校高校に整備した雨庭



県立大学内に整備した
国内最大級の実験水路



中学生を対象とした勉強会
(ワークショップ)



地域共創拠点
ホームページ

世界に伸びる

国際教育(学部生対象)

もやいすとグローバル育成プログラム

グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる能力を養うプログラムです。1年次から4年次までの体系的な学びとグローバルな視点を持つため海外インターンシップ等を促進し、世界でも活躍できる学生を育成します。

本プログラムの参加学生には、英語で熊本や日本の文化、自然、社会等について学ぶ「Kumamoto Studies」、海外で課題解決型研修やインターンシップ等を行う「Moyaist Global Project」等のユニークな専用科目が用意されています。これらの科目を履修することで、①コミュニケーション能力(語学力・情報発信力)、②主体性、柔軟性、責任感、③多文化共生に対する理解を身に付けることができます。

もやいすとスーパーGlobalの認定を受けた学生



環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻4年
中村 明日佳さん
 (熊本県立第二高等学校出身)

国際交流に関心があり、実践的な英語を体系的に学ぶことができると思ったため、このプログラムに参加しました。Global Loungeカフェイベントをはじめとした国際交流活動や様々な授業を通して、自分の考えを英語で伝える力や主体性が身についたと実感しています。特に、Global Loungeのイベントでは、海外で活動している方のお話を聞いたり、留学生との交流を深めたりすることができました。学部を問わず参加でき、自分の所属している専攻の学びに大いに活かされた点も良かったと感じています。

「Moyaist Global Project」に参加した学生



文学部英語英米文学科4年
木崎 綾香さん
 (真和高等学校出身)

このプログラムに参加したことで、私は人生の原動力に出会うことができました。授業では、仲間と楽しく語学や異文化理解の学びを深め、シドニーでのインターンシップとホームステイでは、実際に多様な価値観にふれ、世界観が広がりました。また、幸せに生きるため、前向きに、かつ積極的に行動していくことの大切さに気づきました。このプログラムを通して得た知見は、帰国後も私の検証的思考を養う一助となっています。みなさんも、このプログラムで、大いなる刺激と感動を味わってみてください。

Intensive English

英語運用能力を高めることを目的に、英語漬け環境で短期集中的に英語を学びます。期間中は英語のみを使用するルールのもと、学内学修と留学生を加えて行う合宿形式の学修とを組み合わせで行っています。講義やディスカッションだけでなく、留学生と一緒にゲームやパフォーマンスなどで異文化理解を深めます。



TOEIC® IP 2年生全員受験の実施

本学では、各団体が日程や場所を自由に設定して試験を行うことができるTOEIC® (Test of English for International Communication) の団体特別受験制度 (TOEIC® IP) について、後援会と共催で実施している任意受験を年に2回、全学部2年生を対象とした全員受験を年に1回実施しています。

2023年度から実施している全員受験については、大学が受験費用を全額負担するため、学生は受験料の負担なく受験できます。

英語学習用のe-learningシステム

本学では、学生の英語能力の向上を図るため、英語学習用のe-learningシステム (Reallyenglish) を導入しています。総合的な英語力をバランスよく強化しながら、苦手分野を克服することで自信をつけていきます。さらに、TOEIC® のスコアアップも目指すことができます。大学が受講費用を全額負担するため、全学部1,2年生は受講料の負担なく利用できます。

国際教育(大学院生対象)

高度グローバル人材育成 (大学院教育)

令和元年度(2019年度)において、JICAと熊本県が締結した「熊本県と独立行政法人国際協力機構との連携協定」に県の発展に貢献する人材の育成が盛り込まれたことなどを踏まえ、本学ではグローバル人材育成を積極的に推進し、学部教育だけでなく、大学院教育においても、海外体験(国際協力・貢献活動)と大学院の専門教育を実施し、熊本のグローバル化に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。

概ね2年間の国際協力・貢献活動がある方への入試制度として社会人特別選抜(国際協力枠)を、また、大学院在学中に1年間の国際協力・貢献活動を経験する大学院教育を、JICAとの覚書を締結し制度化しました。大学院修了後は、熊本県内の企業、行政機関等において、熊本のグローバル化をリードする人材として活躍してほしいと考えています。



大学院アドミニストレーション研究科 博士後期課程

弥永 真以さん
 (大牟田高等学校出身)

大学卒業後、未知の環境に身を置き、新たな学びを得るために大学院へ進学しました。担当教員のサポートのもと、本プログラムを活用しJICAボランティアに挑戦しました。

インドネシアで「環境教育」活動に取り組み、地域の学校を巡回しながら、ごみの分別について子どもたちや先生方と理解を深めました。現地では、ゴミの問題や貧富の差など、日本とは異なる社会課題を目の当たりにし、生活様式や価値観の違いを実感する機会が多くありました。日本と同じ方法や考え方で解決が難しい場面も多く、相手の背景や地域の状況を理解し、柔軟に向き合う姿勢の重要性を学びました。

言葉の壁や生活の不便さもありましたが、周囲の人々が手を差し伸べてくれました。このプログラムに参加して、現地の方々の温かさに支えられ、人は支え合いながら生きていくことを深く体感しました。

今後は、グローバルな視野を持ちながら、誰もが心豊かに暮らせる社会を目指していきたいと考えています。“Think globally, act locally”の精神を大切に、周囲と協力しながら、よりよい地域社会の実現に貢献していきます。

2022年3月 総合管理学部 総合管理学科卒業
 2022年4月 大学院アドミニストレーション研究科 博士前期課程入学(2025年3月同科卒業)
 2024年2月~9月 JICA海外協力隊 インドネシア派遣 職種:環境教育
 2025年4月 大学院アドミニストレーション研究科 博士後期課程入学

国際交流

学部生・大学院生の受入れ

これまで、米国・韓国・中国・インドネシア・台湾・ベトナム・タイ・タンザニア・ブラジル・モンゴル・ガーナ・ミャンマー・スーダン・アフガニスタン・パキスタンからの留学生を学部生、大学院生、研究生、特別聴講学生(交換留学生)として受け入れてきました。

	学部	大学院	研究生	特別聴講学生	計
留学生数	2	10	1	5	18

(2026年5月1日現在)

短期研修団の受入れ

祥明大学校やカセサート大学から語学学習と文化体験を目的とした研修団を受け入れており、本学の学生と交流を行っています。



祥明大学校短期研修団との交流



カセサート大学短期研修団との交流

学生交流協定校・学術交流協定校

学生交流協定校

- 【アメリカ】 モンタナ州立大学ビルングス校
- 【韓国】 祥明大学校
- 【台湾】 開南大学







学術交流協定校

- 【アメリカ】 モンタナ州立大学ボーズマン校、チャタム大学、モンタナ大学
- 【韓国】 海洋大学校、ソウル市立大学校
- 【タイ】 ワライラック大学、カセサート大学
- 【中国】 広西大学
- 【台湾】 国立台北科技大学、中原大学
- 【インドネシア】 ブラウウィジャヤ大学
- 【フィリピン】 デラサル大学CIESOL (ESLプログラム)

海外留学・研修

学生交流協定締結校

右記の大学とは、単位互換及び授業料相互不徴収の協定に基づき交換留学生の相互派遣を行っています。

	 韓国	 アメリカ合衆国	 台湾
大学名	祥明大學校 	モンタナ州立大学ビリングス校 	開南大學 
締結日	1997年2月	1997年9月	2025年3月
派遣期間	10ヶ月間	9ヶ月間	10ヶ月間

交換留学体験談



総合管理学部総合管理学科4年
長尾 悠生さん
(真和高等学校出身)
留学先: 祥明大學校

私は韓国の祥明大學校に約10か月間留学しました。独学で韓国語を学び、国際交流活動に参加する中で「挑戦したい」という思いが強くなり、留学を決意しました。留学中は専攻にとらわれず、陶芸やドイツ語など、これまで触れたことのない分野の授業にも挑戦しました。また、学科のサークル活動では自ら企画を立案し、日本と韓国の文化を紹介し合う交流の場を作りました。留学を通して国籍を越えた友人ができ、多様な価値観に触れながら、新しいことに挑戦する楽しさと、自ら一歩踏み出す力を身につけることができました。



文学部英語英米文学科4年
中屋敷 寧々花さん
(大分県立大分鶴崎高等学校出身)
留学先: モンタナ州立大学ビリングス校

私はモンタナ州立大学ビリングス校に9か月間交換留学生として在籍しています。初めは不安もありましたが、同じく留学生の友達やビリングス校のスタッフの方々がいちいち親切にサポートしてくださるので、とても充実した留学生活を送ることができています。モンタナ州は文化も自然も豊かで、ここでしかできない体験がたくさんあり、毎日が新鮮で刺激的です。私はこの留学生活を通して英語力の向上はもちろん、異文化理解や自己理解も深まっていると感じています。今後はこの経験を生かして、さらに視野を広げて活動していきたいです。



文学部英語英米文学科4年
林田 恋々さん
(熊本県立熊本商業高等学校出身)
留学先: 開南大學

私は台湾の開南大學に交換留学生として在籍しています。ここでは英語と台湾華語の二言語を同時に学ぶことができ、語学力を実践的に高められる環境が整っています。また、台湾人だけでなく、日本人やフィリピン人、ベトナム人、モンゴル人など多様な国籍の学生が集まっており、日々の交流を通して多くの刺激を受けています。何より周囲の方々がとても親切で温かく、その支えの中で安心して学び、生活できています。新たな価値観に触れながら、充実した毎日を過ごしており、台湾留学を選んで本当によかったと感じています。

短期研修

韓国・祥明大學校には1週間、アメリカ・モンタナ州立大学ビリングス校には4週間、タイ・カセサート大学には2週間の語学学習と文化体験を目的とした研修団を派遣しています。また、フィリピン・デラサール大学の附属機関による3週間のオンライン留学プログラムも提供しています。



祥明大學校短期研修



モンタナ州立大学ビリングス校短期研修



カセサート大学短期研修

留学支援

- オフィスアワー (P72) を利用して、留学経験のある教員に留学等の相談をすることができます。
- 協定校への留学を希望する学生に対し、留学制度や奨学金の説明会を実施しています。留学経験のある学生に話を聞くこともできます。
- 留学を希望している学生に対し、海外の大学での授業や生活についてのアドバイス等を行う「留学対策講座」を開講しています。
- 学生交流に関する協定に基づき、派遣される交換留学生については「短期派遣留学生支援奨学金」を、文学部英語英米文学科、グローバル・スタディーズ学科、又は文学研究科英語英米文学専攻に在籍する者で一定期間以上の留学・研修を行う学生に「小辻梅子奨学金」を支給しています (P83)。
- 海外への留学・研修を行う学生 (後援会会員のみ) に、期間に応じた助成金を支給しています。



留学・研修プログラム説明会

語学教育支援

Global Lounge

Global Loungeでは、楽しみながら語学を学ぶことができます。語学学習に役立つ様々な教材が利用できるだけでなく、海外をテーマにしたイベントも定期的に開催しており、留学に興味のある学生や国際交流に関心のある学生が多く利用しています。

Café Event



Café Eventとして、留学生による出身国の紹介、JICA海外協力隊経験者の講演など、国際的なビジョンが広がるようなイベントを開催しています。

Lunch Time Social



留学生との交流イベントとして、Lunch Time Social (ランチタイム交流会) を毎月1回開催しています。日本語・英語・中国語・韓国語等で留学生と気軽にコミュニケーションを図ることを目的としています。

語学教材貸出



- 各種語学検定 (TOEIC®・TOEFL®・英検・中検・TOPIK等) 関連書籍、洋書、英字新聞、雑誌、旅行ガイドブック、英語で日本文化を紹介する本等の閲覧・貸出を行っています。
- 外国の映画やドラマのDVDやBlu-rayを多数用意しており、自由に鑑賞することが可能です。

学習スペースの提供

- 英語ニュースサイトのニュース動画を視聴するスペースがあり、常に英語に触れる機会を提供しています。昼休みや空き時間に利用することで、リスニング力向上を目指すことが可能です。
- イベント開催中を除き、自由に個人やグループでの学習スペースとして利用することができます。
- 海外のボードゲーム等も取り揃えていますので、気軽に楽しみながら外国語を学ぶことができます。



留学生との交流

学生の皆さんに、異文化理解や語学学習の機会を提供することを目的として、留学生による語学講座 (英語・中国語・韓国語等) を開講しています。また、Global Loungeでのイベントの他、留学生と学内外の国際交流イベントに参加し、交流を深める機会もあります。



留学生による語学講座



白亜祭 (学園祭) への参加

国際教育交流センター

国際教育交流センター概要

国際教育交流センターは、国際交流や国際教育・貢献活動を通じたグローバル人材の育成に取り組んでいます。

主な所管業務

- 国際教育の企画・調整／高度グローバル人材育成のための国際協力・貢献活動を終えた者の受入れ支援及び国際教育・貢献活動を組み込んだ大学院教育の実施支援
- 国際交流の推進／海外協定校との交流・学生の留学及び受入れ留学生の支援等
- 語学教育の支援／Global Loungeの運営・Café Eventの開催等



共通教育センター

Center for General Education

文学部

Faculty of Letters

- 日本語日本文学科 Department of Japanese Language & Literature
- グローバル・スタディーズ学科 Department of Global Studies

環境共生学部

Faculty of Environmental & Symbiotic Sciences

- 環境共生学科環境資源学専攻 Division of Environmental Resources, Department of Environmental & Symbiotic Sciences
- 環境共生学科居住環境学専攻 Division of Human Habitat, Department of Environmental & Symbiotic Sciences
- 環境共生学科食健康環境学専攻 Division of Food & Health Environmental Sciences, Department of Environmental & Symbiotic Sciences

総合管理学部

Faculty of Administrative Studies

- 総合管理学科 Department of Administrative Studies

New 半導体学部

Faculty of Semiconductor Studies

- 半導体学科 Department of Semiconductor Studies

※2027年4月新設予定。学部・学科名は仮称。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。



共通教育センター



「人文科学、自然科学、社会科学、工学の集約型大学」である熊本県立大学の特色を生かした共通教育で、「地域に生き、世界に伸びる」人材の育成をめざします。

共通教育は、基盤科目と教養科目の2つのカテゴリーから成っています。基盤科目としては「外国語(英、独、仏、中、韓)」、「情報処理とデータサイエンス」、「キャリアデザイン」、「健康スポーツ科学」、「地域理解とリーダーシップ」の分野を用意し、大学そして社会で行動していくための基礎能力の育成を行います。現代社会は複雑・多様化しています。教養科目では「人文科学」、「自然科学」、「社会科学」が集約された本学の長を生かし、それぞれの学問分野から多くの授業を開講しています。これらを共通教育を通して市民性の涵養を図るとともに、現代社会をとらえる見方や考え方の育成をめざします。

細分化が進む現代社会だからこそ、豊かな人間性と物事を的確に判断する能力が求められています。本学では複雑化した現代社会を見る豊富な科目で「地域に生き、世界に伸びる」人材を育成します。

共通科目群

基盤科目

外国語

本学の外国語教育では、国際共通語としての英語の実践的側面に力を入れ、国際共通語としての英語の運用能力の向上を目標としています。また、初修外国語として「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」の科目を開講し、聴き、話し、読み、書く総合力を養成し、外国の書籍を読み、それらの持つ豊かな内容の理解を目指します。



- 科目：英語／ドイツ語／フランス語／中国語／韓国語

情報処理とデータサイエンス

近年の情報ネットワークシステムの基本構成や使用法、その使用にあたっての情報モラルやセキュリティについて学び、情報機器の基本的な操作を学習します。また、様々な場面でデータに基づく意思決定ができる基礎的な能力を養うこと、すなわちデータ思考の基礎を涵養することを目指します。



- 科目：情報処理入門／データサイエンス入門／データサイエンス演習

キャリアデザイン

大学で何をいかに学ぶか、その姿勢や方法を学ぶとともに、自己のキャリアを継続的にデザインし続けていく能力を育成します。

- 科目：プレゼミナール／キャリア形成論／キャリア体験演習

健康スポーツ科学

運動・スポーツ活動の健康に対する有用性について理解を深め、将来にわたって心身ともに健康な生活の設計と実践ができる能力を育成します。



- 科目：健康の科学／生涯スポーツ実習

地域理解とリーダーシップ

地域の抱える課題に関心を持ち、地域の人々と協働して課題解決の方策を考える、地域づくりのキーパーソンを育成します。「もやいす」と育成システムもこの分野で展開します。また、授業によっては、地元企業の経営者や熊本県庁職員等多くの外部講師を招へいし、地域社会の今を紹介します。

- 科目：もやいすジュニア・シニア育成／新熊本学：ことば、表現、歴史／新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ など

共通科目群

教養科目

人間と文化

人間の感情や判断は、その人が育った時代や地域の文化の影響を強く受けています。思想、宗教、歴史、芸術、文学、言語などを学びつつ、人間の思考がいかに形成され、表現されてきたのかを考察し、その考察を通して人間の本質への洞察力を高めることを目指します。



●科目：科学の思想／現代世界と歴史／人間と芸術／心理学入門 など

自然と環境

現代の基礎科学に関する知識を修得し、それが先端技術として生活にどのように利用され、今後どのように活用されていくのかを考えます。また、現代社会が抱える環境問題について、多角的に考察します。



●科目：環境と生物圏／エネルギーと社会／住まいと地域環境／食と健康など

社会と世界

法律、政治、経済、情報等様々な要因から規定されている社会が我々の生活にどのように関わっているのかを学び、社会が抱えている課題とその解決策を考察します。また、グローバル化が進展する現代世界における経済問題・国際関係についての理解を通し、我が国の国際的位置付けや役割等について考察し、国際人としての見識を養います。



●科目：生活と憲法／地域社会と企業リーダーシップ論／情報と社会／マスメディア論／世界の経済／国際協力論 など

キャリアデザイン科目

プレゼминаール

大学で学ぶ楽しさと難しさに触れる

大学で何をいかに学ぶかという学び方や大学生活の過ごし方を、演習を通して学ぶ「プレゼминаール」を1年次前期の必修科目として開講しています。

10名程度の少人数のゼミ形式で実施され、学生同士、あるいは教員と学生がお互いに考えていることや感じていることを述べあい、刺激しあい、切磋琢磨しあう場として、大学教育への全般的な案内、導入～図書館等の施設の利用法～レポート/論文の書き方、グループワーク、プレゼンテーションなどを学んでいきます。

キャリア体験演習

企業・自治体等の現場で実際の仕事を体験する

キャリアデザイン科目の一つとして、通常の講義では得られない実践的な教育プログラム「キャリア体験演習(全学共通、自由科目)」を用意しています。本授業は、大学と地域の企業や自治体が協働し、学生の希望とマッチングして実施するものです。事前ガイダンス～インターン実施～レポート作成を通して就業観を醸成していきます。



グループワークを実践する学生



キャリア体験演習ガイダンス

キャリア形成論

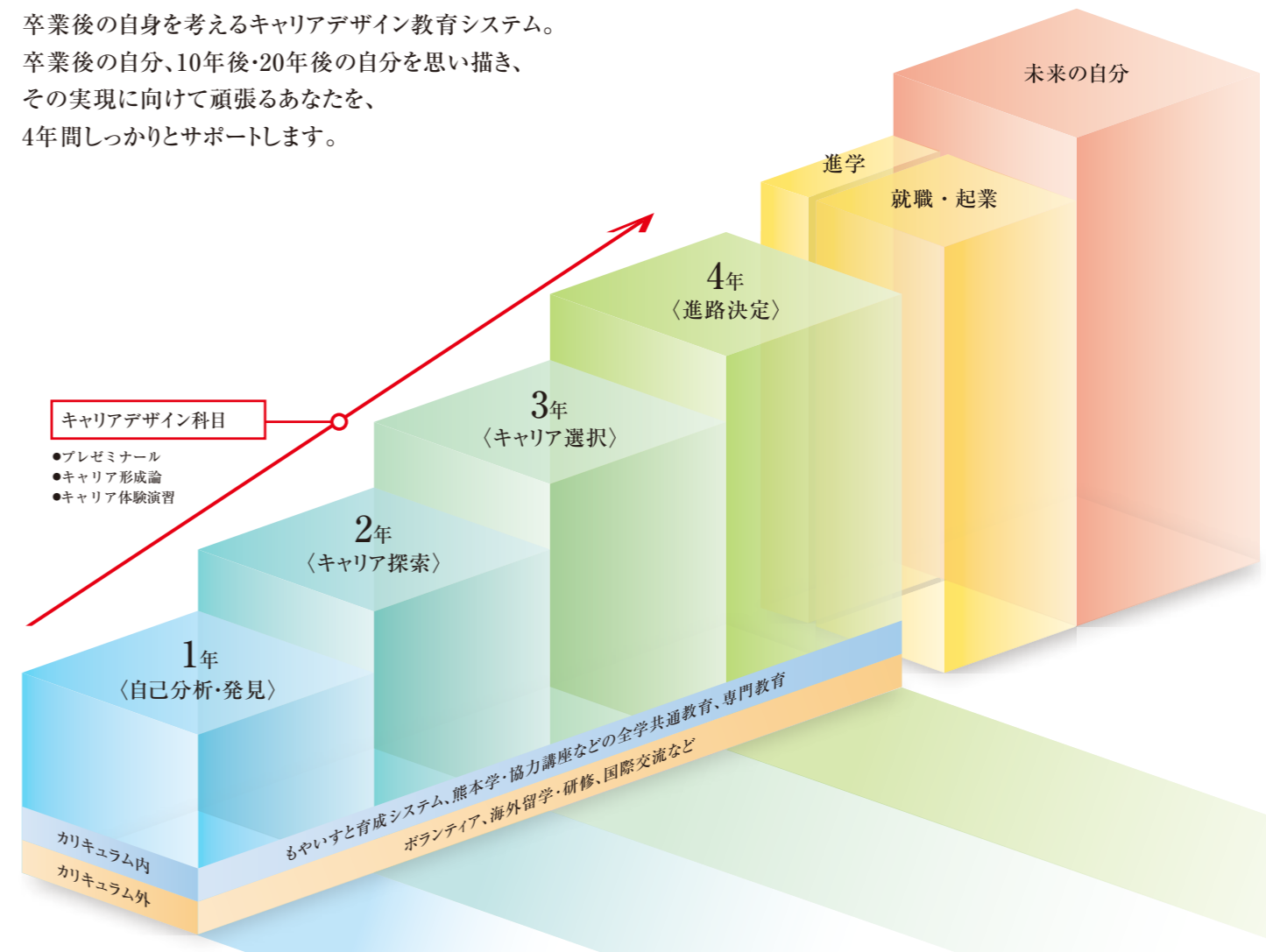
振り返りを通して大学での学びや卒業後のキャリアを考える

現代社会は急速に変化し、ますます複雑化しつつあり、不確実な事象も増えています。このような社会を生き抜くためには、学生自身が自らの経験や価値観を振り返りながら主体的に検討することが大切です。その土台作りのために、「キャリア形成論」を1年次前期の必修科目として開講しています。

「キャリア形成論」では、理事長、学部長、学長、さらに上級生、卒業生との対話を通じて、大学での学びをどのように進めるかを自身の経験を振り返りながら検討します。また、ライフデザインやキャリアデザインに関する講義やワークを通じて、在学中だけでなく卒業後の成長やキャリアの展望についても深く考察します。

キャリアデザイン教育システム

充実した共通教育・専門教育のカリキュラムと様々な就職支援・資格試験対策などのプログラムを中心とし、これまでの活動を振り返りながら学生生活だけでなく卒業後の自身を考えるキャリアデザイン教育システム。卒業後の自分、10年後・20年後の自分を思い描き、その実現に向けて頑張るあなたを、4年間しっかりとサポートします。



キャリア形成 就職支援	1年	2年	3年	4年																	
	キャリア形成論 プレゼминаール キャリア体験演習	キャリア体験演習 公務員ガイダンス	キャリア体験演習 就職セミナー 企業・公務員説明会	個別企業説明会 就職セミナー																	
	進路・就職相談																				
キャリアサポート	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>文学部</th> <th>環境共生学部</th> <th>総合管理学部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員免許</td> <td>【日文】 中学 (国語)、高校 (国語) 【GS】 中学 (英語)、高校 (英語)</td> <td>中学 (理科)、高校 (理科) 中学 (家庭)、高校 (家庭) 高校 (農業)、栄養教諭 ※食のみ</td> <td>中学 (社会)、高校 (公民) 高校 (情報)、高校 (商業)</td> </tr> <tr> <td>資格等</td> <td>受験資格 任用資格 取得可能資格 など</td> <td>【日文】 日本語教員養成課程 (主専攻) 【GS】 日本語教員養成課程 (副専攻)</td> <td>【居住】 一級建築士、二級建築士 一級建築施工管理技士、二級建築施工管理技士 【食】 栄養士、管理栄養士 食品衛生監視員および食品衛生管理者</td> <td>社会福祉主事 社会調査士</td> </tr> <tr> <td>受験対策実施</td> <td colspan="2">【GS】 TOEIC®、TOEFL®</td> <td>【資源】 環境計量士</td> </tr> </tbody> </table>					文学部	環境共生学部	総合管理学部	教員免許	【日文】 中学 (国語)、高校 (国語) 【GS】 中学 (英語)、高校 (英語)	中学 (理科)、高校 (理科) 中学 (家庭)、高校 (家庭) 高校 (農業)、栄養教諭 ※食のみ	中学 (社会)、高校 (公民) 高校 (情報)、高校 (商業)	資格等	受験資格 任用資格 取得可能資格 など	【日文】 日本語教員養成課程 (主専攻) 【GS】 日本語教員養成課程 (副専攻)	【居住】 一級建築士、二級建築士 一級建築施工管理技士、二級建築施工管理技士 【食】 栄養士、管理栄養士 食品衛生監視員および食品衛生管理者	社会福祉主事 社会調査士	受験対策実施	【GS】 TOEIC®、TOEFL®		【資源】 環境計量士
	文学部	環境共生学部	総合管理学部																		
教員免許	【日文】 中学 (国語)、高校 (国語) 【GS】 中学 (英語)、高校 (英語)	中学 (理科)、高校 (理科) 中学 (家庭)、高校 (家庭) 高校 (農業)、栄養教諭 ※食のみ	中学 (社会)、高校 (公民) 高校 (情報)、高校 (商業)																		
資格等	受験資格 任用資格 取得可能資格 など	【日文】 日本語教員養成課程 (主専攻) 【GS】 日本語教員養成課程 (副専攻)	【居住】 一級建築士、二級建築士 一級建築施工管理技士、二級建築施工管理技士 【食】 栄養士、管理栄養士 食品衛生監視員および食品衛生管理者	社会福祉主事 社会調査士																	
受験対策実施	【GS】 TOEIC®、TOEFL®		【資源】 環境計量士																		
支援機関	共通教育センター	キャリアセンター	図書館	デジタルイノベーション推進センター 国際教育交流センター																	

※本授業以外に、企業等主催の公募型インターンシップ等についても、キャリアセンターで紹介しています。

日本語日本文学科

Department of Japanese Language & Literature



[学科の特色]

日本語日本文学科は、基本的に日本文学・日本語学・日本語教育学の3つの領域で構成され、日本の文学作品やことばの研究を通して、文化の継承性を問い、深く人間を見つめていく力を養成する学科です。日本の古代から近代に至る文学作品、古代語から現代語までを対象に、歴史的・文化的背景をも視野に入れて、読解・分析の能力を育成するために、文学・語学とも各時代・分野をカバーできるスタッフを擁し、系統立ったカリキュラムを組んでいます。

本学科では、上記3領域の学修を基礎とした上で、卒業論文に向け、特に熊本・九州その他の地域文化を研究対象に選んだり、歴史・思想など隣接する領域と関連づけた研究や異文化との比較研究もできるようになっています。

少人数での演習や特殊研究によって学生個々の問題意識に合わせた指導が展開されることに加え、各地の方言や古典籍・近代文学資料の調査、国内外での日本語教育活動等、学外での実践的な取組が活発なことも特色の一つです。

■ 詳しくは学科ホームページをご覧ください。
<https://jll.pu-kumamoto.ac.jp/>

[日本語日本文学科 4年間の学び]

1年次

将来のキャリア形成に関する意識を醸成し始め、各種の「概論」「基礎論」を通して、日本語学・日本文学研究のための基礎的な知識を身につけます。併せて各時代の「文学史」や「講読」により、文学・語学研究に用いる資料への関心を喚起します。また、歴史・言語・思想の面から、広く人文学にわたる基礎的な知識と思考法を身につけ、ことばと作品を扱うための基盤を養います。

2年次

各分野の知識を補いつつ、「演習」により、知識の応用と思考・判断、資料操作と発表の経験を積み重ねます。この経験を通して、文章を正確に読解しまとめる力と、自らの考えを精緻かつ効果的に伝える表現力を養います。これらの力の育成に特化した「アカデミックスキル」の受講も有効です。なお、研究力をバランスよく身につけるため、「演習」は語学・文学の両分野からそれぞれ1科目を必修としています。

3年次

各自の関心に合わせた卒業論文の執筆を見ずして、「特殊研究」の分野を選択します。人文学分野を含む「演習」による訓練も継続しながら、テーマに応じた問題の切り口を探し、分析と論述の実践を重ねていきます。併せて、関心を内面的なものに留めず、外に向けて論理的に発信しようとする態度を身につけます。

4年次

1~3年次での学修成果の集大成として、卒業論文に取り組みます。また学生各自の必要に応じ、知識や思考、技能のための科目を補完的に履修することができます。卒業論文への取り組みを通じ、日本語・日本文学に関する自発的な関心をもとに、それまで得た知識と分析力を駆使し、論理的に考えをまとめる力を育みます。併せて、社会生活に必要な思考力・判断力・表現力を体得します。

[開講科目(専門科目)]

		1年次	2年次	3年次	4年次
人文基礎	人文基礎	歴史基礎論 / 言語基礎論 文学研究への招待 / 知識と方法			
	日本語学	日本語概論	日本文法 / 方言学基礎論 現代日本語の分析	日本語史 / 日本語学史	
主要科目	日本文学	文献学基礎論 / 文学研究法基礎			
	日本文学	古典文学史 / 近代文学史 / 古代文学講読 中世文学講読 / 近世文学講読 / 近代文学講読			
	日本文学	地域文献講読			
	日本文学	漢文学史			
日本語教育	日本語教育	日本語教授法			
	日本語教育	地域踏査演習	アカデミックスキル		
関連分野	関連分野	書道(講義) / 書道(実技)	古典文化研究 / 言語文化研究 近代文化研究 / 近代地域文化研究 / 日本古典文化論		
	関連分野				
学部共通科目	学部共通科目	情報処理発展 / 日本文化論 / 西洋文化史 / 地域文化研究 / 文化人類学 / 歴史学講義 / 日本文化史講義 / 中国文化論 比較文学講義 / 中国文学史 / 日中比較文学 / 日本語教育教材研究 / 日本語教育評価法 / 心理学講義 / English Grammar Introduction to English Linguistics / History of English Language / 異文化コミュニケーション論 / Junior Seminar / 英語文学多読入門			
	学部共通科目		日本語学 / 日本文学 / 日本語教育 / 複合		
演習	演習			人文学(歴史学、思想史、中国文化論 日本文化論、異文化コミュニケーション)	
	演習			日本語学 / 日本文学 / 日本語教育	
特殊研究	特殊研究			人文学(歴史学 中国文化論、日本文化論、 異文化コミュニケーション)	
	特殊研究				
卒業論文	卒業論文				卒業論文

取得資格

教職課程の履修により、中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)を取得できます。



文学部日本語日本文学科4年 鶴田 琴梨 さん (熊本県立熊本北高等学校出身)

私は、伝え方一つで変わる言葉の面白さや、思考と結びつく言語の仕組みに興味を持ち、言語や文学について学べる日本語日本文学科へ進学しました。現在は日本語学を専攻しており、中でも卒業論文のテーマである短縮語について学んでいます。

特に印象に残っている科目は「日本語学演習Ⅷ」です。この授業では公共空間にある看板や掲示物などにみられる言葉、「言語景観」を調査します。私は熊本市と福岡市で飲食店の看板を比較しましたが、自分の足で一次情報を集める経験はとても刺激的でした。一見難しそうなの「日本語学」ですが、身近な風景の中にも学びの種があることを実感しました。また学業の他には、友人と談笑したり、授業後はアルバイトに励んだりメリハリのある学生生活を送っています。

本学は「学びたい」という意欲に親身に応えてくれる場所です。授業の質問では先生方が丁寧に答えてくださり、基礎から発展的なことまで専門的な知見を交えて深く教えていただけます。ゼミや卒業論文でも手厚い指導を受けられることが大きな魅力です。

受験期は悩みが尽きない時期だと思いますが、皆さんがこの場所で、心からやりたいことを見つけられるよう応援しています。



複合演習



インドネシア ブラウウィジャヤ大学での日本語教育実習

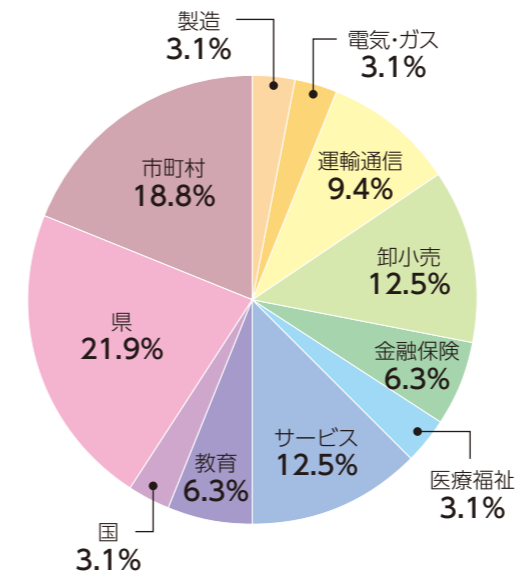


日本語学特殊研究

[卒業後の進路]

民間企業や事務系の公務員、国語科教員や日本語教師が考えられます。民間企業では学科で培った問題解決能力やコミュニケーション能力を生かし、教育や出版関係をはじめ幅広い職種での活躍が期待されます。もちろん大学院への進学も可能です。

業種別就職状況(2025年度)



進路一覧(2024~2025年度)

● 就職

- 【製造】MFフィード、種商
- 【電気・ガス】西部瓦斯熊本株式会社
- 【運輸通信】アクシスリンク、植松商事、熊本計算センター、熊本日日新聞社、ティーユーシー、日本郵政グループ、南日本リビング新聞社
- 【卸小売】アインホールディングス、イオンリテール、熊本ダイハツ販売、コスモス薬品、サザビーリーグ、三和ペイント、ナフコ、ヤマダホールディングス
- 【金融保険】鹿児島県農業共済組合、日本銀行、全国共済農業協同組合連合会熊本県本部、肥後銀行、Liv. Design
- 【不動産】大東建託リーシング、明和不動産
- 【医療福祉】独立行政法人地域医療機能推進機構、ベネッセスタイルケア
- 【サービス】ウィルオブ・ワーク、全国健康保険協会、日本郵便、南出キカイ、ワールドインテック
- 【教育】慶誠学園、ヒューマンアカデミー、宮崎総合学院
- 【国】厚生労働省熊本労働局
- 【県】熊本県教育委員会、大分県教育委員会、長崎県教育委員会、広島県教育委員会
- 【市町村】熊本市、熊本市教育委員会、荒尾市、浦安市

● 進学

熊本県立大学大学院文学研究科日本語日本文学専攻



【勤務先】

熊本日日新聞社 記者

2025年3月
文学部日本語日本文学科卒業

江崎 萌 さん
(八女学院高等学校出身)

「文学部は不要」「就職に役立たない」と言われることもありますが、私はそう思いません。それは、日本語日本文学科での学びを通して培った力が、今の仕事にも強く生きているからです。

本学科では、文学作品の考察をする際に複数の文献を参照します。異なる語釈や解釈に触れることで、作品と真剣に向きあう忍耐強さが育まれ、主題に対する見識も広がります。山東京伝の『化物和本草』を読んだ『歴史学講義』ではそれらを強く実感しました。私は「温飴げの花」という段を担当しましたが、辞書や江戸時代の料理に関する文献など約20冊を調べたことで、安価な「餛飩」と希少な「優曇華の花」という対照的な組み合わせが滑稽さを生み出していると気がきました。

私は現在、熊本日日新聞社で記者として働いています。異なる立場の人に話を聞き、客観的に判断して記事を書くこの仕事は、大学での学問とも重なります。議会の予算や緑茶の生産など未知の分野に苦戦する日々ですが、複数に取材し詳細を確かめることで、より深く追求したニュースを届けられるように努めています。

本学科で獲得した学びは、社会に出ても活かすことができる一生の財産です。日本文学や日本語学等に関心がある皆様が本学科の扉を開き、充実した学生生活を送ることを願います。

グローバル・スタディーズ学科

Department of Global Studies



[学科の特色]

グローバル・スタディーズ学科は、高度な英語運用能力とGlobal Competence(グローバル社会において、多様な価値観や文化の中で他者と協働し、より良い社会の実現に貢献する力)を身に付けることを目標としています。このため、English Communication科目群とGlobal Studies科目群を設けています。前者では、1年次から4年次まで継続する「English for Global Communication」科目等で卒業時まで徹底した英語運用能力の育成や批判的思考能力の養成を行います。各学年に到達目標を示し、4年次卒業までに730点のTOEIC®の目標スコアを設定します(1年次:550点、2年次:650点、3年次:690点、4年次:730点)。後者では、グローバル化への対応力の養成のため、異なる背景をもつ人々の考え、文化、歴史、社会に関わる世界の諸問題を英語で考え、議論、発信していく能力を育成する科目を配置しています。このほか、実践的学びの場として、オンライン留学や海外インターンシップ、様々な国際交流活動が用意されています。

3年次からは異文化コミュニケーション、文化人類学、英語教育、言語学、文学・文化、心理学などのゼミに分かれて専門領域の学びを深め、4年次には各領域の研究室に分かれて、英語で卒業論文を執筆していきます。

■ 詳しくは学科ホームページをご覧ください。
<https://gs.pu-kumamoto.ac.jp/>

[グローバル・スタディーズ学科 4年間の学び]

1年次・2年次	3年次	4年次
<p>1,2年次を通じて、高度な英語運用能力の理論的基礎となる、英語の歴史や文法等の知識を獲得するとともに、幅広くGlobal Competenceを身につけるための科目を配置します。また、国外の多様な文化、慣習、歴史、思想等について基礎的知識を得るための科目を配置します。</p> <p>特に1年次には、短期集中で英語運用能力の底上げ向上をはかるプログラムを配置します。</p> <p>2年次にはGlobal Competenceを身につけつつ、読む・書く・聞く・話す能力を実践的に高めていくよう、科目を設定します。</p>	<p>「読む・書く・聞く・話す」の4技能を実践的にさらに高めつつ、各自が卒業論文を意識したテーマ選択ができるよう、各種Seminarを配置し、専門に応じた情報収集能力、考察能力を獲得できるようにします。</p>	<p>3年次までに獲得した能力をもとに、卒業論文として論理的に文章を記述できるようにし、かつ要領よくその内容を英語で伝えられるようにします。</p>

[開講科目(専門科目)]

	1年次	2年次	3年次	4年次
人文基礎	歴史基礎論 / 言語基礎論 文学研究への招待 / 知識と方法			
	English for Global Communication			
English Communication	Reading & Writing		Research Writing	
	English for Critical Thinking			
	English Grammar	Introduction to English Linguistics	Linguistic Expression and Translation	
	English Phonetics	History of English Language	Introduction to English Education	
Summer English Program	Studying Abroad			
Global Studies	Global History	Seminar for Global Studies		
		Global Society		
		Intercultural Understanding		
	Global Media	Intercultural Communication		
	Introduction to Culture & Literature in English	Issues in Culture & Literature in English		
もやいすとグローバル育成プログラム		English for Moyaist Global		
		Kumamoto Studies	Moyaist Global Senior Training	Moyaist Global Project
学部共通科目	日本文化論 / 中国文学史 / 日中比較文学 / 地域文化研究 / 西洋文化史 / 歴史学講義 / 心理学講義 / 日本文化史講義 中国文化論 / 比較文学講義 / 異文化コミュニケーション論 / 文化人類学 / 現代日本語の分析 / 英語文学多読入門 日本語教育教材研究 / 日本語教育評価法 / 日本語学概論 / 日本語史 / 日本文法 / 日本語教授法 / 情報処理発展 歴史学演習 / 日本文化論演習 / 中国文化論演習 / 日本語教育演習 / 異文化コミュニケーション演習			
Seminars		Junior Seminar		Senior Seminar
卒業論文			卒業論文	

取得資格 教職課程の履修により、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)を取得できます。



文学部英語英米文学科4年 原田 希美さん (熊本県立天草高等学校出身)

私は幼少期の時に祖父母の家で受け入れていたホームステイの方との交流や、高校の時に海外の高校生と関わってきた経験から、国際交流に興味を持っていました。熊本県立大学では海外留学以外にも「もやいすとグローバル実践活動」を通じた海外インターシップや短期研修制度、またGlobal Loungeでの交流など多くの国際交流の選択肢があったため魅力を感じました。

現在は異文化コミュニケーションに力を入れて学んでいます。大学3年次の夏休みに「もやいすとグローバル育成プログラム」の一環でオーストラリアに5週間ほど行き、インターンとして働いた経験から、日本とオーストラリアを含む諸外国との違いについてより深く興味を持つようになりました。授業を通してcritical thinkingを意識しながら日々学んでいます。また印象に残っている科目として「英米文学通史講読」があります。英米文学作品について内容や文法だけでなく、作品の背景にある歴史や作者についても学ぶことができますので、さまざまな視点から作品を深く考えることができます。

授業以外では、ELLA(英語英米文学会)で委員長をしています。海外学生との交流や学科内のイベントの企画を行なっています。またアルバイトをして貯金したお金で旅行をしたり、よく友達とご飯を食べに行ったりしています。

大学では、今までと違い自分が興味のある分野について深く学ぶことができます。また、国籍や年齢を問わずさまざまな人と出会うことができます。受験期は大変なことも多くあると思いますが、その先には明るい未来が待っています。皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



Senior Seminar (異文化コミュニケーション)



Junior Seminar (英語学)

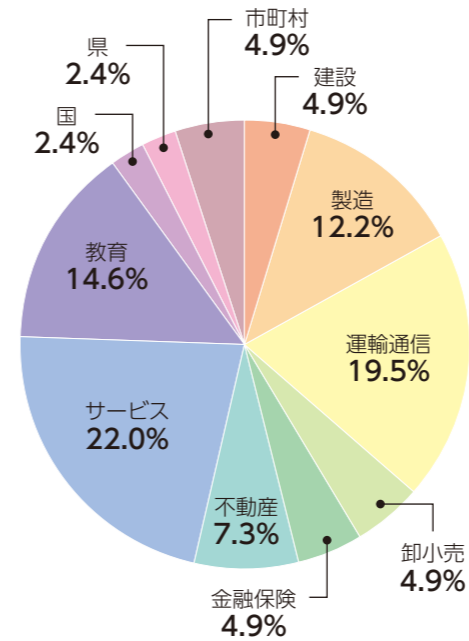


Seminar for Global Studies

[卒業後の進路]

英語運用能力やGlobal Competenceを生かし、国際展開している企業、旅行代理店、航空会社、ホテル、中学校・高等学校の教員のほか、様々な分野での活躍が期待されます。もちろん大学院への進学も可能です。

業種別就職状況(2025年度)



進路一覧(2024~2025年度)

● 就職

- 【建設】大和リース、トライアル開発
- 【製造】九州日立システムズ、杉養蜂園、西部電機、創健社、東京エレクトロン九州、トライグループ、ロック・フィールド
- 【運輸通信】アクティアス、あつまるホールディングス、ANA、IDOM、NCD、Classi、熊本計算センター、国際空港上屋、ジンジバ、DYM、テクノクリエイティブ、トランスコンテナ
- 【卸小売】イオン九州、宇都宮製作、熊本大同青果、鮮ど市場、富田薬品、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、福岡大同青果
- 【金融保険】損害保険ジャパン、日本生命保険相互会社、三井住友海上火災保険、楽天カード
- 【不動産】アイ工務店、東京都市開発、明和不動産
- 【医療福祉】SOMPOケア
- 【サービス】アパホテル、大分航空ターミナル、共立メンテナンス、くまもと新世紀、京急イーエックスイン、健軍神社、国際人材育成機構、GOTENリゾート、日本テーマパーク開発、阪急交通社、ホテル日航熊本、マーキュリー、リゾートトラスト、竜宮
- 【教育】開新学園、九州ルーテル学院、公文教育研究会、神戸学園、新日本海フェリー、総合資格
- 【国】熊本地方務局、財務省東京税関
- 【県】熊本県教育委員会、佐賀県警察本部
- 【市町村】熊本市、大分市

● 進学

- 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻、京都大学大学院人間環境学研究所、人間総合科学学術院人間総合科学研究群、立命館大学文学部地域研究学域



【勤務先】

JBS USA inc.

2020年9月
文学部英語英米文学科卒業

大関 彩香さん
(熊本県立熊本北高等学校出身)

卒業生からのメッセージ

高校時代に「将来は海外で働いてみたい」という夢を抱いていた私は、英語を体系的に学べる学部を探して本学を志望しました。英語英米文学科では、英語の運用力だけでなく、文化や言語の背景にある考え方で深く学ぶことができます。

1~2年生では英語文学や異文化コミュニケーションを幅広く学び、3年生からは自分の興味に合わせて分野を選べます。私は「言葉からその背景にある人の考え方を探る」認知言語学に強く惹かれ、専攻しました。

大学生活で特に印象に残っているのは、大学を1年間休学して経験したオーストラリアでのワーキングホリデーです。英語漬けの毎日、イギリス人のルームメイトに「I'm warming up to you」と言われ、「運動の話?」と聞き返して笑われたのは今でも良い思い出です。こうした言葉の違いから文化の奥深さを感じられるのも、英語を学ぶ楽しさの一つでした。

その後、官民協働による留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN」を利用して再びオーストラリアと香港へ。現地では専門学校で国際ビジネスを学び、インターンシップも経験しました。異なる価値観や文化の中で英語を使いながら学び働いた経験が、海外就職という目標を現実のものとして意識するきっかけになりました。国や文化が違えば、言葉の使い方や考え方も異なります。こうした異文化交流の中で、多角的に物事を捉える視野の広さと、相手の意見を受け止める柔軟さが身についたと感じています。

現在はアメリカでシステムエンジニアとして働いています。大学で学んだ英語力や文化理解、そして留学で培った行動力や適応力は、まさに今の自分を支える力となっています。

本学では、英語を「世界を広げる手段」として学ぶことができます。世界に挑戦してみたい皆さん、ぜひ本学でその一歩を踏み出してみませんか?

環境共生学部

Faculty of Environmental & Symbiotic Sciences

環境共生型社会の創造に貢献する人材を育てる

環境共生学部は、環境共生に係わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場としての豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念とし、自然環境と人間活動との共生のあり方について教育・研究することを目的とします。

[アドミッション・ポリシー] ~環境共生学部はこのような人を求めています~

本学部は、私たちと自然が共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念として設置され、環境共生学科のもと、環境資源学専攻、居住環境学専攻、食健康環境学専攻の3専攻で教育研究を行っています。本学部は以下のような能力を持つ学生を求めています。

- ① 環境共生学にかかわる様々な課題に関心を持つ学生
- ② 科学的、論理的思考能力を有している学生
- ③ 高等学校における教科に関してバランスのとれた基礎学力を有している学生
- ④ 理科の科目について十分な学力を有している学生
- ⑤ 英語について幅広い素養を備えている学生

さらに、入学後は、国際的な視野と自然科学・健康科学に係る高度な知識をもとに、人間活動と自然環境との共生にかかわる地域あるいは地球規模の諸問題を総合的に対処できる能力を自ら積極的に学修することによって身につけようと考えている学生を求めます。



環境資源学専攻

- ① 自然環境や生態系の保全について学ぶ意欲を持つ学生
- ② さまざまな環境問題に興味がある学生
- ③ 環境にかかわる専門家をめざす学生

居住環境学専攻

- ① 自然を利用し、人と地球にやさしい環境をつくる技術を開発したい学生
- ② にぎわいに満ちた元気な“まち”、自然豊かで美しい“むら”をつくりたい学生
- ③ 快適な住まいや公共の建築物などの設計をめざしたい学生
- ④ 地震に強く美しい木造建築物・環境に配慮した建築物をつくりたい学生
- ⑤ 建築士として働きたい学生

食健康環境学専攻

- ① 食・健康・環境等の分野に強い関心を有し、将来これらの分野で活躍を目指す意欲的な学生
- ② 社会で活躍する土台となるコミュニケーション能力を持ち、自己のコミュニケーション能力の向上に熱心な学生
- ③ 様々な課題のよりよい解決に向け、自ら問題を発見しようとする探求心とその解決を図るための豊かな想像力を有する学生
- ④ 高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を持つとともに、理科学科(化学および生物)に対して興味や関心を持つ学生
- ⑤ 最新の科学的知見を得る上で重要となる英語について幅広い素養を備えている学生

大学院(環境共生学研究所)については→P63

◎2027年度入学定員及び募集人員

環境共生学部 環境共生学科	入学定員	募集人員						
		一般選抜		自己推薦型選抜	特別選抜			
		前期	後期		学校推薦型選抜		留学生・帰国生徒 社会人	
環境資源学専攻	15名	12名	—	3名*	若干名	若干名		全学で 2名以内
専攻 居住環境学専攻	110名	20名	12名	4名	—	—	若干名	
食健康環境学専攻	28名	8名	—	4名	—	—	若干名	

*うち2名以上は熊本県内高等学校卒

環境共生学部 4年間の学び

環境共生学部の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)より

自然と人間が共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念とし、環境共生学科のもと、環境資源学専攻、居住環境学専攻及び食健康環境学専攻の3専攻を設けています。

全学共通教育に加え専門科目として、学部共通教育及び各専攻の専門領域の教育を通して、環境共生型社会の創造に貢献する人材の育成を目指し、環境共生にかかわる諸問題と環境共生の理念を理解するため、フィールドワークを含む「導入科目」、自然科学の知識と理解力を養成する「基礎科目」並びに各専攻の専門的な能力を養成する「展開科目」を講義、演習、実習、実験などの順次性に配慮し、体系的に配置しています。

		1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目群		基盤科目 外国語／健康スポーツ科学／ 情報処理とデータサイエンス／ キャリアデザイン／地域理解とリーダーシップ		教養科目 人間と文化／自然と環境／ 社会と世界	
専門科目群 環境資源学専攻 …P36 居住環境学専攻 …P40 食健康環境学専攻 …P44	学科共通科目 導入科目 「環境共生論」 「現代生活と環境問題」 「居住環境を創る」 「食と環境」 「フィールドワーク」			「環境共生総合演習」	
	専門科目 環境資源学領域 居住環境学領域 食健康環境学領域	「情報処理実習」		基礎科目	
		展開科目			

[学部長からのメッセージ]

環境共生学部は「環境の世紀」と位置づけられる21世紀を目前にした1999年4月、わが国で初めて「環境共生」を冠する学部として1学科3専攻でスタートしました。2024年4月に創立25周年を迎えたところです。環境共生学研究所は2003年には修士課程を、2005年には博士後期課程を設置するとともに、修士課程を博士前期課程としました。開設時より、豊かな自然を保ちながら持続的に利用し、地域に住む人々の快適な生活を確保する方策を追求して地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念とし、自然環境と人間活動との共生のあり方について教育・研究を行っています。

世界はいま、貧困、紛争、気候変動、感染症など、かつてないほどの多くの課題に直面しています。これらの課題を統合的に解決し、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために示されているのが、SDGs(持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals)です。

環境共生学部では、専門的かつ学際的な領域の教育・研究および地域・国際貢献活動を通じてSDGsの達成、すなわち持続可能な社会の構築に貢献します。

新型コロナウイルスパンデミックは、これまでの私たちの社会生活を一変させる事態となりました。加えて数十年に一度といわれるような大きな自然災害も毎年のおこっています。未曾有の危機が突然到来するような難しい時代だからこそ、持続可能な社会の構築にリーダーシップを発揮できる人材を育成していきたいと考えています。

環境共生学部長
白土 英樹



MESSAGE
from
the Dean

環境資源学専攻

Division of Environmental Resources,
Department of Environmental & Symbiotic Sciences



[専攻の特色]

環境科学を実践的に学ぶ

教室で行う講義に加えて、現場での各種フィールドワーク、沿岸域環境、森林環境、水産環境、植物生産環境に関する4つのアセスメント実習や環境分析化学実験、大気環境学実験、高分子化学実験などの科目において、環境共生にかかわる諸問題の原点である現場での実証的な作業やその実験、実習を体験し、環境問題の複雑さを学び、知識の応用能力を養います。

情報発信能力を養成する

多数の情報処理機器を学生が自由に利用できる体制が整備されており、情報処理に関する演習科目や各実験・実習・演習科目において得られた結果を処理・分析し、レポート作成、結果発表（プレゼンテーション）する能力を養成します。さらに、環境分野においては英語によるコミュニケーションが不可欠になってきているため、ネイティブスピーカーの教員の指導により英会話のみならず環境分野での英語による海外への情報発信能力を養成します。

[環境資源学専攻 4年間の学び]

環境資源学専攻の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)より

- 1 環境共生に関わる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成し、併せて、環境の成り立ちや生態系の仕組みを理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を養成するために「専攻専門科目」を置き、環境資源の保全と適正利用による、持続可能な生物資源の生産技術並びに社会発展のための方策について教育します。
- 2 「基礎科目」では、基礎的な自然科学の知識と理解力を幅広く養成するために、理科全般(物理学・化学・生物学・地学)、数学、統計学及び情報処理に関する科目を設置しています。
- 3 「展開科目」では、生態、生物資源、物質環境、環境計画の4分野に関する調査・分析能力を養成するために、各分野の講義科目及び実験・演習科目に加えて、環境評価をフィールドにおいて実践的に体験する4つの環境アセスメント実習(沿岸域環境アセスメント実習、森林環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習、植物生産環境アセスメント実習)を設置しています。
- 4 生態関係科目では、海洋及び森林の生態系の構造と機能、保全と利用のための方策を学ぶ科目を、生物資源関係科目では、海洋及び陸上で生産される生物資源の特性と機能、栽培・増殖法、生産環境、生産物の利用法を学ぶ科目を、物質環境関係科目では、環境における物質循環に関する化学的、物理的な知識と環境への影響評価手法を学ぶ科目を、環境計画関係科目では、環境資源の保全と恒久的利用、持続可能な社会発展に必要な計画論、法規、政策、制度について学ぶ科目を、それぞれ設置しています。
- 5 国境を越え、広域化、国際化する環境に関わる諸問題に対応する能力を養成するために、共通科目群基盤科目の英語科目に加えて、専門科目群専攻専門科目基礎科目に英語科目(Science English)を設置しています。

[開講科目(専門科目)]

		1年次	2年次	3年次	4年次
学科 共通 科目	導入科目	環境共生論 現代生活と環境問題 居住環境を創る 食と環境 / フィールドワーク			
		情報処理実習		環境共生総合演習	
専門 科目 (環境 資源学 領域)	基礎科目	生物学I・II / 生物学実験 基礎化学 / 有機化学 化学実験 / 物理学I・II / 数学I・II	統計学 / 統計学演習 物理学実験 / 環境情報処理実習	Science English I・II 地学I・II / 地学実験I・II 応用情報処理演習	
	生態		森林生態学 / 森林資源学 / 森林環境アセスメント実習 海洋生態学 / 沿岸環境保全論 / 沿岸域環境アセスメント実習 海藻学 / フランクトン学		
	生物 資源		作物生産学 / 植物食資源学 / 植物生産環境アセスメント実習 水産環境学 / 水産環境アセスメント実習 / 海洋微生物学 魚類環境生理学 / 食資源開発学		
	展開 科目 物質 環境		環境分析化学 / 水環境科学 / 環境分析化学実験I・II 環境素材学 / 高分子化学 / 高分子化学実験 大気環境学 / 大気環境学実験 / エネルギー環境学 環境衛生科学 / 生物濃縮論 / 環境計量演習 食品分析学 / 食品安全性学		
	環境 計画			環境経済学 / 環境関連法規 / 農山村域計画学 都市計画 / 地域景観計画学 / 都市居住政策学	
卒業研究					卒業論文

取得資格

教職課程の履修により、中学校教諭一種免許状(理科・家庭)・高等学校教諭一種免許状(理科・家庭・農業)が取得できます。また、環境計量士や公害防止管理者の受験に対応しています。



環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻4年 濱本 安李 さん (熊本学園大学付属高等学校出身)

私は将来、環境問題の解決に貢献できる研究者になりたいと考え、本専攻を志望しました。高校時代は環境分野に興味はあったものの、将来の職業まで明確に決まっていたわけではありませんでした。だからこそ、農業・森林・水環境など幅広い分野を横断的に学ぶことができ、学びながら自分の進路を見つけられる環境資源学専攻に魅力を感じました。

現在は、生物学や化学を基礎にしなが、水質や大気、資源循環などについて学んでいます。特に印象に残っているのは実験や実習です。森林や海洋などのフィールドで実際に自然に触れながら調査を行い、大学で分析・考察を行う経験を通して、理論と実践が結びつく面白さを実感しました。自分の手でデータを扱い、結果を導き出す過程には大きなやりがいがあります。

学生生活ではアルバイトを通して社会性を学び、友人と食事や旅行を楽しむなど、メリハリのある毎日を送っています。1学年約30人という少人数制のため仲間との距離が近く、互いに支え合いながら成長できる環境も大きな魅力です。

本専攻では、専門的な知識を深めながら、自分の将来の方向性をじっくりと見つけていくことができます。進路に迷っている方も、環境分野に関心がある方も、ぜひ一緒に学べる日を楽しみにしています。



物理学実験



沿岸環境アセスメント実習

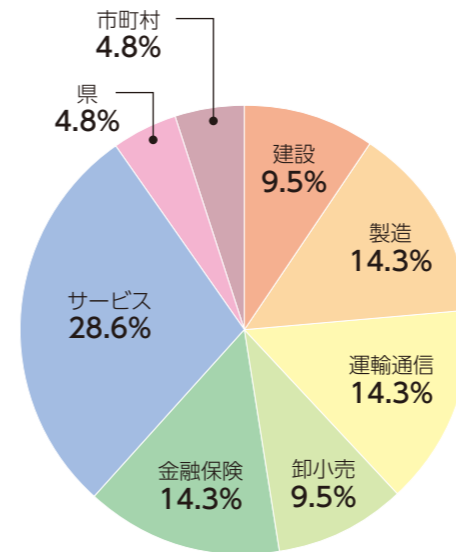


森林環境アセスメント実習

[卒業後の進路]

環境アセスメントにかかわる専門家、地域の発展を環境の面から支えていく公務員、環境のより専門的な分野を掘り下げていく研究者（大学院への進学など）、環境についての次の世代を育てていく教育者への道が拓かれています。

業種別就職状況(2025年度)



進路一覧(2024~2025年度)

- 就職
 - 【建設】荏原製作所、クラフティア
 - 【製造】イージーエス、KMバイオロジクス、沢井製薬、島津興業、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing、ハツコー、ルネサスエレクトロニクス
 - 【運輸通信】RKKCS、エクストリンク、KIS、SYSKEN
 - 【卸小売】大分県環境管理協会、ササキ株式会社
 - 【金融保険】熊本銀行、肥後銀行
 - 【不動産】イズミテクノ
 - 【サービス】熊本県経済農業協同組合連合会、熊本県土地改良事業団体連合会、熊本県酪農業協同組合連合会、熊本市役所、興農園、テクノクリエイティブ、日研トータルソーシング、ビジネスコンサルタント、BREXA Advan、ワールドインテック
 - 【県】熊本県
 - 【市町村】熊本市、苓北町

- 進学
 - 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻、教育学研究科(教職大学院の過程)教職実践開発専攻教職教育実践高度化コース-家庭、熊本大学大学院自然科学教育専攻土木建築学専攻地域デザイン教育プログラム



[勤務先]
鹿児島大学

2020年3月
環境共生学部環境資源学科卒業
2022年3月
環境共生学研究科博士前期課程修了
2025年3月
環境共生学研究科博士後期課程修了

山崎 陽 さん
(長崎県立島原農業高等学校出身)

私は高校時代に農業を学ぶ過程で、持続可能な農業に興味を持ちました。そして、様々な視点から環境と共生するための知識や経験を培うことができる本学科へ進学しました。

本学科の最大の魅力は、教室で行う座学に加えて、実験や実際のフィールドでの実習が充実している点です。また、自然環境の諸問題解決のために、水・海・植物・森林・環境化学・資源循環・大気および英語教育等を専門とされる先生方がいる点です。私は、卒業論文研究から博士論文研究を通して、農業による水環境の改善に関する研究を行ってきており、環境問題には農業という視点だけでは解決できず、専門分野の垣根を越えた多角的な視点が必要だと感じました。そして、現在も仕事の中で研究を継続しており、大学で学んできた知識や経験を活かし、持続可能な農業の探求を行っております。

現在、受験生として、私のように農業に興味を持っている人や自分の興味関心が不明確で進学先に悩んでいる人もいるかと思います。本学科では、環境共生に関わる多分野の先生方が集まっており、幅広く学んでいく中で自分の興味関心のある分野に出会えるのではないかと思います。ぜひ、本学科で楽しい大学生生活を送ってください。

居住環境学専攻

Division of Human Habitats,
Department of Environmental & Symbiotic Sciences



[専攻の特色]

居住環境学専攻では、「地域に密着した題材を通して、従来の建築学科の枠を超える教育・研究」を行っています。近年の社会の流れを根本から転換し、「人と自然、さまざまな人々が共に生き続ける社会」=「環境共生型社会」をめざす熱い心をもち、地域文化や気候風土に根差した“すまい”・建築・都市・農山村などの「環境共生型居住環境を保全・創造する知識、能力、技術を豊富に持った人材育成」をめざしています。

新しいライフスタイルの創出を国際的視点から考える能力の養成

地球温暖化など世界的規模で生じる問題とその解決法を、グローバルに学び、地域に還元する力の養成に努めています。

少人数体制の下、実体験と現場を重視した教育

少人数制を活かして、「居住環境デザイン実習」、「CAD実習」、「居住空間構造・材料実験」などの科目で、現場体験する実践型の教育を行います。また、「フィールドワーク」、「木質材料活用論」など建築・地域などに関するさまざまな見聞を広める貴重な体験学習の科目を設けています。

総合力、構想力の養成

講義などで得た知識を統合化する設計製図などの実習を有機的に関連させたカリキュラムを組んでいます。これらの訓練を通して、構想から形を創る能力や知識を総合化する能力を養成します。

問題の認識と解決方法を深めるための歴史を重視した教育

現代の複雑な問題群を本質的に解決するには、その背景や要因を歴史的に学ぶ必要があります。歴史を通して、先人の知恵を学び、現代の問題群を根本的に理解できる教育に努めています。

[居住環境学専攻 4年間の学び]

居住環境学専攻の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)より

本専攻の「環境共生」の理念のもと、環境への負荷軽減、人間の健康・福祉などを重視し、住居から建築・都市・地域に至る居住環境の全体を見据え、実体験に基づいた科学的認識能力と、居住環境をまもり育てる専門的な技術をもった人材を育成します。そこで、以下のようなカリキュラムを編成しています。

- 1 本専攻は居住空間計画、都市・地域計画、環境調整・設備、構造・材料の4分野から構成され、各分野において基礎から応用まで段階的に修得できるように科目を設置しています。基礎的な科目はすべて必修科目に指定し、初年度から基礎的な実習を取り入れて主体的な学修を促します。また、実験・実習・演習の科目を多く設け、講義で得た知識を実験実習で体感し、自ら主体的に取り組み、より深く認識できる構成としています。
- 2 居住空間計画及び都市・地域計画分野では、地域の課題を浮き彫りにする内容とともに、国際的な視野で課題を考えることができる力を養うべく、多くの外国事例などをとりあげて幅広く講義する科目群を設置しています。
- 3 環境調整・設備及び構造・材料分野では、自然環境との共生と環境負荷の軽減を目指すとともに、人と地球にやさしい建材である木質材料を重視した関連科目群を設置しています。
- 4 卒業時に、一級建築士、二級建築士の受験資格が得られ、更に様々な進路も選択できるようなカリキュラム構成としています。

[開講科目(専門科目)]

		1年次	2年次	3年次	4年次
学科 共通 科目	導入科目	環境共生論 現代生活と環境問題 居住環境を創る 食と環境 / フィールドワーク			
		情報処理実習		環境共生総合演習	
専門 科目 (居住 環境学 領域)	基礎科目	数学Ⅰ・Ⅱ / 国学 / 物理学Ⅰ・Ⅱ 居住環境デザイン実習Ⅰ・Ⅱ	CAD実習Ⅰ	応用情報処理実習	
	都市・地域 計画		比較都市文化論 / 都市計画 / 都市居住政策学 農山村域計画学 / 地域景観計画学 / 地域計画論		
	居住空間 計画		建築史 / 住空間計画学 / インテリアデザイン論 / インテリアデザイン実習 比較住文化論 / 建築計画学 / 木質デザイン論 / 福祉住環境原論		
	環境調整・ 設備		建築環境工学Ⅰ・Ⅱ / 環境設備学 環境設備システム学 / 環境設備システム学演習 環境調整工学 / 居住環境調整工学実験		
	構造・材料		建築構法 / 建築構造の基礎 / 木質構造学 / 静定構造力学 / 静定構造力学演習 居住空間材料学 / 不静定構造力学 / 不静定構造力学演習 鉄筋コンクリート構造学 / 居住空間構造・材料実験 / 鉄骨構造学		
	全体共通		居住環境デザイン実習Ⅲ～Ⅵ / 木質材料活用論 / CAD実習Ⅱ / 建築施工学 環境防災・安全工学 / 建築法規 / 森林生態学 / 海洋生態学 / 地学Ⅰ・Ⅱ / エネルギー環境学 大気環境学 / 環境関連法規 / 環境経済学 / 地方自治論 / 公共政策論		
卒業研究					卒業論文

取得資格

一級建築士および二級建築士の受験資格が得られます。また、教職課程の履修により、中学校教諭一種免許状(理科・家庭)・高等学校教諭一種免許状(理科・家庭・農業)が取得できます。その他、卒業後取得可能な資格として、1級建築施工管理技士及び2級建築施工管理技士があります。(1級建築施工管理技士は、卒業後3年以上、2級建築施工管理技士は、卒業後1年以上の実務経験が必要です。)在学中に取得できるものは、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーター、インテリアコーディネーター、カラーコーディネーター検定、色彩検定、照明コンサルタントなどがあります。



環境共生学部環境共生学科居住環境学専攻4年 三島 琉偉 さん (熊本学園大学付属高等学校出身)

私は、誰もが快適に暮らせる住環境を実現したいという思いから、本専攻を志望しました。居住環境学専攻では、設計、構造、設備、福祉住環境、インテリア、都市・地域計画など、幅広い分野について学ぶことができ、専門性を深めながら多角的な視点を養える点に大きな魅力を感じました。

現在は、設計製図やインテリアデザイン実習、福祉住環境、構造等に関する科目を通して、空間の心地よさと安全性の両立について学んでいます。意匠性やデザイン性だけでなく、高齢者や子どもを含めた多様な人が安心して暮らせる視点を踏まえながら、住環境を総合的に捉える力を養っています。また、構造や設備の知識も並行して学ぶことで、見た目の美しさだけではなく、安全性、機能性を備えた空間づくりの重要性を実感しています。

さらに、教職課程の履修やボランティア活動にも取り組み、学業と学外活動を両立させながら充実した学生生活を送っています。さまざまな挑戦を支えてくれる環境が整っていることも、本専攻の大きな魅力です。

私のように、設計・デザイン・ものづくりを通して居心地の良い空間について学びたい方や、興味の幅を広げながらさまざまなことに挑戦したい方は、ぜひ居住環境学専攻で充実した大学生活を送りましょう。



居住環境デザイン実習



居住環境調整工学実験

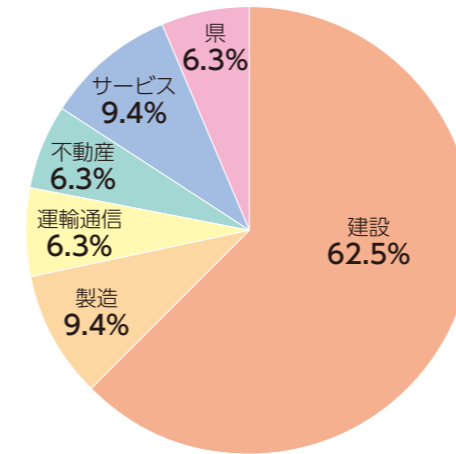


ワークショップの様子

[卒業後の進路]

建築・構造・設備各関係の設計事務所、住宅・建築・不動産開発などの会社の企画・技術者、家具やインテリア製品メーカーの企画・デザイナー、建築材料・機器メーカーや流通部門でも専門スタッフなどのほか、国・都道府県をはじめ自治体の上級・専門職への道が拓かれています。大学院進学者も多数います。

業種別就職状況(2025年度)



進路一覧(2024~2025年度)

● 就職

【建設】アトリフォーム、穴吹工務店、大林組、新産住拓、杉養蜂園、住友林業ホームテック、太宏設計事務所、タマホーム、中外テクノス、西日本高速道路ファシリティーズ、Noah Design、日立プラントサービス、ファミリーコーポレーション、ミサワホーム九州、優渾、吉原住宅、Lib Work

【製造】カネリョウ海藻、コイズミ照明、斎久工業、サンワイテック、ジョンソンコントロールズ、大光電機、東建コーポレーション

【運輸通信】KIS、SYSKEN、日興システムソリューションズ

【金融保険】三立鑑定

【不動産】アトリフォーム、アイ・ウッド、永代ハウス、オープンハウスグループ、カーノファシリティーズ、コスモホーム、新規建設株、新産住拓、積水ハウス、住友林業、住友林業ホームテック、大和ハウス工業、ミサワホーム九州、ヤマダホームズ、よかタウン、Lib Work、レオパレス21

【サービス】創建社D&R設計、大和設計、ニューユニークス、水野建設コンサルタント

【県】熊本県、福岡県

【市町村】熊本市

● 進学

熊本県立大学環境共生学研究科空間システム学分野、熊本県立大学環境共生学研究科環境共生学専攻、九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻環境設計コース



[勤務先]

株式会社カワゴエ

2021年3月
環境共生学部居住環境学科卒業

喜多 菜美 さん

(熊本学園大学付属高等学校出身)

父親が建築関係の仕事をしていることもあり、建築に興味があって本学科に進学しました。

大学生活は、高校生の時よりも自由度が増え、いろんな選択を選べる一方、自身のキャパシティとの兼ね合いを考える日々でした。環境共生学部ということで、建築とは一見関係なさそうな講義もありましたが、その講義で得た考え方を建築分野に活かすと新たな知見を得られ、自身の世界が広がっていく楽しさがありました。また、サークルに所属したり、学内の英語合宿に参加したりして、他学部の人と知り合い、仲良くなることで、また違った視点、考え方が生まれてきました。

建築というのは、とても幅広い分野で、その仕事は多岐にわたります。その中でも、私は施工という分野で、現在、熊本城の復興に現場監督として携わっています。施工も建物の基礎から屋根の仕上げまで様々な知識が必要となりますが、その知識の所々に本学で学んだことがあり、理解する手助けとなっています。

建築の仕事は多くの分野と関わりながら成り立っています。大学生活では、自身の興味の赴くまま行動してみてください。そして、そこで出会う方々との縁を大切に、自分自身の世界を広げていってください。

食健康環境学専攻

Division of Food & Health Environmental Sciences,
Department of Environmental & Symbiotic Sciences



[専攻の特色]

“食”を通じて“健康”を、“環境”を通じて“食”を考える

食健康環境学専攻では、食品の機能、人体の構造と機能、栄養素の体内での代謝、食生活改善による生活習慣病の予防、疾病時の栄養管理、バイオテクノロジーと食品開発、食品の安全性と健康、身体活動と健康管理、食糧生産など、食料・健康・環境にかかわる諸問題を科学的に解明し対処するための知識と実践力を養います。

また、フィールドワークや多数の実験・実習科目を通して、基礎知識を確実に身につけ、さらに応用力や創造性を高めることをめざします。

高度な教育・研究の推進によって多分野で活躍できる人材を育成

本専攻では「人と社会と自然との共生」の視点から、自然環境へやさしく、地域の環境特性を反映した「食と健康」について高度な教育・研究を行い、食と健康、食料を取り巻く環境問題、生命科学、バイオテクノロジーなど、“食”を総合的かつ多面的に掘えることができる『食のスペシャリスト』を養成しています。このほか管理栄養士養成施設として、管理栄養士を養成するだけでなく、食と健康に関する高度な知識と実践の方法を学びながら、問題解決能力と研究能力を高め、応用力のある管理栄養士の輩出をめざしています。

[食健康環境学専攻 4年間の学び]

食健康環境学専攻の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)より一部抜粋

- 1 自然科学に関する基礎的知識を基にして、専門分野における知識と技術の修得が可能となる科目を、段階的に、総合的に学修できるように配置しています。特に、大学教育で得られた知識をもとに自ら考え、発展させる能力や、レポート作成、プレゼンテーション能力などを養うことを目指し、実験・実習・演習科目を重点的に配置しています。
- 2 食・健康・環境に関わる様々な問題を国際的な視野をもち、地域の立場から、自ら発見し解決する思考力・判断能力を修得するための科目を配置しています。
- 3 自然環境や地域の環境特性を反映した地域住民の健康づくり、疾病の予防・治療、食品開発などに寄与できる技術や態度を修得できるように、食品の機能、人体の構造と機能、栄養素の体内での変化、食生活と生活習慣病予防、疾病と栄養、バイオテクノロジーと食品開発、食品の安全性と健康、身体活動と健康管理、食糧生産などに関連する科目を配置しています。
- 4 基礎科目では、食品、栄養、運動および健康を学ぶための基礎となる化学と生物学に関連する科目ならびに物理学、統計学を含む科目を設置しています。展開科目の食環境関連科目では、食をめぐる環境に関し、食品の物理・化学的性質と調理・加工・流通にともなう変化ならびに食品の安全性を理解した上で、環境と共生できる食資源の開発・利用を学ぶ科目を配置しています。また、展開科目の健康環境関連科目では健康をめぐる環境に関し、食品機能・栄養化学、解剖・運動生理など、人体の構造・機能を理解した上で、食や運動を通じた健康管理・増進について学ぶ科目を配置しています。

[開講科目(専門科目)]

		1年次	2年次	3年次	4年次
学 科 共 通 科 目	導入科目	環境共生論 現代生活と環境問題 居住環境を創る 食と環境 / フィールドワーク			
		情報処理実習		環境共生総合演習	
専 門 科 目 群	基礎科目	生物学 / 生物学実験 / 基礎化学 化学実験 / 生命有機化学 有機化学 / 生化学 / 物理学	物理学実験 / 統計学 / 統計学演習	生化学実験 / 応用情報処理実習	
	食環境	調理学 / 調理学実習 / 食品学総論 / 食品化学 / 環境衛生学 / 作物生産学 / 食文化論 食資源開発学 / 食品学各論 / 植物食資源学 / 食品製造学 食品微生物学 / 食品分析学 / 食品分析学実験 / 食品加工学 / 食品加工学実験 / 食品バイオテクノロジー 食品バイオテクノロジー実験 / 食品衛生学 / 食品衛生学実験 / 食品保存学 / 食品安全性学			
	展開科目 健康環境	解剖生理学 / 栄養教育論 / 環境生理学 / 環境生理学実習 / 栄養学総論 / 解剖生理学実験 / 栄養学実験 栄養生化学 / 栄養学各論 / 栄養教育論実習 / 栄養指導論 / 生体防御学 給食経営管理学 / 臨床医学概論 / 健康管理学 / 栄養運動生理学 / 栄養運動生理学実習 ライフステージ栄養学演習 / 栄養機能性学 / 給食管理実習 給食経営管理臨床実習 / 公衆栄養学 / 疾病論 / 栄養情報管理学 / 臨床栄養学実習 / 臨床栄養学実習 生活習慣病予防学 / 臨床栄養学実習 / 公衆衛生学 / 臨床治療学実習 / 臨床栄養学実習 地域栄養学実習 / 公衆栄養学実習 / 臨床外科栄養学 / 実践栄養学総合演習 臨床栄養治療学 / 臨床代謝栄養学			
卒業研究					卒業論文

取得資格

所定の科目を履修することで栄養士免許が取得でき、管理栄養士国家試験の受験資格が得られます。また、教職課程の履修により、中学校教諭一種免許状(理科・家庭)・高等学校教諭一種免許状(理科・家庭・農業)、栄養教諭一種免許状が取得できます。食品衛生監視員及び食品衛生管理者(任用資格)の取得も可能です。



環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻4年 松永 詩歩 さん (福岡県立八幡高等学校出身)

私が本専攻を志望した理由は、将来役立つ資格を取得したいと思っていたからです。本専攻では食品や栄養だけでなく、疾病や運動など幅広い分野を学ぶことができます。学年が上がるにつれて専門性が高まるとともに、実験や実習も増えるので座学で学んだことを活かせる機会が多くなります。

例えば、給食経営管理の授業では、給食経営における献立管理や大量調理時の衛生管理を学び、給食経営実習では献立を考え実際に50人分の大量調理を行います。また、運動生理学実習では心拍数、血糖値などを測定し運動が人体に及ぼす影響を学習します。3年生になると学園祭でお菓子の販売を行います。お菓子販売を通じて企画から改良までの商品開発の流れを実践的に体験することができます。みんなで試食を行ったり、商品を作ったりするので学生間の仲も深まります。

本専攻は少人数であるため学生間の絆が強くなり、お互いに切磋琢磨しながら成長することができます。縦のつながりも強いので困ったことがあれば先輩もサポートをしてくれます。本専攻では、管理栄養士だけでなく栄養教諭や家庭科・理科の教員免許も取得でき、卒業後は幅広い分野で活躍できます。食に興味のある方や人々の健康を支えたいと思っている方は、一緒に食の専門家を目指して充実した大学生活を送りましょう！



生物学実験B



食品バイオテクノロジー

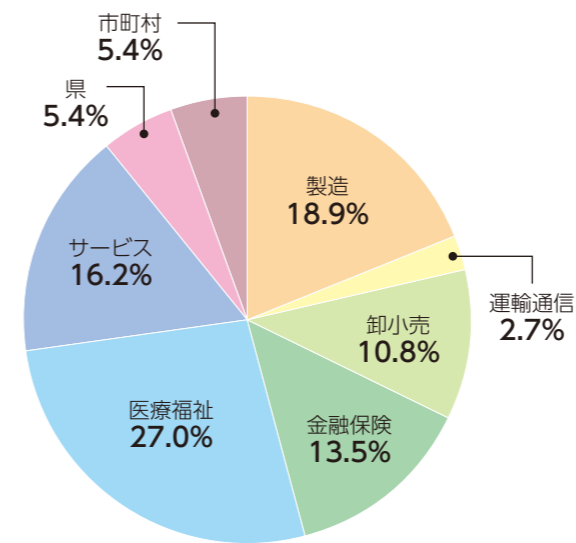


栄養運動生理学実習

[卒業後の進路]

環境共生学部の理念のもと、「食」と「健康」、そして「環境」について学んだ卒業生は、ある特定の分野に限らず、さまざまな方面で活躍しています。進路は、食品・医療・健康関連企業、病院・保健所・福祉施設・小中学校などでの管理栄養士業務や研究開発業務、行政機関（保健・福祉・食品・環境分野）、教職（理科・家庭・農業・栄養）などへの道が拓かれています。

業種別就職状況(2025年度)



進路一覧(2024~2025年度)

- 就職
 - 【製造】五木食品、協和製作所、KMバイオロジクス、再春館製菓所、たらみ、東京エレクトロン九州、鳥越製粉、福留火腿、フリジポート、めん食、森永乳業クリニコ、八幡物産
 - 【運輸通信】富士通エンジニアリングテクノロジーズ
 - 【卸小売】イオンリテール、佐世保市総合医療センター、サンハルク、新生堂薬局、東海澱粉、ドラッグストアモリ、南山堂ホールディングス、フードウェイ、ローカル
 - 【金融保険】鹿児島銀行、熊本銀行、熊本県信用保証協会、日本生命保険相互会社熊本支社、肥後銀行
 - 【医療福祉】愛仁会、大分記念病院、菊池郡市医師会立病院、岐阜病院、熊本回生会病院、くまもと健康支援研究所、熊本整形外科病院、熊本赤十字病院、熊本中央病院、済生会熊本病院、桜十字八代リハビリテーション病院、社団仁誠会、新別府病院、地域医療機能推進機構人吉医療センター、福岡赤十字病院、星樹会はち歯科医院、山部会
 - 【サービス】エームサービス、コンパスグループ・ジャパン、熊本県酪農業協同組合連合会、日清医療食品、HUMAN MADE、BML フード・サイエンス、ファーイーストカンパニー、富士産業、BREXA Technology、ベッセルホテル開発
 - 【県】熊本県教育委員会、鹿児島県、兵庫県教育委員会、宮崎県
 - 【市町村】熊本市教育委員会、大阪市教育委員会、中津市、福岡市

- 進学
 - 熊本県立大学環境共生学研究科環境共生学専攻、九州大学大学院人間環境学府行動システム専攻



[勤務先]
勇心酒造株式会社

2022年3月
環境共生学部食健康科学科卒業
2024年3月
環境共生学研究科環境共生学専攻修了

板倉 真優 さん
(愛媛県立八幡浜高等学校出身)

食べることが好きで、食と健康について科学的に学びたいと考えたことが本学を志望したきっかけです。管理栄養士国家試験の合格率が高いことも、安心して学べる環境だと感じました。

入学して印象的だったのは、食と健康の知識だけでなく、環境や社会との関わりを含めて幅広く学べる点です。共通科目として、環境や経済、政治などについて学部・学科の垣根を越えて履修することもでき、多角的な視点から物事を考える機会があります。また、教員との距離が近く、疑問点を気軽に相談できる環境も魅力でした。実験や実習も多く、結果をもとに友人と議論しながら考察を深めることで、学びの面白さを実感しました。大学院では微生物分野の研究に取り組み、学会での口頭発表やポスター発表を通して、プレゼンテーション力や考察力を磨くことができました。

現在は発酵由来成分を活用した化粧品のOEM営業に携わっています。大学で学んだ知識や微生物研究に取り組んだ経験は、原料や製品の背景を理解しながら顧客と開発部門の双方の視点を整理するうえで役立っています。

管理栄養士を目指す方はもちろん、食に興味はあるものの将来像がまだ定まっていけないという方にも、本学をぜひ勧めたいと思います。熊本県立大学での学びが、皆さんの新しい可能性を広げるきっかけになることを願っています。

総合管理学部

Faculty of Administrative Studies

行政から企業まで、活躍の場を選ばない「総合管理能力」を究める

総合管理学部は、多様化、複雑化してきた社会の諸問題を、総合的に捉え、解決していくため、社会学、行政学、社会福祉学、経営学、情報学などを統合・体系化した総合管理（アドミニストレーション）学を専門的に教育・研究することを目的とします。

[アドミッション・ポリシー] ~総合管理学部はこのような人を求めています~

総合管理学部は、社会的諸課題を正しく捉え、それを実践的に解決していくことを学ぶ社会科学系の学部です。社会的諸課題を解決していく実践的な人材養成に向けて、学部の入学受け入れ方針を次のように定めます。

- ① 社会の諸課題に興味を持ち、それを解決していこうとする意欲と態度を備えている人
- ② 課題解決のために、他者と協動的に活動していける人
- ③ 課題を正しく把握するために、多様な視点で柔軟に考えていける人
- ④ 多様な知識とスキルから成る総合管理を学ぶために、高校までの幅広い基礎学力を持っている人



●2027年度入学定員及び募集人員

総合管理学部	入学定員	一般選抜		自己推薦型選抜	募集人員				
		前期	後期		学校推薦型選抜		特別選抜		
					県内	全国	留学生・帰国生徒	社会人	
学科	総合管理学科	A方式 30名 B方式 40名	A方式 20名 B方式 30名	50名	50名	-	-	全学で2名以内	若干名

※入学定員及び募集人員の変更は現時点で計画中のものであり、今後変更になる可能性があります。

A方式：大学入学共通テスト6教科利用
B方式：大学入学共通テスト4教科利用

[学部の特色]

1 これからの時代に必要不可欠な「総合管理」、1年次から理論と実践の両輪を学ぶ

「総合管理」とは何なのか？ まずはその基礎をしっかりと学び、理解することが大切です。その土台の上に課題解決に必要な幅広い知識を修得し、実践的な演習を繰り返すことで、「総合管理能力」を発揮する人材を育成することが可能となると考えます。理論と実践、その両輪を本学では1年次から一貫して学ぶことができます。

- 1年次に「総合管理学」を設置、その体系を理解し学ぶ
- 課題解決に必要なさまざまな知識修得のための必修・選択科目群を設置

2 1年次から卒業まで一貫して、PBLなど少人数でのアクティブラーニングで実践力強化

教員からの一方的な講義で「知識」を得ることだけでなく、学生たちが主体的に参加、トライ&エラーを繰り返しながら、仲間と一緒に深く考えながら課題を解決する力を養っていくアクティブラーニング形式の演習で実践力を磨きます。PBL (Project-Based Learning: プロジェクト型学習) など、少人数での議論やグループワークでの学修に、全学生が1年次から取り組みます。

- 全学生が1年次から演習形式のアクティブラーニング
- 2年次後学期から4年卒業まで各専攻のゼミに所属し、少人数で深く学ぶ

3 多様な知と実践力で公共、ビジネス、情報など360度さまざまな分野での「総合管理能力」を身につけられる

マネジメントやリーダーシップを学べる大学は他にもたくさんあるでしょう。しかしそれだけでは、ますます複雑化する世の中の課題解決には不十分です。多様な知と実践力を伴った「総合管理能力」を有した人材が切実に求められるのです。

- さまざまな分野・領域で「総合管理能力」を応用、展開
- いろいろなことを学び、「総合管理能力」で未来へ飛躍

[学部長からのメッセージ]

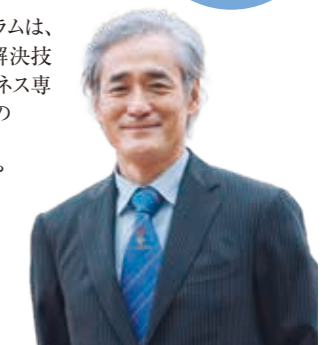
総合管理学部は、社会的な課題を創造的に解決し、地域社会及び国際社会への貢献を目指す人材の育成を目的としています。多くの社会的課題は、個人だけでは解決が困難であり、複数の人々や組織が協力することが不可欠です。これを達成するには、協働をうまく促進できるリーダーが必要です。そのための理論やマネジメント手法を学ぶのが「総合管理学」です。

総合管理学部では、1年次から段階的に総合管理を学べるカリキュラムが設計されています。このカリキュラムは、理論と実践のバランスを重視しており、アクティブラーニング形式の演習を通じて、実践的な状況での課題解決技法を学びます。さらに、2024年度からは専攻制を導入しており、学生は2年次の後学期から公共専攻、ビジネス専攻、情報専攻のいずれかを選択します。専攻選択後は、関連する講義や演習に加え、専門研究や同専攻の学生との共同学習の機会が増えます。

また、熊本県立大学では、全学生生に対し、情報化・国際化する社会への対応として情報通信技術や外国語の習得を必修としています。特に英語教育においては、TOEIC®受験を推進し、データ駆動型社会に向けたデータサイエンス教育にも力を入れています。

外国語、情報技術、データサイエンスのスキルを兼ね備え、総合管理の理論と実践を身につけた皆さんが、選んだ専攻を通じて社会的課題を解決するリーダーとして将来、活躍することを期待しています。熊本県立大学のキャンパスでお会いできる日を楽しみにしております。

総合管理学部長 宮園 博光



MESSAGE from the Dean

総合的な学び
Basic Administrative Study

×

専門性 MAJOR

公共専攻 Division of Public Administration
これからの公務員やNPOに求められる行政、法律、政策、福祉等の知識を学び、協働的に社会的課題を解決する。

ビジネス専攻 Division of Business Administration
経済学や経営学の分野に軸を置きながら、多様なフィールドを多角的・学際的に捉え、イノベティブに社会的課題を解決する。

情報専攻 Division of Informatics
情報による社会的価値の創造を中心に最先端の原理と技術を社会に応用し、クリエイティブに社会的課題を解決する。

▶

高度な課題解決人材育成

大学院 (アドミニストレーション研究科) については→P63

総合管理学部 4年間の学び

- 現代社会に相応しい市民性を涵養するための共通科目群と、総合管理の理論と方法の修得のための専門科目群で教育課程を編成しています。
- 専門科目群は、総合管理科目、基幹科目、展開科目、演習科目・卒業論文を体系的に配置して編成しています。

取得資格

教職課程の履修により、中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（公民、商業、情報）を取得できます。



	1年次	2年次	3年次	4年次	
共通科目群	■基幹科目 外国語／健康スポーツ科学／情報処理とデータサイエンス／キャリアデザイン／地域理解とリーダーシップ				
	■教養科目 人間と文化／自然と環境／社会と世界				
専門科目群	総合管理を学ぶ				
	■演習科目 さまざまな知識やメソッドを活用し、自らの問題意識でテーマを設定し、課題解決に向けて取り組む	全員が 自らが専攻する専門 のゼミに所属し、総合管理の考え方をもとにそれぞれのフィールドで学びを広め、深めていく			
	プレゼминаール（共通科目群）	専攻基礎演習	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ-1	専門演習Ⅱ-2
					専門演習Ⅲ-1
					専門演習Ⅲ-2
	■総合管理科目：総合管理の基礎を理解する	■展開科目：所属する専攻を中心に、学生の興味や関心に応じて選択できる科目			卒業論文
	総合管理学Ⅰ／Ⅱ	総合管理学Ⅲ	統計学Ⅱ／社会調査法Ⅰ・Ⅱ	社会調査法実践Ⅰ・Ⅱ	
	■基幹科目 総合管理を実践するスキルおよび多様な分野へと展開していく土台となる科目	公共専攻	2年次開講科目 憲法Ⅰ・Ⅱ／民法Ⅰ・Ⅱ／労働法／ビジネスと法Ⅰ／行政学Ⅰ／財政学／公共政策論Ⅰ／地方自治論／国際関係論／社会福祉学	3年次開講科目 【法律】行政法Ⅰ・Ⅱ／民法Ⅲ／ビジネスと法Ⅱ／社会保障法／生命倫理と法 【政治・行政】行政学Ⅱ／行政組織論／公共政策論Ⅱ／政策実践論／参加協働論／国際システム論／地域研究／比較政治論 【健康・福祉】保健医療福祉論／家庭福祉論／福祉政策論	
	共通／必修 公共と社会／経済学／情報イノベーション学Ⅰ(現代社会と地域情報)／情報イノベーション学Ⅱ(現代社会と半導体)	情報専攻	2年次開講科目 プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ／地域と情報／データベース／情報セキュリティ基礎／情報システム	3年次開講科目 その他、指定された連携開設科目 【実践英語】実践英語Ⅰ・Ⅱ 【人間情報】メディア情報処理／人工知能／自然言語処理／対話情報処理 【システム情報】通信ネットワーク／アルゴリズムとデータ構造／プログラミング演習Ⅲ／サイバーフィジカルシステム 【社会情報】情報ネットワーク社会／情報社会と職業／データ可視化／応用情報処理実践	
	共通／選択必修（この中から3科目以上） 政治学概論／法学概論／経済学／簿記概論／情報学／統計学Ⅰ／情報処理基礎演習	ビジネス専攻	2年次開講科目 ミクロ経済学／マクロ経済学／計量経済学／金融論Ⅰ／マーケティング／人的資源論／経済戦略論Ⅰ／ビジネスマネジメント／簿記Ⅰ・Ⅱ／原価計算論	3年次開講科目 【組織・戦略】経営戦略論Ⅱ／経営組織論／消費者行動論／社会的企業論／ベンチャービジネス論／アントレプレナーシップ 【会計・財務】経営分析論／管理会計論／財務会計論／証券投資論／企業金融論 【経済・金融】流通経済論／産業組織論／ビジネスデータ分析／金融論Ⅱ／公共経済学	
コミュニケーション論／社会倫理					
動きの	▲ 専攻配属 (1年次末に希望調査)	▲ ゼミ配属 (2年次後学期から)			

指定された連携開設科目：評価・調査法、HCI設計論、ウェブプログラミング基礎、教示と行動変容、学習論ベーシック、教育論ベーシック、インストラクショナル・デザイン基礎、アントレプレナーシップ入門、プログラミング演習Ⅰ、プログラミング演習Ⅱ



総合管理学部総合管理学科(公共)3年 吉川 穂乃花 さん (熊本県立八代清流高等学校出身)

私が本学部を志望した理由は、公共・ビジネス・情報といった幅広い分野を多角的に学ぶことができる点に魅力を感じたからです。また、地域に根差した講義やプロジェクトが展開されていることにも強く惹かれました。私は高校生の頃、「総合的な探究の時間」で地元である八代市の魅力を発信する活動に取り組み、その経験から地域づくりに関わる人材になりたいと考えるようになりました。そこで入学後は、「KUMAJECT(クマジェクト)」という活動に参加し、人吉市を拠点に現地の方々と関わりながら、地域づくりについて学んでいます。

現在私は公共専攻に所属し、法学や地方自治を中心に学んでいます。中でも特に印象に残っている講義は「新熊本学：地域社会と協働」です。熊本県の地域づくりの第一線で活躍されている方々のお話を直接聞くことができ、とても貴重な経験となりました。

勉強以外では、地域活性化を目的とした学生団体や白亜祭実行委員会に所属し、活動しています。多くの人と関わる中で視野が広がり、勉強以外でも多くのことを学ぶことができます。

本学は地域に根差したカリキュラムが整っており、ここでしか得られない学びがたくさんあります。皆さんが自分の興味や目標に合わせてさまざまなことに挑戦し、充実した大学生活を送ることができるのを願っています。



総合管理学部総合管理学科(ビジネス)4年

西 莉奈 さん

(熊本県立球磨中央高等学校出身)

私は高校時代、地域課題の解決に向けた調査研究班に所属し、地域を調査しながら、活性化に向けた取り組みを行いました。その経験から、大学でも実践的に地域に関わりたいと考え、本学部の「KUMAJECT」に強い魅力を感じ、入学を決めました。現在はビジネス専攻の本田圭市郎ゼミに所属し、様々な社会課題に対して

データを用いた統計分析に取り組んでいます。特に本学部で学べる「計量経済学」では回帰分析を中心としたデータ分析を学び、根拠に基づいて考える力を養うことができました。

また学生生活では、白亜祭実行委員会にて実行委員長を務めました。活動期間がゼミの論文執筆と重なり、困難な場面も多有りましたが、そのたびに仲間の支えを感じながら乗り越えることができました。当日、笑顔で楽しんでいる来場者や、やり切った表情の仲間の姿を見たとき、これまでの努力が報われたと感じ、胸がいっぱいになりました。この経験は、今でも大切な思い出として心に残っています。

本学部は学生数が多く、様々な人と出会える環境があります。学べる内容も幅広く、自分の興味を広げていくことができます。ぜひ自分のペースで様々なことに挑戦してみてください。



総合管理学部総合管理学科(情報)4年

本崎 月渚 さん

(熊本県立熊本工業高等学校出身)

私は入学前、将来の目標が曖昧でした。そのため、公共・情報・ビジネスを横断的に学び、多角的な視点を養える本学部のカリキュラムに惹かれ、入学を決意しました。「情報と職業」という科目では、情報技術が実社会でどのように活用されているのかを感じることができました。

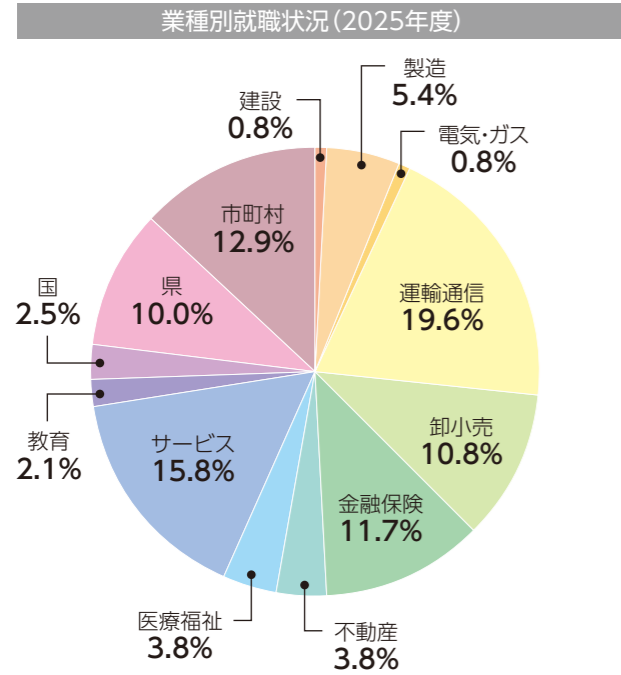
現在は飯村研究室に所属し、社会課題を解決するためのアプリケーションの研究開発に没頭しています。グループ共同研究プロジェクトとして、小学生を対象とした情報モラル育成アプリケーションを開発しリリースしました。実際に使用している子どもたちの反応を間近で見られたことで、自分の技術が社会に役立つ喜びを実感しました。また、本格的な開発から1年足らずで、Apple主催のWWDC26 Swift Student Challengeにて世界350人の入賞者(Winner)に選出されるという貴重な経験もできました。

私生活では、プロレス観戦やアルバイトなど、学業以外も充実した生活を送っています。

本学部の魅力は、自身の関心を起点として、納得がいくまで徹底的に探究を深められる環境にあります。自律的な学びが尊重されているからこそ、際限のない挑戦が可能です。総合管理学部で、あなたもきっと夢中になれるものに出会えるはずです。

[卒業後の進路]

国家公務員、地方公務員はもとより、民間では銀行、生保、損保、病院、旅行会社、航空会社、テレビ局、不動産、学校、メーカー、サービス、流通と就職先は多岐にわたっています。



進路一覧(2024~2025年度)

- **就 職**
 - 【建設】一条工務店、鹿島建設、日軽エンジニアリング、虎虎科技
 - 【製造】アイ・エイチ・ジェイ、オムロン阿蘇、熊本製粉、金剛、鶴屋百貨店、日本ビジネスシステムズ、ヒライ、UT東芝
 - 【電気・ガス】九電ネクスト、鈴木電設
 - 【運輸通信】RKKCS、IJJプロテック、アイレット、アドソル日進、アンタイド、ウエディングパーク、ウチダエスコ、SDCソリューションズ、SBS東芝ロジスティクス、エヌ・アイ・ケイ、NTTドコモビジネスソリューションズ、MS&ADシステムズ、鎌倉新書、熊本計算センター、サイバーエージェント、サイバレコード、佐川グローバルロジスティクス、シーティーシー・テクノロジー、SYSKEN、システムシェアード、JFEシステムズ、JBCC、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、ソフトウエアビジョン、ダブルス・パートナーズ、ティーユーシー、テクノアート、テクノプロ、トランスコスモス、西日本エグゼック、日本通運、パーソルビジネスプロセスデザイン、ビーオルグ、マーブル、マクロジ、Y&I Group
 - 【卸小売】アルペン、いーふらん、イオン九州、IDOM、KAT WORLD、コスモス薬品、コジマ、しまむら、ジャパネットホールディングス、関家具、富田薬品、トヨタモビリティパーツ、トライアルカンパニー、電流、ハンズマン、ビームス、ファーストリテイリング、ホンダセールスオペレーションジャパン、丸菱ホールディングス、やずや、ヤマエグループホールディン

- グス、ゆめmart熊本、利他フーズ、レイメイ藤井、ローカル
- 【金融保険】内山鑑定、大分県信用組合、熊本銀行、熊本信用金庫、熊本中央信用金庫、熊本第一信用金庫、全国共済農業協同組合連合会熊本県本部、ソニー損害保険、トランスコスモス、日本生命、パーク24グループ、肥後銀行、三井住友信託銀行、南九州交通共済協同組合、明治安田生命
- 【不動産】カチタス、コスギ不動産ホールディングス、新産住拓、積水ハウス、長谷工ライブネット、ボルテックス、マークスライフ、三井住友トラスト不動産、明和不動産、リエゾンジャパン
- 【医療福祉】F&A Smile ペエ歯科クリニック、熊本県総合保健センター、熊本赤十字病院、熊本労災病院、済生会熊本病院、桜十字病院、湘美会、SENSTYLE
- 【サービス】RKKムーブ、アドルーム、ANA成田エアポートサービス、and roots、カープレジャーグループ、九州共立、九州産業交通ホールディングス、ギークス、熊本県経済農業協同組合連合会、熊本国際空港、熊本ホテルキャッスル、KIS、コムテック、新宿東急ホテルズ、全国健康保険協会、総合キャリアオプション、大揮環境計画事務所、トータルプレーン、ナノヒューマンプロモーション、日本司法支援センター、日本赤十字社愛知県支部、日本年金機構、日本ビソー、日本郵政コーポレートサービス、ネクサスエージェント、ファンくる、富士薬品、プログレス・テクノロジーズ、ベトナムトレーディング、ホテルオークラ福岡、マイナビ、ワールドインテック
- 【教育】熊本県立大学、KTC学園屋久島おおぞら高等学校、熊本大学、ティー・シー・ケー・ワークショップ
- 【国】九州総合通信局、熊本国税局、警視庁、厚生労働省熊本労働局、国土交通省九州地方整備局、財務省門司税関、水産庁、農林水産省九州農政局、福岡国税局
- 【県】熊本県、熊本県教育委員会、熊本県警察本部、大分県、鹿児島県、埼玉県、広島県警察、山口県
- 【市町村】熊本市、飯塚市、糸島市、宇城市、大津町、大牟田市、上天草市、菊池市、菊陽町、合志市、玉名市、人吉市、福岡市、益城町、都城市、八代市
- **進 学**
 - 会計専門職研究科アカウントینگ専攻、教育経営学科初等教育専攻小学校教諭コース、神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻、新学術創成研究科総合知創出科学専攻、佛教大学通信教育課程

MESSAGE from a Graduate

【勤務先】**熊本地方裁判所**

2020年3月
総合管理学部総合管理学科(公共)卒業
西村 華奈さん
(熊本県立第一高等学校出身)

卒業生からのメッセージ

私は高校生の頃にまだ将来の明確な目標がなかったことから、多種多様な学問を学び、その中で進路先を見極めていきたいという思いから本学部を選択しました。実際、本学部では、現在の仕事にも通じる法律系の講義はもちろん、プログラミングや心理学、国際情勢など多種多様な講義を受講しました。どの講義も大変興味深かったのですが、その中でも自分は今後さらに法律について学習していきたいという思いが強くなり、結果として裁判所という進路先を選ぶに至りました。

また講義のほかに思い出があるのはゼミ活動です。ゼミ研修の中でベトナムを訪ねる機会があり、現地の学生とも交流する機会を得ました。言語の壁や食生活の違いに戸惑うこともありましたが、本当に貴重な経験になりました。

本学部は皆さんの選択次第で様々な学びを得られる場所です。何が皆さんの将来の糧になるかはわかりませんが、まずは仲間と交流し、様々な講義を受講して、興味のある分野・活動には積極的に挑戦してみてください。実際、今の進路先を選ぶにあたっては多くの先輩方やゼミ担当の教授と様々な活動の場面でお話したことは大きな理由になっています。また裁判所の広報資料を作成した際には、本学部でデザイン系の講義を受講したことが活かさなと感じました。

皆さんの4年間の充実したものとなることを心から願っています。

MESSAGE from a Graduate

【勤務先】**大東建託株式会社**

2023年3月
総合管理学部総合管理学科(ビジネス)卒業
中山 輝さん
(熊本県立熊本高等学校出身)

卒業生からのメッセージ

私は、熊本を活気付けられる仕事に就きたいと考えていました。本学部では地域連携型の講義が展開されていたこと、公共・経済・情報をはじめ幅広い分野について学べることに興味を持ち進学を決意しました。

在学中はコロナ禍における環境の変化に伴い様々な制約がありましたが、多くの友人や先輩、後輩、恩師に出会うことができ、充実した4年間を過ごすことができました。2年生からゼミ活動が始まり、3年生の時には全国規模の論文大会に出場し、ゼミ生全員で表彰の機会を頂くという貴重な体験をすることができました。また、在学中に学習した民法、経済学、会計学といった科目は現在の仕事に関連し、知識として役立つ場面が多いため、特に受講して良かったと思います。

現在は、不動産・建設業に従事しており、在学中に得た法律や経済に関する知識を駆使して、マンションやホテル等の不動産開発を手掛けています。

本大学では、学業面はもちろん、人間性においても大きく成長できる環境が整っています。ゼミや部活動にサークル等、楽しい時も踏ん張り時も今までに無い経験が沢山できます。ご自身の学生生活をイメージし、可能性を信じてぜひ挑戦して下さい。皆さんの挑戦を心より応援しております。

MESSAGE from a Graduate

【勤務先】**株式会社サイバーエージェント**

2026年3月
総合管理学部総合管理学科(情報)卒業
山田 雄斗さん
(福岡県立八幡高等学校出身)

卒業生からのメッセージ

私は将来の目標も、やりたいことも分からないまま総合管理学部を選びました。本学部であれば、幅広い分野の学問を学ぶことができ、その中で夢中になれるものに出会えるかもしれない。そのような期待を持って進学しました。

公共福祉、ビジネス、情報など幅広い学問を学ぶ中で、私は情報技術に興味を持ちました。研究室では教育系アプリの開発、Appleが主催するアプリコンテストでの入賞などを経験し、その実績を武器に株式会社LoiLoでエンジニアインターンとして就業しました。このインターンを通じて、実務で必要とされる技術力やソフトスキルを高めました。

現在は株式会社サイバーエージェントで、モバイルアプリのエンジニアとして自社プロダクトの新規機能の開発や、保守管理を行なっています。B to Cのプロダクトなので、ユーザー目線であることが求められますが、研究室で培った自分で課題を見つける能力は必要不可欠な武器となっています。

私は、やりたいことや目標がなくて将来に漠然とした不安を抱いている人にこそ、総合管理学部をお勧めします。本学部で幅広い学問を学び、そして様々な人と関わることで、本当にやりたいことを見つけてください。そのためのフィールドは十分に整っています。これから大きな一歩を踏み出す皆さんの挑戦を、心から応援しています。

New

半導体学部 (仮称)

2027年4月新設予定。
最新の情報は本学ホームページで
ご確認ください。

Faculty of Semiconductor Studies

次世代の半導体技術を総合的に探究する 教育・研究を通して、地域社会および国際社会の 発展に貢献する

半導体学部は、急速に進展する情報社会と産業構造の変化に対応し、半導体の基礎から応用にわたる分野に加え、半導体に関わるビジネス、環境、法制度などの横断的な分野について教育・研究することを目的とします。

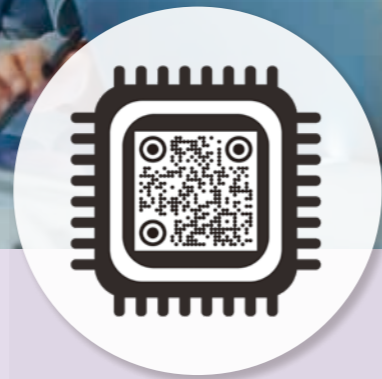
[アドミッション・ポリシー] ~半導体学部はこのような人を求めています~

半導体学部は、半導体に関連する知識と技術を広く学び、実際の社会で役立てていくことを理念としています。半導体の基礎から応用にわたる分野に加え、半導体に関わるビジネス、環境、法制度などの横断的な分野を学び、半導体産業や社会に貢献できる人材を養成します。そこで、本学部では以下のような学生を求めています。

- ① 半導体と情報社会に興味を持ち、半導体関連産業に従事する意欲のある人
- ② 半導体に関する専門知識と技術を学ぶため、数学、物理、化学、情報の基礎的な学力を持つ人
- ③ 多様な人材とコミュニケーションを取り、共同作業に積極的に取り組む意欲のある人



※イメージ画像



■ 詳しくは学部ホームページをご覧ください。
<https://semi.pu-kumamoto.ac.jp/>

※本学部の設置計画は現在認可申請中であり、内容に変更が生じる可能性があります。

◎2027年度入学定員及び募集人員

学部	半導体学科	入学定員	募集人員						
			一般選抜		自己推薦型選抜	特別選抜			
			前期	後期		学校推薦型選抜		留学生・帰国生徒 社会人	
60名	30名	20名	-	10名	-	-	全学で2名以内	-	

[学部の特色]

1 半導体の力で社会課題を解決できる人材の養成

半導体をめぐる近年の動向や、地元産業界のニーズに応えるためには、回路技術、製造技術、デバイス技術などの個別の専門知識を基盤として、半導体を用いた新たなシステムの構築や具体的なサービスの創出を構想し、実現できる人材が求められています。

これに応えるため、本学部では、AI、情報分野から回路、エレクトロニクス、物性、製造、ビジネス、環境問題、法制度に至るまで、半導体に関わる広範な分野を体系的に理解することで、新たな半導体の応用分野を構想し、半導体の力で社会課題の解決に貢献できる人材の育成に取り組みます。

2 産学連携による実学教育

半導体の分野は、日進月歩であり、その技術の進展は急速です。半導体産業に貢献するためには、理論的な知識だけでなく、実際の設計や製造の現場に対する深い理解が不可欠です。本学部では、熊本県内の半導体関連企業の協力のもと、実際の半導体製造装置を学生の実習用に活用するとともに、東京大学の大規模集積システム設計教育研究センター(VDEC)を中心とする大学間の共用チップ開発環境を利用し、実践的な設計手法に基づいた先端のAIチップの設計・開発にも取り組む予定です。

また、企業との共同研究の可能性を積極的に探求するとともに、1年次の「半導体とビジネス」などにおける企業から講師を招いた講義や課外でのインターンシップの奨励を通じて、産学が一体となって半導体とその応用システムの開発、さらには社会課題の解決に共に取り組むことで、実践的な教育・研究の展開を図ります。

3 「地域に生き、世界に伸びる」の実践

本学部は、本学のスローガンである「地域に生き、世界に伸びる」を半導体分野で実践します。熊本県は、JASMの立地を契機として、地域の国際化が進み、その変容も踏まえた地域課題の解決に向けて取り組む姿勢、異文化理解や多文化共生の促進が求められています。このため、教養科目では専門分野の枠を超えて共通に求められる、グローバル化が進展する現代社会等の知識等を幅広く学び、「半導体入門」「半導体とビジネス」「半導体と環境」「半導体と知的財産権」「半導体先端トピックス」などの専門科目において、現在の国際情勢、環境問題、地域の課題と関連づけた講義を行います。英語教育に関しては、1・2年次には必修・選択の英語科目で基礎力を養い、3年次には「実用英語I・II」を通じて、半導体の設計・開発に関する技術的な会話や意思疎通ができる実践的な英語運用能力を修得します。これにより、本学部は地域社会と国際社会の双方に貢献できる人材の育成を目指します。

[学部長 (就任予定) からのメッセージ]

皆さんが日々使っている生成AI、スマートフォン、タブレット、家電、自動車、ドローン、ロボット、クラウドを支えるデータセンターやネットワークまで、現代のあらゆるIT製品と社会インフラは半導体によって支えられています。半導体を理解し、作り、活用できる力を身につけることは、IT社会全体を支え、未来を切り拓くことにつながります。

いま、従来型の半導体技術は限界に近づき、先端半導体のコストは高騰し、AIの急速な発展にも従来の延長線上だけでは応えきれなくなっています。こうした中、新しい発想による技術革新が強く求められています。先端半導体工場を擁する熊本は、その中心地として大きな注目を集めています。

私たちの半導体学部は、半導体デバイス、製造、回路だけでなく、AI、画像処理、信号処理、ビジネス、環境影響までを総合的に学ぶ、日本初の新しい学部です。最も早い時期に学ぶ皆さんには、大きな期待が寄せられています。熊本から世界へ、新しい学問である「半導体学」をともに切り拓いていきましょう。

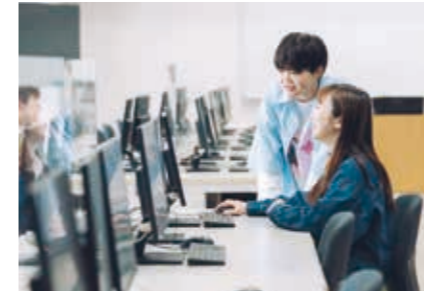
半導体学部長(就任予定) 天野 英晴



MESSAGE
from
the Dean

半導体学部 4年間の学び

- 一般的な工学系の基礎科目を重視した積み上げ型カリキュラムとは異なり、本学部では、まず半導体の製造プロセスを包括的に理解し、その上で設計ができるようになるまでを最短経路で学びます。早期に全体像を把握することで学修意欲を高め、その後は、各自の興味に応じて周辺分野の知識を深め、段階的に知識・技術を深化させます。
- 専門科目は、半導体技術と関連分野の土台を築く「基礎科目」、半導体の設計・製造の全体像を捉える「基幹科目」および応用分野と関連技術を深める「展開科目」を講義、演習、実験・実習の順次性に配慮し、配置します。
- 自身の興味や将来のキャリア志向に合わせた学びが選択できるように、「AI・応用情報」「マイクロエレクトロニクス」「スマートマテリアル」の3つの履修モデルを用意しています。3年次前学期までに半導体全般に関する知識・技術を修得し、3年次前学期末に所属する研究室を選択、4年次には所属研究室において卒業研究を行います。



※写真はイメージです。



※写真はイメージです。



※写真はイメージです。

		1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目	基盤科目	外国語／健康スポーツ科学／情報処理とデータサイエンス／キャリアデザイン／地域理解とリーダーシップ			
	教養科目	人間と文化／自然と環境／社会と世界			
専門科目	基礎科目	<p>◆半導体技術と関連分野の土台を築く</p> <p>半導体に特化した数学・物理・化学でエンジニアの「体幹」を鍛え、IT・プログラミング・英語という世界へ羽ばたく「翼」を手に入れます。さらにビジネスや知的財産、環境への視点を養うことで、技術を社会の幸せにつなげるための確かな「羅針盤」を身につけます。</p> <p>授業科目(予定)：「半導体入門」、「半導体基礎数学」、「半導体基礎物理」、「半導体基礎化学」、「ITスキル演習」、「プログラミング演習」、「半導体とビジネス」、「半導体と環境」、「半導体と知的財産戦略」、「実用英語」 など</p>			
	基幹科目	<p>◆半導体の設計・製造の全体像を捉える</p> <p>チップの内部を組み立てる「設計」と、最先端の材料や技術で形にする「製造」。半導体づくりの両輪を、講義と実験を組み合わせて体系的に学びます。回路設計からAI、物性、実際のプロセスまでを網羅し、次世代の技術を支え、具現化するための確かな実践力を養います。</p> <p>授業科目(予定)：「デジタルLSI設計」、「アナログIC設計」、「半導体設計演習」、「半導体デバイスとプロセス」、「半導体工学実験」 など</p>			
	展開科目	<p>◆半導体の応用分野と関連技術を深める</p> <p>身につけた基礎を土台に、自動運転、量子コンピュータ、医療機器など、自分が挑戦したい未来のフィールドを選びます。最先端のトピックスやプロジェクト実習を通じて、特定の分野に特化した専門性と、社会課題の解決に貢献する実践力を磨きます。</p> <p>授業科目(予定)：「半導体先端トピックス」、「AI・応用情報/マイクロエレクトロニクス/スマートマテリアル・プロジェクト実習」、「信号処理・画像処理」、「ナノテクノロジー」、「ロボットと自動運転」、「パワーエレクトロニクス」、「量子コンピューティング」、「先端メモリ技術」、「メディカルエレクトロニクス」</p>			
	卒業研究	◆半導体分野に関する卒業研究に取り組む			

※半導体学部（仮称）においては、教職課程の設置および所定の科目を履修することによる資格取得は予定していません。

[学科長(就任予定)からのメッセージ]

本学科の開設にあたり、皆さんにお会いできることを大変うれしく思います。
私はこれまで企業や大学において半導体デバイス・プロセスおよび評価技術の研究開発に長年携わり、基礎から製品化に至るまでの現場を経験してきました。

その中で実感してきたのは、半導体が社会を根底から支え、新しい価値を生み出す原動力であるということです。

しかし現在、微細化を中心とした従来技術は大きな転換点を迎えており、新たな材料、構造、さらにはAIとの融合といった異分野連携が不可欠になっています。

これからの時代に求められるのは、専門性に加え、分野を横断して課題を捉え、新しい価値を創造できる力です。本学部は、そのような力を体系的に育むことを目的としています。

卒業後は、半導体産業のみならず、AI、情報通信、自動車、エネルギーなど幅広い分野で活躍の道が開かれています。皆さんには失敗を恐れず挑戦し、自らの発想で未来を切り拓いてほしいと願っています。

熊本の新たな拠点から、世界に通用する「半導体学」をともに築いていきましょう。

半導体学科長(就任予定) 丹羽 正昭



MESSAGE
from
the Chair

[想定される進路]

半導体設計企業、半導体製造企業、材料・装置メーカーはもとより、AI関連企業、IT関連企業、自動車関連企業、ロボット関連企業、電気機器メーカー、医療機器メーカー、大学院進学など様々な進路が想定されます。



Workshop



《2025年度の開催実績》

熊本高校、熊本第一高校、熊本第二高校、熊本北高校、水俣高校、熊本工業高校、文徳高校、開新高校、熊本学園大学附属高校

高校生等に向けた取組み

熊本県内には、多岐にわたる分野の半導体関連企業が集積しつつあり、国際的な生産拠点としての形成が進んでいます。

地域に根差し、世界で活躍できる半導体人材の育成を目指す新学部開設の取組みを周知するため、半導体分野の第一人者である本学の黒田理事長による高校生向けの講演会を開催しています。

講演では、生活に身近なテクノロジーに欠かせない「半導体チップ」について、どのように作られ、今後どのような役割を担っていくのかなどを解説し、多くの生徒、保護者、学校関係者の皆さんに大変熱心に聴講いただいています。

MESSAGES
from
Industry



《メッセージをいただいた企業様等(2026.3時点)》

荏原製作所、鹿島建設、菊陽町、熊本銀行、熊本県工業連合会、熊本国際空港、熊本日日新聞社、クラフティア、櫻井精技、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(JASM)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、東京エレクトロン九州、日本政策投資銀行、肥後銀行、三菱UFJ銀行半導体バリューチェーン推進室

(五十音順)

企業様等からのメッセージ

(お寄せいただいたメッセージの一例)

・熊本から世界へ共に未来を切り拓き、そして新しい価値を生み出していきたい

・半導体の基礎に加え、IT・AI・データサイエンスなど多様な分野に対応できる柔軟性と実装力を備え、九州・熊本から世界へ挑戦する人材が育つことを期待しています

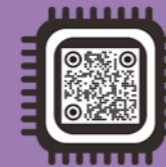
・半導体を通して未来を明るくしたい意志を持った人材の育成に期待しています

・グローバルな視点と未来を切り拓くチャレンジ精神をもつ半導体人材が育まれることを期待しています

※この他にも、多くの企業様等から本学部への応援・期待のお声をいただいています。詳しくは、学部HPをご覧ください。

New
Faculty Building

COMING SOON



◀最新情報はここから

新学部棟(2029年度供用開始予定)

本学部の全学年が使用する新校舎を既存の3学部と同じ月出キャンパス内に建設予定です。新学部開設2年目まで(2027~2028年度)は既存施設を活用し、開設3年目(2029年度)からは全学年新学部棟での教育・研究を開始する見込みです。

《新学部棟整備スケジュール(予定)》

2026年度 着工
2028年度 完成
2029年度 供用開始

大学院

Graduate School

各学部・学科の専門教育を基礎に発展させた、文学研究科、環境共生学研究科、アドミニストレーション研究科の3研究科をそろえています。



文学研究科

Graduate School of Language & Literature

●日本語日本文学専攻(博士前期課程)(博士後期課程)

Division of Japanese Language & Literature

●英語英米文学専攻(博士前期課程)

Division of English Language & Literature

文学研究科は、多様な価値観がせめぎ合う現代社会の中で、言語・文学研究の成果を人間生活の中に生かしていく方途を模索し、的確に実践していくことを理念としています。専門性を深化させ、英知を磨き、真がんと分別する洞察力を養い、以て人間文化の進展に寄与することを目指す研究の場です。



英語学特殊講義

[人材の養成の目的]

文学研究科博士前期課程では、研究領域の専門的知識を修得した高度専門職業人及び研究者を養成することを目的とします。

文学研究科博士後期課程では、地域における言語文化研究・言語教育研究の拠点としての役割を見据え、各領域の発展的知識や教育実践活動の成果を応用しながら、問題の設定から解決までを独力でできる高度専門職業人及び研究者を養成することを目的とします。

専攻	課程	入学定員
日本語日本文学専攻	博士前期課程	5名
	博士後期課程	2名
英語英米文学専攻	博士前期課程	5名
	博士後期課程	2024年度より募集停止

取得資格(博士前期課程)

- 日本語日本文学専攻 中学校・高等学校教諭専修免許状(国語)
- 英語英米文学専攻 中学校・高等学校教諭専修免許状(英語)

環境共生学研究科

Graduate School of Environmental & Symbiotic Sciences

●環境共生学専攻(博士前期課程)(博士後期課程)

Division of Environmental & Symbiotic Sciences

環境共生学研究科は、人間と人間を取り巻く生物的な要因・大気・水・森林・土壌・人工物などの非生物的要因からなる環境とが共生するためのあり方、人間活動を支える場としての豊かな自然を保全し利用する方法、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策などを科学的に追求することを旨とする研究の場です。



食品機能分析学

[人材の養成の目的]

環境共生学研究科博士前期課程では、環境共生学の基本的理念を基にした環境分野の専門的知識と技術を修得した高度専門職業人および環境共生学を実践できる研究者を養成することを目的とします。

環境共生学研究科博士後期課程では、自然と人間活動との共生を具体的に実現していく資源循環型社会の構築に向けて、より総合的で高い専門的知識や技術と実践の能力を併せもつ高度専門職業人および環境共生学を実践できる内外の研究者を養成することを目的とします。

専攻	課程	入学定員
環境共生学専攻	博士前期課程	20名
	博士後期課程	3名

取得資格(博士前期課程)

- 中学校・高等学校教諭専修免許状(理科)
- 中学校・高等学校教諭専修免許状(家庭)

アドミニストレーション研究科

Graduate School of Administrative Studies

●アドミニストレーション専攻(博士前期課程)(博士後期課程)

Division of Administrative Studies

アドミニストレーション研究科は、社会科学系の研究を総合的に行う大学院として、行政学・経営学・経済学・情報学・看護学などの諸学問を学際的に協働させることで社会的諸課題を解決するための理論を発展させていくことを目指す研究の場です。



情報デザイン論特殊講義

[人材の養成の目的]

アドミニストレーション研究科博士前期課程では、複雑・多様化した社会的諸課題を学際的な協働によって実践的に解決していく高度専門職業人及び研究者を養成することを目的とします。

アドミニストレーション研究科博士後期課程では、複雑・多様化した社会的諸課題を学際的知識と高度な手法を用いて創造的に解決でき、アドミニストレーションの理論の発展を担う高度専門職業人及び研究者を養成することを目的とします。

専攻	課程	入学定員
アドミニストレーション専攻	博士前期課程	12名
	博士後期課程	2名

取得資格(博士前期課程)

- 中学校教諭専修免許状(社会)
- 高等学校教諭専修免許状(公民)

教員紹介

※五十音順

文学部		日本語日本文学科	
教授 大島 明秀 <i>Oshima Akihide</i> 歴史学	教授 鈴木 元 <i>Suzuki Hajime</i> 日本文学	教授 武藤 彩加 <i>Muto Ayaka</i> 日本語教育学	
学科長・教授 小川 晋史 <i>Ogawa Shinji</i> 社会言語学・方言学	准教授 羽鳥 隆英 <i>Hatori Takafusa</i> 日本芸能文化論	副学長・教授 山田 俊 <i>Yamada Takashi</i> 中国語・中国文化	
准教授 五島 慶一 <i>Goto Keiichi</i> 日本文学	准教授 真島 望 <i>Mashima Nozomu</i> 日本近世文学	学部長・教授 米谷 隆史 <i>Yoneya Takashi</i> 日本語学	

文学部		グローバル・スタディーズ学科	
教授 石井 佳世 <i>Ishii Kayo</i> 教育心理学	准教授 難波 美和子 <i>Namba Miwako</i> 比較文学	教授 村尾 治彦 <i>Murao Haruhiko</i> 認知言語学	教授 レイヴン リチャード <i>Richard Lavin</i> 文化人類学
准教授 荻嶋 崇 <i>Kayashima Takashi</i> 英語学・言語学・対照言語学	教授 西本 陽一 <i>Nishimoto Yoichi</i> 地域研究ならびに地域社会学(もやいすと)	准教授 吉田 希依 <i>Yoshida Kei</i> 英語文学	
教授 武上 富美 <i>Takegami Fumi</i> 英語教育	学科長・教授 原 紘子 <i>Hara Hiroko</i> 英語・異文化コミュニケーション	准教授 リカード ジョシュア <i>Joshua Rickard</i> 文化人類学	

環境共生学部		環境共生学科 環境資源学専攻	
教授 阿草 哲郎 <i>Agusa Tetsuro</i> 水環境科学	専攻長・教授 一宮 睦雄 <i>Ichinomiya Mutsuo</i> 海洋資源学	准教授 小森田 智大 <i>Komorita Tomohiro</i> 海洋生態学	教授 モロー ジェフリー スチュワート <i>Jeffrey Stewart Morrow</i> 英語教育
教授 石橋 康弘 <i>Ishibashi Yasuhiro</i> 資源循環化学	准教授 神山 拓也 <i>Koyama Takuya</i> 植物資源学	准教授 斎藤 達也 <i>Saito Tatsuya</i> 森林資源学	
教授 石村 秀登 <i>Ishimura Hideto</i> 教育学	教授 小林 淳 <i>Kobayashi Jun</i> 環境分析化学	教授 張 代洲 <i>Zhang Daizhou</i> 大気環境学	

環境共生学部		環境共生学科 居住環境学専攻	
講師 栗原 広佑 <i>Kurihara Kousuke</i> 環境設備システム学	教授 柴田 祐 <i>Shibata Yu</i> 地域計画学	准教授 鄭 一止 <i>Cheong Ilji</i> 都市計画学	准教授 南部 恭広 <i>Nambu Yasuhiro</i> 居住空間木質構造学
准教授 佐藤 哲 <i>Sato Satoshi</i> 建築計画学	教授 高橋 浩伸 <i>Takahashi Hironobu</i> 建築設計・住空間計画学	教授 辻原 万規彦 <i>Tsujihara Makihiko</i> 地域環境調整工学	専攻長・教授 李 麗 <i>Li Li</i> 居住空間合構成造学

環境共生学部		環境共生学科 食健康環境学専攻	
准教授 阿南 弥寿美 <i>Anan Yasumi</i> 食品安全性学	教授 下田 誠也 <i>Shimoda Seiya</i> 臨床病態代謝学	准教授 田尻 美千子 <i>Tajiri Michiko</i> 家庭科教育・調理科学・食育	准教授 中嶋 名菜 <i>Nakashima Nana</i> 給食経営管理学
助手 境田 奈津子 <i>Sakaida Natsuko</i> 食健康環境学	学部長・教授 白土 英樹 <i>Shiratsuchi Hideki</i> 食品分析学	教授 友寄 博子 <i>Tomoyori Hiroko</i> 食品栄養機能学	教授 松崎 弘美 <i>Matsusaki Hiromi</i> 食品バイオ工学
専攻長・教授 坂本 達昭 <i>Sakamoto Tatsuki</i> 実践栄養教育学	助教 田尻 絵里 <i>Tajiri Eri</i> 食健康環境学	講師 中下 千尋 <i>Nakashita Chihiro</i> 食健康環境学	准教授 吉田 卓矢 <i>Yoshida Takuya</i> 臨床栄養学

総合管理学部		総合管理学科 公共専攻	
講師 飯嶋 佑美 <i>Iijima Yuumi</i> 政治学	教授 江崎 一郎 <i>Esaki Ichiro</i> 社会倫理	准教授 関 智弘 <i>Seki Tomohiro</i> 公共経営	教授 西森 利樹 <i>Nishimori Toshiaki</i> 社会保障法
准教授 井寺 美穂 <i>Idera Miho</i> パブリック・アドミニストレーション	准教授 佐藤 雄一郎 <i>Sato Yuichiro</i> 憲法学	准教授 田畑 嘉洋 <i>Tabata Yoshihiro</i> 民法学	准教授 松本 千晴 <i>Matsumoto Chiharu</i> 看護学
専攻長・教授 上拂 耕生 <i>Uebarai Kousei</i> 行政法	教授 澤田 道夫 <i>Sawada Michio</i> アドミニストレーション論	教授 中尾 富士子 <i>Nakao Fujiko</i> 看護学	准教授 安武 綾 <i>Yasutake Aya</i> 福祉政策論

総合管理学部		総合管理学科 ビジネス専攻	
准教授 飯島 賢志 <i>Iijima Kenji</i> 社会統計学	専攻長・教授 河西 卓弥 <i>Kawanishi Takuya</i> ファイナンス	教授 本田 圭市郎 <i>Honda Keiichiro</i> 計量経済学	助教 劉 鶴 <i>Ryu Hato</i> 産業組織論
教授 岩井 琢磨 <i>Iwai Takuma</i> マーケティング	准教授 下畑 浩二 <i>Shimohata Koji</i> 経営戦略論	教授 望月 信幸 <i>Mochizuki Nobuyuki</i> 管理会計論	講師 李 嬌 <i>Ri Kyou</i> 経営学
教授 井田 貴志 <i>Ida Takanori</i> 経済の基礎理論	准教授 本田 藍 <i>Honda Ai</i> 社会調査法	准教授 山西 佑季 <i>Yamanishi Yuki</i> 財務会計論	

総合管理学部		総合管理学科 情報専攻	
専攻長・教授 飯村 伊智郎 <i>Iimura Ichiro</i> 知能情報学	准教授 金井 貴 <i>Kanai Takashi</i> 情報セキュリティ論	准教授 松田 節郎 <i>Matsuda Setsuro</i> データサイエンス	教授 ラージャパクセ ジャーナカ <i>Rajapakse Janaka</i> 応用情報学
教授 石橋 賢 <i>Ishibashi Ken</i> 情報メディア論	准教授 小蘭 和剛 <i>Kozono Kazutake</i> プロジェクト・マネジメント	学部長・教授 宮園 博光 <i>Miyazono Hiromitsu</i> 情報認知科学	
准教授 岩見 麻子 <i>Iwami Asako</i> 地域情報学	准教授 堀 一輝 <i>Hori Kazuki</i> データサイエンス	教授 森山 賀文 <i>Moriyama Yoshifumi</i> 情報学	

半導体学部 半導体学科 ※2027年4月新設予定。学部・学科名は仮称。

3つの履修モデル（AI・応用情報、マイクロエレクトロニクス、スマートマテリアル）に、それぞれ深い専門性を持つ16名の教員を配置する予定。

共通教育センター			
教授 阿草 哲郎 <i>Agusa Tetsuro</i> 水環境科学	教授 武上 富美 <i>Takegami Fumi</i> 英語教育	准教授 松田 節郎 <i>Matsuda Setsuro</i> データサイエンス	准教授 李世恩 <i>Ri Seun</i> 英語教育
教授 石井 佳世 <i>Ishii Kayo</i> 教育心理学	准教授 田中 祐治 <i>Tanaka Yuji</i> 応用言語学	教授 宮園 博光 <i>Miyazono Hiromitsu</i> 情報認知科学	助教 劉 鶴 <i>Ryu Hato</i> 産業組織論
教授 石村 秀登 <i>Ishimura Hideto</i> 教育学	准教授 難波 美和子 <i>Namba Miwako</i> 比較文学	准教授 森 裕生 <i>Mori Yuki</i> 初年次教育・学修評価・キャリア教育	
教授 大島 明秀 <i>Oshima Akihide</i> 歴史学	センター長・教授 西本 陽一 <i>Nishimoto Yoichi</i> 地域研究ならびに地域社会学(もやいすと)	教授 モロー ジェフリー スチュワート <i>Jeffrey Stewart Morrow</i> 英語教育	
准教授 小蘭 和剛 <i>Kozono Kazutake</i> プロジェクト・マネジメント	准教授 堀 一輝 <i>Hori Kazuki</i> データサイエンス	副学長・教授 山田 俊 <i>Yamada Takashi</i> 中国語・中国文化	



キャリアサポート・学修支援

- キャリアセンター
- キャリアサポート
- デジタルイノベーション推進センター
- 図書館
- 学修支援



キャリアセンター

卒業後の自分を思い描き、その実現に向けて頑張るあなたをサポート

熊本県立大学には、就職活動などの支援を行う「キャリアセンター」があります。キャリアセンターでは、センター長やキャリアコーディネーターが中心となり、学生が自分にあった進路・就職先を選択するための様々な支援を行っています。

進路相談

進路は自分自身の問題なので主体的に考え、行動することが重要です。しかし、自己分析→業界・企業研究→会社説明会→採用試験→内定といった一連の就職活動では、様々な疑問、不安や悩みを感じる事が少なくありません。これは就職だけでなく、進学、留学、資格取得などをする場合にも同様のことが言えます。

キャリアセンターでは、進路に関する様々な情報提供を行うとともに、就職相談員やCCA(キャンパス・キャリア・エンジェル)による進路相談を開催するなど、進路選択のサポートを積極的に行っております。

就職相談員

経験豊かな専任の就職アドバイザーがきめ細やかな就職指導、就職相談を行います。企業情報の収集の仕方、自己PRや志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入室のマナーに至るまで、親身になって支援を行います。

CCA (キャンパス・キャリア・エンジェル)

卒業後の進路が決定している4年生(「キャンパス・キャリア・エンジェル」)が、自身の学生生活や就職活動を踏まえて、就職活動や進路選択などに関する相談に応じます。

就活関連情報

キャリアセンターでは、求人情報や企業情報、就活関連の書籍および情報誌、面接対策DVDなど、就活に役立つ様々な情報を閲覧できます。中でも「受験報告書」は、先輩たちの就活の進め方や選考の内容、後輩へのアドバイスなど、活きた就活体験が詰まっているため、自身の就活の際にとっても役に立ちます。就活関連書籍の一部は貸出対応も行っています。

3年生になると、県大生専用の就活サイト「県大就活ナビ」を利用できます。求人情報や企業情報の閲覧、求人へのエントリーはもちろん、インターンシップや学内企業説明会などの就活に関するイベント情報を確認したり参加申込をしたりすることができるほか、先輩方の「受験報告書」も学内外を問わず気軽に閲覧できます。



学生サポート

これまでとは違った環境で過ごす学生生活。自らをコーディネートしていくあなたをサポートします。

学生相談

学業、進路、心と体、生活などに関する相談を受け付けています。内容によって、保健師、臨床心理士、教職員が対応します。また、電話や電子メールでの相談も受け付けています。



下宿・アパート

自宅が遠方の学生にとってアパート・下宿先を探すのは大変です。本学では、本学周辺のアパート・下宿に関する情報を提供しています。仲介手数料がないのもメリットです。

なお、アパート・下宿情報は本学ホームページでも閲覧することができます。(毎年2月頃更新)



アルバイト

学生支援課では、経済的支援の一環として、学生アルバイトとしてふさわしい仕事のみを厳選し紹介しています。アルバイトは、学業に支障のない範囲で行いましょう。



キャリアサポート

就職や進学に向けたきめ細やかなサポート

年間を通して多くの学生に利用されているキャリアセンターでは「セミナー」や「ガイダンス」などを開催し学生の4年間を強力にサポートします。



学修へのデジタル活用環境



情報処理実習室

- 4つの教室に214台のPCを設置しています。
- 図書館にも50台設置しています。
- 空き時間にも利用できるよう実習室の開放を実施しています。
- ハイスペックなPCを設置し、様々なソフトが利用できます。

実習室・図書館
Microsoft Office Professional Plus 2019
実習室
Adobe(Photoshop, Illustrator等)
Visual Studio 等

LMS 学修管理システム



授業に関する連絡・資料・課題等が一元的に分かるようシステムで支援しています。

無線ネットワーク



私物のPCやスマートフォンでも学内各所でインターネットへWi-Fi接続できます。

Office 365 ライセンス



在学中は私物のPC等にWord、Excel等を無償でインストールして使用できます。

データ保存



OneDrive等の保存領域を利用できます。OneDriveは自宅からでもアクセス可能です。

IT サポート窓口



対面・メール・電話で学修のためのIT関連の質問や相談ができます。

ノートパソコン貸出



1日単位(当日返却)で貸出。学生なら誰でも利用できます。(台数に限りがあります。)

デジタルイノベーション推進センター

デジタルによる教育研究環境の刷新を推進します。

あらゆる情報の分析・活用を通して情報の価値を最大限に高めるとともに、デジタルの力により、革新的で魅力ある環境を構築します。

高度な情報リテラシーを習得するための教育支援と環境を提供します。

大学生活に欠かすことのできないITの活用を支援するため、サポート窓口を運営しています。パソコン・ネットワーク利用に関する相談受付や、パソコン・周辺機器の貸出、在学期間における全学生へのOfficeアプリケーションの無償提供、情報処理実習室(パソコン室)の管理・提供を行なっています。

安全・安心な情報インフラ・セキュリティを提供します。

本学情報ネットワーク基盤の整備、管理を行っています。また、次世代ファイアウォール等の最新防御対策、セキュリティインシデントへの備えにより安全・安心なネットワーク環境を提供しています。

図書館

教養から専門まで充実した蔵書と快適な学修環境を提供します。

キャンパスにふりそそぐ柔らかな光をふんだんに取り入れた快適で明るい学習・情報空間です。パソコンコーナー、ラーニングコモンズ、キャレル(個別学習机)など、多様なニーズに応じた学修スペースを用意しています。



雑誌コーナー

三面ガラス張りの明るいくつろげる空間です。国内外の様々な専門誌がそろっています。



パソコンコーナー

50台設置しており、学生は自由に利用できます。図書を手元に置いてのレポート作成等のニーズに応えます。

■図書館概要

- 図書収容能力 ————— 41万冊
- 閲覧席 ————— 約360席
- 蔵書数
図書 ————— 約38万冊
(うち電子書籍 約2,600冊)
- 雑誌・紀要数 ————— 約6,000種
- 購読雑誌数 ————— 約210種

※令和8年(2026年)3月末現在

学修支援

GPA制度

ポイント制による成績評価

成績は、授業科目ごとに、秀、優、良、可、不可の5段階で評価しますが、これに加えて、成績評価システム「GPA(Grade Point Average)制度」を導入しています。GPA制度は、授業科目ごとの成績評価(試験の得点:100点満点)に対し、一定の計算式に基づきポイントを付与し、1単位当たりの平均を算出し、5点満点で評価するものです。

GPAのポイントが特に高い学生は、成績優秀者として表彰されます。また、ポイントが低い成績不振者に対しては、担当教員が個人指導を行います。



成績優秀者表彰式

オフィスアワー

Face to Faceできめ細やかな指導

学習や将来の進路など学生の様々な相談に対応するため、教員があらかじめ指定する時間に、学生が研究室を訪問し、相談ができるオフィスアワー制度を導入しています。

もちろんオフィスアワー以外の時間でも、教員が在室しているときは、自由に研究室を訪問できます。また、電子メールで相談することもできます。



オフィスアワー



学生生活

- キャンパスライフ
- サークル活動
- キャンパスマップ
- キャンパス周辺情報
- 学費・奨学金
経済支援



キャンパスライフ

Campus Calendar

- 新入生・在学生オリエンテーション
- 入学式
- 前学期授業開始
- 開学記念日(5月2日)
- PUKリンピック(体育祭)(5月上旬)

- 後学期授業開始(9月下旬)

4月
April



入学式(4月)

5月
May

6月
June

7月
July

8月
August

9月
September



PUKリンピック(5月)

- 海外協定校・研修団受入(韓国)(6月下旬~7月上旬)

- 前学期定期試験
- 夏季休業(8月中旬~9月下旬)
- サマー・ECO・デー(8月中旬)
- 夏季キャリア体験演習(8月中旬~9月下旬)
- Intensive English(8月下旬)



祥明大専攻校研修団(6月~7月)



白亜祭(11月)

10月
October

11月
November

12月
December

1月
January

2月
February

3月
March

- 卒業式
- 春季休業(3月下旬~4月上旬)

- インターンシップ発表会

- 白亜祭(学園祭)(11月中旬)

- 冬季休業(12月下旬~1月上旬)

- 後学期定期試験
- 春季キャリア体験演習(2月下旬~3月下旬)
- 海外協定校・研修団派遣(アメリカ)(2月中旬~3月中旬)



Intensive English「英語合宿」(8月~9月)



卒業式(3月)

学生生活

自宅派



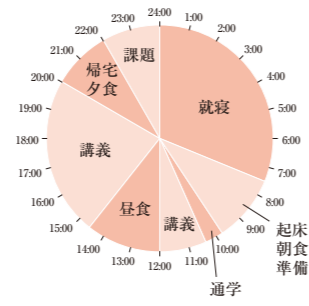
最初はわからないことだらけで不安が多い学校生活でしたが、だんだんと友人や先輩と繋がりができ、楽しい毎日になっていきました。講義は、自分でスケジュールを管理しなければならないため、3年生になった今でも大変だと感じます。しかし、自分が知りたいことや興味があることを主体的に選び、学べる環境にとっても充実感を感じています。大学生活は、自分がどういう行動を取るかで全てが変わります。4年間の貴重な時間を大切に、そして大胆に使い、かけがえのない時間にしていきましょう!

総合管理学部
総合管理学科(ビジネス)3年 **本田 妃奈乃**さん
(九州学院高等学校出身)

1年次後学期の時間割

	月	火	水	木	金
1時限				韓国語入門AII	
2時限			統計学I		英語IV
3時限	海の生物資源	現代社会と企業		生涯スポーツ実習II	
4時限			経営学		総合管理学III
5時限	英語II		情報学		簿記概論
6時限		データサイエンス入門		Moyaist Global Entry training	もやいすと(防災)ジュニア育成

ある一日のスケジュール



一ヶ月の収支

【収入】	
アルバイト	68,000円
収入合計	68,000円
【支出】	
食費	10,000円
趣味・交際費	20,000円
車維持費	10,000円
貯金	28,000円
支出合計	68,000円

一人暮らし派



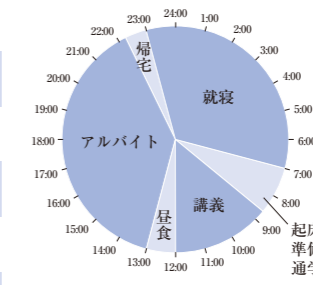
高校生の時に「大学生は人生において最も時間がある」と言われました。まだ21年間しか生きていませんが、私はこの大学生活が、今までで一番やりたいことに挑戦でき、同時に一番時間が足りないと感じています。それほど大学生活は、自分のやりたいことに挑戦できる環境が整っており、大学生のうちにしかできない経験も数多くあります。最後の一年も、この挑戦する姿勢を持ち続け、悔いのない大学生活を送りたいです。

文学部日本語日本文学科4年 **副島 優莉**さん
(佐賀県立唐津東高等学校出身)

3年次前学期の時間割

	月	火	水	木	金	集中講義
1時限	教育制度論	教育課程論		生徒指導の理論と方法		日本古典文化論
2時限	日本語史I	国語科教育法I	書道II(実技)	古代文学演習II-1	日中比較文学I	
3時限	国際協力論	古代文学特殊研究I		日本語教育評価法	日本語教育演習II(日文)	
4時限	近代文学講読		複合演習III		中国文化論演習III	
5時限						
6時限						

ある一日のスケジュール



一ヶ月の収支

【収入】	
アルバイト	90,000円
奨学金(学費分)	50,000円
仕送り(家賃分)	35,000円
収入合計	175,000円
【支出】	
食費	20,000円
家賃	35,000円
光熱費	5,000円
交際費・趣味	30,000円
貯金	35,000円
学費	50,000円
支出合計	175,000円

サークル活動

ともに研ぎ、ともに笑う、仲間たちがここにいる。

学間に励みながら、多くの仲間と出会えるのも大学生活の大きな魅力です。
サークル活動を通じて、心身ともに研ぎ合うことのできる友をつくる。学問だけでなく、生きることを学ぶ場でもあります。

体育系サークル(21団体)

- Army Combat Engineers(サバイバルゲーム)
- 一大事(よさこい)
- 弓道部
- 硬式テニス部
- サッカー部
- シーズンすぽっつ(スポーツ全般)
- シンパーズ(ソフトボール)
- 女子バスケットボール部
- 女子バレーボール部
- 水泳部
- ソフトテニス部
- ダイビング部
- 卓球部
- 男子バレーボール部
- 男子バスケットボール部
- do DAC(ストリートダンス)
- 軟式野球部
- PUKパド(バドミントン)
- フットサル
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部

体育委員長

文学部日本語日文学科3年

山下 凜華さん
(熊本県立大津高等学校出身)

体育委員会では主に、体育会系サークルや部活動を代表して、大学側へ学生の要望を伝える架け橋のような役割を担っています。皆さんのお気づきやご要望など、お気軽にお申し付けください。皆さんの学生生活がより豊かなものになるように尽力いたします。また、新入生歓迎のPUKリンピックなどのイベントも開催していますので、ぜひご参加ください。高校生活では味わうことのできない特別な体験を通して、多くの人と出会い充実した4年間になることを心から願っています。



文化系サークル(21団体)

- 歌唄(アカペラ)
- 映像研究部
- MR研究会
- 合唱部
- 建築デザイン部
- 茶道・着物礼法部
- 写真部
- 手話サークル
- 書道部
- 吹奏楽部
- 箏曲部
- テーブルゲームサークル
- 天文部
- 美術部
- フォークソング研究部
- ぶくはび
- 文芸部
- Maple Leaves(ボランティア)
- 観光部HIGOist
- 歴史研究会
- 書評部

文化委員長

総合管理学部総合管理学科情報専攻3年

吉村 悠希さん
(宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校出身)

文化委員会は文化系サークルや同好会の代表として、学生自治会と大学からの諸連絡を各サークルに伝達するとともに、サークル活動が円滑に行えるようサポートする役割を担っています。また、新入生歓迎オリエンテーションの運営にもかかわり、文化系サークルの発展に尽力しています。大学のサークルにはこれまで見たことのない個性的な団体が集まっていると思います。高校生活では味わうことのできない特別な体験を、ぜひ文化系サークルで楽しんでみてはいかがでしょうか。心に決めたサークルが見つかることを祈っています。

※サークル団体数は2026年3月現在



ボランティア活動

ボランティア活動は、公共福祉の観点から共助精神の涵養に資するものとして極めて意義深いものであり、また授業では学べない多くの体験ができるため、自己形成の上で極めて重要です。

ボランティア活動団体の紹介

本学には、様々な目的をもって自主的に活動する複数のボランティア団体があります。

「熊本城マラソン」などの各種イベント運営にボランティアとして参加する「Maple Leaves」、規格外野菜の認知拡大や普及を目的に活動する「SalVage ~規格外野菜を救い隊~」、国内のみならず海外でのボランティア活動にも参加する「ぶくはび」、地域づくり活動、祭りの運営を行い地域貢献を目指す「未来創土」などが活動しています。

※ボランティア団体は2026年3月現在

「Maple Leaves」の活動紹介

私たちMaple Leavesは、熊本市内を中心に、熊本県内のさまざまなところでボランティア活動を行っている団体です!昨年度は依頼を受け荒尾市でワークショップを開いたり、熊本城マラソンの運営ボランティアとして参加したりと、ジャンルを問わずさまざまな活動を行うことができます!

昨年度は、長年活動してきたことを熊本市社会福祉協議会から表彰していただくなど、歴史のあるサークルです。友達と参加することも可能です!また、サークルとして活動しているため、交通費としてボランティアの参加にかかった費用を部費からお渡しできる点が魅力です!

ぜひ私たちと一緒に楽しくボランティア活動をしてみませんか?



「SalVage ~規格外野菜を救い隊~」の活動紹介

私たちSalVage(サルベジ)は、規格外野菜の認知拡大や普及、熊本の地域理解及び未来創生を目的に活動しています。

主に、農家さんへの取材を通して、たべラボ(P78)とコラボして食育の日のお弁当を考えたり、県大マルシェに参加して、規格外野菜を販売したりと大学のイベントに参加し、規格外野菜を広めています。また、過去には、花農家さんの取材などを行ったり、小学校に規格外野菜について授業を行ったりしていました。このようにSalVageは、幅広く自由な活動ができます。

ぜひ、私たちと一緒に活動しませんか?興味がある方はInstagramで「熊本県立大学 SalVage(サルベジ)」と検索・DMにご連絡ください。



食育活動

食育推進室では、学生グループとともに学びながら、イベント等を定期的に開催しています。あなたも参加してみませんか？



たべラボキャラクター もぐ丸

たべラボ活動

たべラボでは、熊本県内のさまざまな地域の食の魅力の発掘や、イベントの企画、学食でのメニュー開発・プロデュースなどの活動を行っています。自らの食生活や生活習慣のスキル向上を図るとともに、学内外に向けた食育を実践する学部横断的な学生グループです。



食の魅力発見

一品持ち寄り弁当の日の開催や、野菜・出汁・お菓子作りなど様々なWSを実施しています。



食文化に触れる

日本の食・世界の食。文化的な側面からも楽しめます。



暮らしに生かす

魚をさばいて、味わったり。SDGsの観点からも考えます。

食育の日

大学生が地域の食材について学び、その食材を使った学食メニューを考案し提供しています。毎月19日前後に開催しており、学生や教職員に好評です。



地域研修

地域の食材について学びます。



活動プレゼン

弁当提供当日ステージにて、活動のプレゼンテーションも実施します。



学食提供

月替わりテーマに沿って、当日メニューが提供されます。

食に関する講演会・イベント

学生が将来にわたり、自らの健康の主体者として健全な食生活を自己管理できるようになることを目指しています。その実現へ向けて、さまざまな機会を設けています。



たべラボ紹介



学園祭での活動紹介



学内イベント参加

保健センター

保健センターは、学生が充実した学生生活を送ることができるよう、心身の健康管理を行うとともに、修学上あるいは生活上の様々な悩みごとに関する相談業務を行っています。学内で具合が悪くなったり、怪我をした場合は、休養や簡単な応急手当を受けることができます。

学生相談

充実した学生生活を送れるよう、学生相談を行っています。なにか困ったことがあれば、一人で悩まず気軽にご相談ください。保健師と臨床心理士が様々な相談に応じています。必要に応じ教員や事務局と連携してサポートします。



定期健康診断

全学年を対象として定期健康診断を行っています。健康診断は学校保健法により、年1回必ず受診することになっておりますので、生活習慣の改善に役立ててください。必要に応じて、健康管理の支援をします。



地域・研究連携センター

地域に根差した質の高い研究の推進や、公開講座の開催など、本学の教育研究資源を地域と繋ぎ、大学の地域貢献に取り組むセンターです。



地域連携部門

地域からの様々な相談に対応し、本学の教育研究資源とのマッチングを図ります。また、包括協定の締結や産学官連携など地域連携の取組を推進します。

研究支援部門

国の科学研究費助成事業を活用した研究や、企業、団体、自治体等の外部資金を活用した受託研究・共同研究の円滑な推進を支援します。

地域学習部門

授業公開講座、各種公開講座の開催や、職業人の学び直しとして、CPDプログラム(Continuing Professional Development 継続的専門職能開発)を推進します。

県大の研究室や地域貢献活動を
紹介するサイトです。
是非ご覧ください。



キャンパスマップ

Campus Map



← C テニスコート ← 21 第2クラブ室

1 本部棟

事務局各課・室(1階に教務入試課、学生支援課、2階に総務課、企画調整室)などがあります。

2 中ホール

300人収容のホールです。国際会議に対応するため、同時通訳ブースを設置しています。

3 キャリアセンター

キャリアセンター、トレーニングルームなどがあります。
■キャリアセンター
 就職情報などの提供ときめ細やかな相談・指導など、学生一人ひとりの夢の実現に向けた(総合的な)キャリアサポートを行っています。→P59
■トレーニングルーム
 学生・教職員の健康増進のためウエイトや各種マシンでトレーニングができます。

4 サブアリーナ 5 CPDホール

サブアリーナは1階に体育館、2階に弓道場があります。CPDホールは、収容人数が105人(うち固定席60席)規模の講義室で、150インチスクリーンを備えています。



6 アリーナ



1階には、柔剣道場などがあります。2階にはバレーボールコート2面分のスペースを有するアリーナがあります。

7 くまモン! Payラウンジ(大学会館)

学生食堂、書籍・売店、共通教育センター(→P21)があります。



■学生食堂
 カフェテリアスタイルで、ガラス張りの吹き抜けとなっている明るい学食です。人気メニューは、日替りのランチやカレーです。

■書籍・売店
 書籍や文具、事務用品の販売はもちろん、引越、旅行の予約・貸衣装、自動車学校の申込など便利な取次サービスも行っています。

8 講義棟1号館



小規模の講義室が12室あり、1階に学生ロビーと食育推進室があります。

9 小ホール・保健センター

中規模ながらフォーラムなども開催できる140人収容のホールです。また、応急手当や休養、学生相談ができる保健センターがあります。

10 文学部棟



文学部の教員研究室、ゼミ室、資料室などがあります。

11 環境共生学部西棟

環境共生学部(主に居住環境学専攻・食健康環境学専攻)の教員研究室、各種実験実習室などがあります。

学内を網羅するデジタル環境

学内無線LANのアクセスポイントは、教室や演習室、研究室など約420箇所に設置しており、うち300箇所は最新のWi-Fi6(IEEE 802.11ax)対応になっていますので、安定して快適に使用できます。また、各教室にはWeb配信・収録設備を設置しており、対面・遠隔併用のハイブリッド授業の実施が可能です。



モニュメント「宙(sora)」

児玉士洋氏作。
 物質社会(柱)と精神社会(球)のバランスのとれた様を表し、若者の無限の可能性が宙へと伸びるようという願いがこめられています。



モニュメント「大地」

児玉士洋氏作。
 自然と文明の融合による緊張と安定を表現。大地や水などの自然のパワーとエネルギーがテーマとなっています。



モニュメント「オーバルカラム」

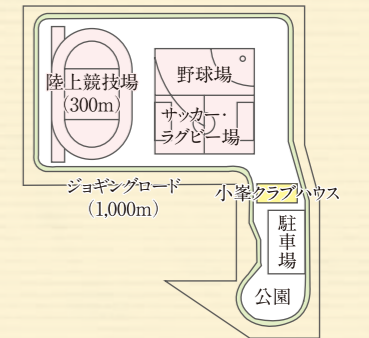
松尾光伸氏作。
 土筆をイメージしたフォルムが若者の成長を、32面の楕円球がアルファベットと記号を表現しています。



ブロンズ像「視」

石原昌一氏作。
 1980年に、創立30周年と新キャンパス建設を祝って同窓会紫苑会から贈られたブロンズ像です。

小峯グラウンド (所在地 熊本市東区小峯3丁目2613-1)



キャンパスから約2kmの近距離にある野球場、サッカー兼ラグビー場、300mトラックを兼ね備えたグラウンドです。また、グラウンドを囲った1,000mのジョギングロードがあり、一般にも開放しています。

12 13 環境共生学部北棟・南棟



北棟と南棟からなり、環境共生学部(主に環境資源学専攻)の教員研究室、各種実験室などがあります。太陽光発電と雨水利用システムを備えるなど環境に配慮した施設です。

14 構造実験棟

環境共生学部の構造実験室、材料実験室があります。

15 グローバル棟

1階には地域・研究連携センターと共創の流域治水研究室があり、2階には国際教育交流センターがあります。

16 図書館

ガラス張りの塔が印象的な図書館は、収容能力41万冊、蔵書数約38万冊を誇ります。1階にはオンラインでの会議・授業・面接等で活用できるパーソナルブース3台が設置されています。本学の学生や教職員をはじめ広く一般にも公開し、地域の図書館として利用されています。→P65

17 講義棟2号館

4つの中講義室と4つの小講義室があるほか、情報処理実習室1室があります。

18 ひこみライホール(大ホール)



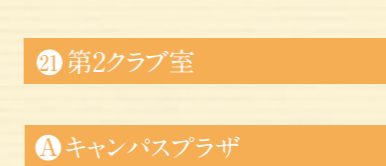
350人収容のホールです。200インチスクリーンによりPCなどを利用した講義が可能です。

19 総合管理学部棟



総合管理学部の教員研究室、ゼミ室、資料室などがあります。また、1階には情報ネットワークの中枢であるデジタルイノベーション推進センターのほか、IR室、情報処理実習室2室があります。

20 第1クラブ室



本部棟と講義棟1号館、大学会館の間に広がるオープンスペース。赤レンガと草木のコントラストの美しさが自慢です。モニュメント「大地」やブロンズ像「視」もあります。

B アカデミックプラザ



図書館と大ホールの間にひろがる、憩いと語らいのオープンスペース。図書館のガラス張りの塔とモニュメント「宙(sora)」が印象的な空間です。

C テニスコート



夜間照明を備えたテニスコートが6面あります。

D キャンパスギャラリー



E プール

アリーナに併設されている屋外プール(25m・7コース)です。

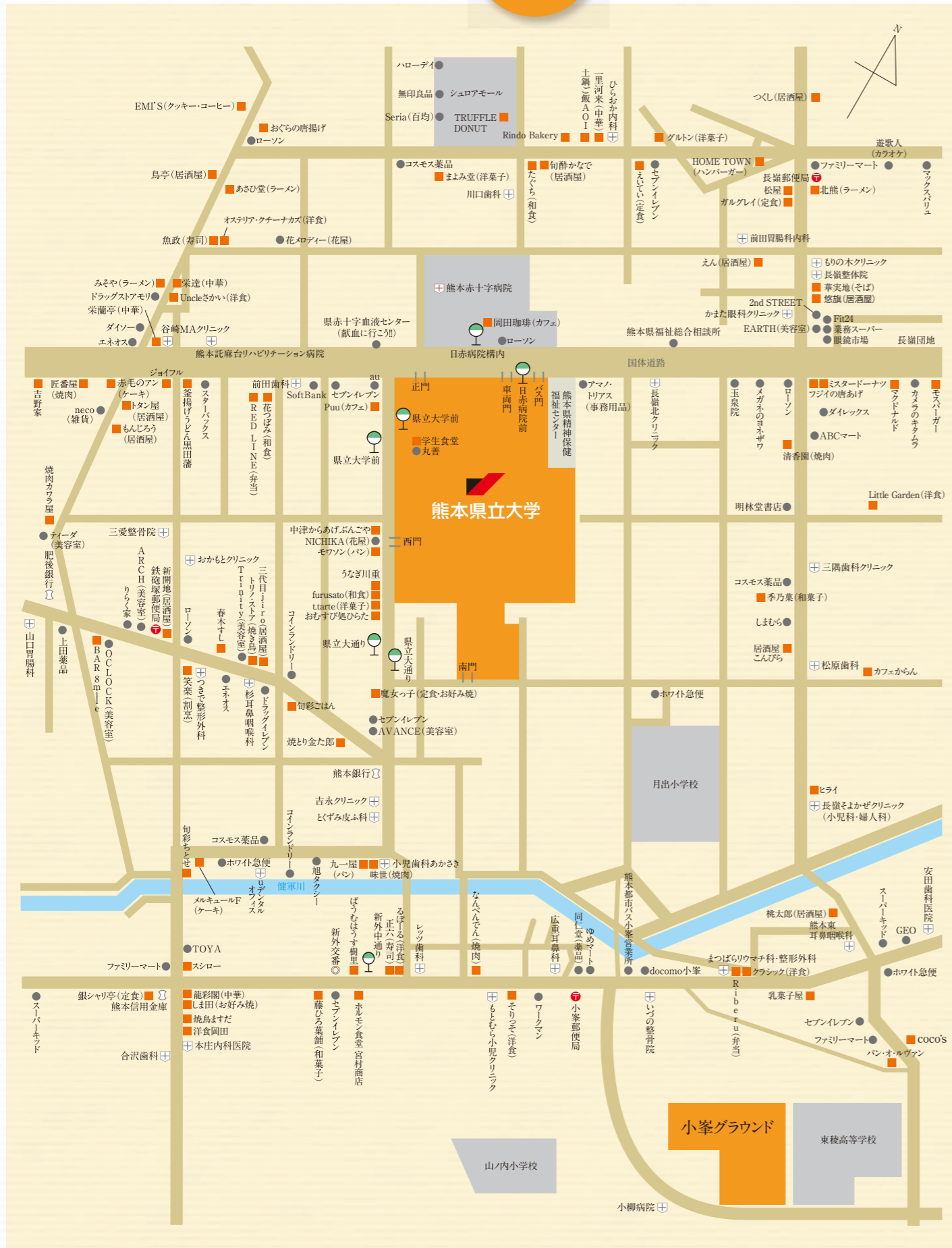
F 月出フィールド

共創の流域治水研究室実験棟と雨水を地中に浸透させる「雨庭」、実験水路等が併設されています。

キャンパス周辺情報



熊本県立大学がある月出界隈は、衣・食・住のバランスのとれたアメニティタウンです！



学費・奨学金・経済支援

大学で学ぶには、何かとお金がかかるもの。熊本県立大学では、独自の奨学金制度「熊本県立大学奨学金」を創設するなど支援制度の充実に取り組んでいます。併せて授業料徴収猶予・減免制度など、経済支援制度も設けています。

◎学費

種別	入学金 (入学手続き時に納入)	授業料 2期に分けて口座引き落とし
県内	207,000円	年額 535,800円 (各期267,900円×2期)
県外	414,000円	

※上記の金額は、2026年度のもので。 ※入学金、授業料のほか、後援会費として67,000円(4年間分を入学時に一括納入)が必要です。他に学部により実習費、学会費や保険料(5,000円程度)が必要です。

◎授業料徴収猶予・月額払・減免制度

経済的理由、不慮の事故、疾病、その他やむを得ない特別な事情により、期限までに授業料の納付が困難な場合、徴収猶予(納付期限の延長)又は月額による納付(年額の12分の1を毎月納付)の許可を受けることができます。

また、一定の成績基準や家計基準を満たしている場合、多子世帯の要件を満たしている場合、申請を行うことで授業料が免除(一部減免を含む)される場合があります。

さらに、学費負担者が年度途中で死亡、又は災害、事故、長期療養などにより生活に困窮し、授業料の納付が困難になった場合の減免制度もあります。

◎入学金納付時期猶予制度

日本学生支援機構の入学時特別増額貸与奨学金を受給する学生や、修学支援法の予約採用者については、入学金の納付時期が猶予されます。

◎大学院入学金免除制度

本学の学部を卒業し、本学大学院への進学を希望する者のうち、一定の条件を満たす者については入学金が免除されます。

◎熊本県立大学奨学金

本学では有為な人材を育成するため、熊本県立大学未来基金への寄附金等を活用しながら、本学独自の奨学金制度を設け、学生の修学を支援しています。

名称	対象	金額	期間
同窓会紫苑会奨学金	学業成績・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由から修学が困難と認められる者(学部2~4年より毎年20人程度)	年額10万円	1年
短期派遣留学生支援奨学金	学生交流に関する協定に基づき、1年以内の期間派遣される者(奨学生の数は毎年度予算の範囲内において別に定める)	月額8万円から12万円 ※派遣先大学の所在地による	派遣先で修学する期間
小江梅子奨学金	文学部英語英米文学科、グローバル・スタディーズ学科又は文学研究科英語英米文学専攻に在籍する者で一定期間以上の海外留学・研修を行う者	1回5万円から10万円 ※同一学生の奨学金は、文学部在籍時と文学研究科在籍時のそれぞれについて、10万円をその上限額とする。	30日以上

◎日本学生支援機構奨学金

(独)日本学生支援機構が実施している奨学金制度です。

名称	種類	対象	金額	期間
貸与奨学金	第一種奨学金 (無利子)	学部*1	自宅通学 月額20,000円、30,000円または45,000円*2 自宅外通学 月額20,000円、30,000円、40,000円または51,000円*2	4年
		大学院	博士前期 月額50,000円または88,000円 博士後期 月額80,000円または122,000円	2年 3年
	第二種奨学金 (有利子)	学部	月額2万円~12万円(1万円刻み)	4年
		大学院	博士前期 月額5万円、8万円、10万円、13万円または15万円 博士後期 月額5万円、8万円、10万円、13万円または15万円	2年 3年
給付奨学金	給付*3	学部	自宅通学 月額29,200円(市町村民税所得割非課税世帯の場合)*4 自宅外通学 月額66,700円(市町村民税所得割非課税世帯の場合)*4	4年

※1. 学部の第一種奨学金は、修学支援法に基づく給付奨学金受給中、貸与額が減額(または増額)される場合があります。
 ※2. 申込時の家計収入が一定額以上の場合は、最高月額を選択不可。
 ※3. 給付奨学金受給者は、申請により、給付奨学金の支援区分に応じ授業料等が減免されます(修学支援法に基づく授業料減免)。
 ※4. 市町村民税所得割課税世帯の場合は、課税額等に応じた認定区分により2/3・1/3・1/4の給付奨学金を受けられる場合があります。

◎その他の奨学金

熊本県有英資金、熊本市奨学金など各都道府県・民間団体の奨学金制度がありますので学生支援課へお気軽にご相談ください。

入試情報

熊本県立大学の入試情報は、ホームページに集約されています。
出願期間、合格発表はもちろん、過去5年間の志願者数、競争率などの気になる情報が満載です。
入試について調べたい場合は是非ホームページをご覧ください。

熊本県立大学
入試情報ホームページ

<https://www.pu-kumamoto.ac.jp/examination/>



入試の日程 (インターネットによる出願手続を実施しています。)

	一般選抜 (個別学力検査)	自己推薦型選抜		特別選抜		
		環境共生学部 環境共生学科 居住環境学専攻	総合管理学部 総合管理学科	学校推薦型選抜	社会人選抜 帰国生徒選抜	私費外国人留学生選抜
出願期間	2027年1月25日(月) 2027年2月 3日(水)	2026年9月 3日(木) 2026年9月11日(金)		2026年11月 9日(火) 2026年11月13日(金)	2026年10月5日(月) 2026年10月9日(金)	2026年12月 7日(月) 2026年12月11日(金)
選抜期日	前期日程 2027年2月25日(木) 後期日程 2027年3月12日(金)	2026年10月17日(土) 10月18日(日) (注)	第一次選考 2026年10月17日(土) 第二次選考 2026年10月18日(日) (注)	〈文学部・環境共生学部〉 2026年12月6日(日) 〈総合管理学部〉 2026年12月5日(土)	〈文学部・環境共生学部〉 2026年12月6日(日) 〈総合管理学部〉 2026年12月5日(土)	2027年2月6日(土)
合格発表	前期日程 2027年3月 5日(金) 後期日程 2027年3月20日(土)	2026年11月2日(月)		2026年12月14日(月)		2027年2月15日(月)
入学手続	前期日程 2027年3月 6日(土) 2027年3月15日(月) 後期日程 2027年3月20日(土) 2027年3月27日(土)	合格通知書到着日 2026年11月11日(水)		合格通知書到着日 2026年12月23日(水)		2027年3月15日(月) 2027年3月19日(金)
発表・定時入試	11月上旬(予定)	7月上旬(予定)		8月上旬(予定)		8月上旬(予定)

注…不測の事態の発生により上記期日に試験実施が困難になった場合に備え、2026年10月24日(土)、25日(日)を選抜予備日とします。

入学定員及び募集人員

学 部	学 科 専 攻	入学 定員	募 集 人 員						
			一般選抜		自己推薦型 選 抜	特別選抜			
			前期日程	後期日程		学校推薦型選抜			社会人選抜・ 帰国生徒選抜・ 私費外国人 留学生選抜
					県内	全国	農業・林業・ 水産・ 工業科	“くまもと 夢実現”	
文 学 部	日本語日本文学科	45	30	10	-	5	-	-	若干名
	グローバル・ スタディーズ学科	45	28	10	-	7	-	-	若干名
環境共生学部	環境資源学専攻	110	15	12	-	3 (うち2名以上は熊本県内 高等学校枠※1)		若干名 ※2	県内 2名 以内
	居住環境学専攻		20	12	4	-	-		
	食健康環境学専攻		28	8	-	4	-	-	
総合管理学部	総合管理学科	220	A方式30 B方式40	A方式20 B方式30	50	50	-	-	若干名
半導体学部 (仮称)	半導体学科	60	30	20	-	10	-	-	-
合 計		480	221	122	54	83	若干名	若干名	若干名

※1…熊本県内高等学校卒業見込みの者

※2…高等学校及び中等教育学校の農業、林業、水産又は工業に関する学科を卒業見込みで一定の要件を満たす者

一般選抜結果 (2024~2026年度)

学部	学 科 専 攻	日 程 方 式	2026年度					2025年度	2024年度	2026年度			
			募集 人員	志願者数	受験者数 (A)	合格者数 (B)	実質競争率 (A/B)	実質 競争率	実質 競争率	満点	合格者 最高点	合格者 最低点	合格者 平均点
文 学 部	日本語日本文学科	前 期	30	116	110	34	3.2	3.3	2.6	1000	742.1	653.2	685.6
		後 期	10	106	44	11	4.0	4.1	2.4	900	668.2	592.2	629.7
		学科計	40	222	154	45	3.4	3.6	2.6				
	グローバル・ スタディーズ学科	前 期	28	87	82	34	2.4	2.2	1.8	900	671.9	578.0	617.2
		後 期	10	139	50	14	3.6	2.2	1.8	900	714.7	635.9	663.5
		学科計	38	226	132	48	2.8	2.2	1.8				
学部計			78	448	286	93	3.1	2.8	2.2				
環 境 共 生 学 部	環境資源学 専攻	前 期	15	26	25	17	1.5	2.5	2.5	1350	863.0	702.5	775.0
		後 期	12	146	50	12	4.2	3.5	3.6	1250	861.5	732.0	773.5
		専攻計	27	172	75	29	2.6	3.0	3.0				
	居住環境学 専攻	前 期	20	53	51	21	2.4	2.5	1.7	1350	930.6	745.4	802.1
		後 期	12	105	31	15	2.1	2.1	2.6	1350	960.6	808.6	845.0
		専攻計	32	158	82	36	2.3	2.3	2.1				
食健康環境学 専攻	前 期	28	74	71	30	2.4	1.9	1.8	1350	888.0	723.2	784.2	
	後 期	8	105	45	8	5.6	2.0	2.6	1350	881.3	769.4	812.0	
	専攻計	36	179	116	38	3.1	1.9	2.0					
学部計			95	509	273	103	2.7	2.3	2.3				
総 合 管 理 学 部	総合管理学科	前期A	30	105	105	31	3.4	5.1	2.8	650	499.4	408.7	437.8
		前期B	60	169	167	64	2.6	2.7	2.5	650	545.6	432.5	462.6
		後期A	40	219	121	49	2.5	4.3	1.9	650	500.7	405.7	440.1
		後期B	50	300	146	54	2.7	2.5	2.3	650	531.4	428.9	459.8
	学部計			180	793	539	198	2.7	3.4	2.3			
合 計		前 期	211	630	611	231	2.6	2.9	2.3				
		後 期	142	1120	487	163	3.0	3.1	2.3				
		計	353	1750	1098	394	2.8	3.0	2.3				

※大学入学共通テストと個別学力検査の合計点です。調査書得点は含みません。
※追加合格者については数値に含めていません。

自己推薦型選抜結果 (2026年度)

学 部	学 科 専 攻	募集人員	志願者数	受験者数	第1次選考		第2次選考	
					合格者数	競争率	合格者数	競争率
環 境 共 生 学 部	環境共生学科居住環境学専攻	4	25	25	5	5.0	-	-
総 合 管 理 学 部	総合管理学科	50	156	156	78	2.0	50	3.1

特別選抜(学校推薦型選抜)結果 (2026年度)

学 部	学 科 専 攻	志願者数	受験者数	合格者数
文 学 部	日本語日本文学科	8	8	5
	グローバル・ スタディーズ学科	17	17	7
環 境 共 生 学 部	環境資源学専攻	7	7	5
	居住環境学専攻	17	17	4
	食健康環境学専攻	18	18	4
総 合 管 理 学 部	総合管理学科	74	74	50
合 計		141	141	75

※農業・林業・水産・工業科学校推薦型選抜、“くまもと夢実現”学校推薦型選抜を含む。

よくある質問

Q1. 熊本県内高校出身者の割合はどのくらいですか。

2026年度入学者全体でみると、熊本県内高校出身者が占める割合は79.7%です。

九州・沖縄地区出身高校の入学者数

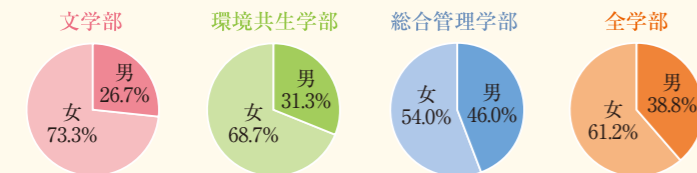
※2026年度入学者

■入学者出身高校の所在地別データ(2026年度)

	九州 圏外	九州 圏内	内 訳								合計	
			福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県		
全学部	男 6	188	7	4	2	164	2	3	6	0	1	195
女	7	299	21	8	3	237	10	10	10	0	2	308
合計	13	487	28	12	5	401	12	13	16	0	3	503

※その他は、外国の学校卒、高卒認定等

■入学者の男女の割合(2026年度)



Q2. 資料請求をしたいのですが、どのような方法がありますか。

大学案内(本冊子)及び入学者選抜概要は次の3つの方法で入手できます。

① テレメールで請求

パソコン・スマホ・携帯電話を利用して請求できます。
<https://telemail.jp>

スマホ・携帯電話でQRコードをよみとってアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。



①の請求方法についての問い合わせ先
テレメールカスタマーセンター
電話 **050-8601-0102**
(受付時間: 9時30分~18時)

② 本学に郵便で請求

角型2号(A4サイズの冊子が入るもの)の返信用封筒に、送料分の切手(大学案内は230円、入学者選抜概要は190円、両方の場合は320円)を貼付の上、受取人の郵便番号・住所・氏名を明記し、裏表紙記載の住所までお送りください。なお、返信用封筒の表に「大学案内請求」又は「入学者選抜概要請求」(両方の場合は「大学案内及び入学者選抜概要請求」)と朱書きしてください。

③ 本学教務入試課で入手

本部棟ロビーで配布(設置)しております。土日祝日でも来学の上、自由にお持ち帰りください。
なお、各入学者選抜の募集要項の公表時期は次のとおりです。冊子での配布は行いませんので、本学のホームページからダウンロードしてください。

●自己推薦型選抜 7月上旬(予定) ●学校推薦型選抜 8月上旬(予定) ●一般選抜 11月上旬(予定)

Q3. 過去の入試問題を見ることができますか。

本学教務入試課までお越しいただければ、閲覧いただくことは可能ですので、教務入試課入試班に電話(096-321-6610)でお問い合わせください。
なお、令和6年度以後に実施した選抜の問題については、本学のホームページでもご覧になれます。(著作権処理が必要な部分を除きます。)

熊本県立大学をもっと知りたい方へ

本学では、高校生の皆さんや保護者の方々及び先生方に、本学をさらにご理解いただけるような様々な入試広報を展開しております。

申し込み条件・手順等、詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

オープンキャンパス

2026年7月19日(日)・20日(月・祝)(予定)

進学相談会 4月~10月

高校訪問 5月~9月

出張講義 5月~8月

学内見学(団体) 5月~10月 ※個人見学は随時

※各入試広報は、中止・延期・内容変更などの可能性があります。
最新の情報は、本学ホームページにてご確認ください。

WEBオープンキャンパス

絶賛
公開中!



いつでもどこからでも参加できるオープンキャンパスとして、「熊本県立大学WEBオープンキャンパス」ホームページを公開中です。高校生の皆さんに向けた大学教員による模擬授業や学生インタビューのほか、熊本県立大学のキャンパスを360°体感できる360°キャンパスツアーやサークル紹介など、熊本県立大学をさらに知っていただけるような様々なコンテンツをご用意しています。

※2026年5月現在の掲載情報です。

大学教員による模擬授業



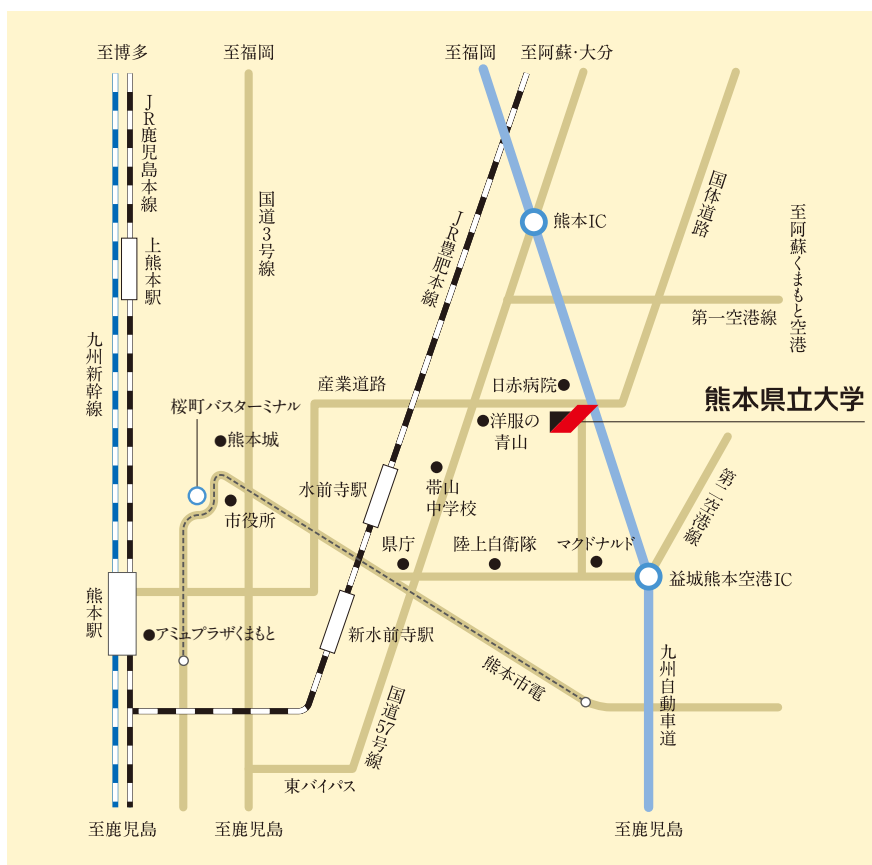
学生インタビュー



アクセスはこちらから
熊本県立大学WEBオープンキャンパス
URL <https://puk-oc.jp>



アクセスマップ



マイカー・タクシーによるアクセス

- 熊本ICから 約15分(約4.3km)
- JR熊本駅から 約25分(約8.2km)
- 益城熊本空港ICから 約10分(約4km)
- JR水前寺駅から 約15分(約4.2km)
- 阿蘇くまもと空港から 約25分(約13km)

バスによるアクセス

桜町バスターミナルから

15番のりば

- 都市バス「長嶺小学校・免許センター」行(〔G1-4〕、〔G1-5〕表示)
「日赤病院前」バス停下車(約30分)。
そこから徒歩1分

26番のりば

- 都市バス「日赤病院・長嶺団地」行(〔H1-1〕、〔H2-1〕、〔H3-1〕表示)
「県立大通り」又は「県立大学前」バス停下車(約40分)。
そこから徒歩1分

JR熊本駅方面から

1番のりば

- 都市バス「免許センター」行(〔G1-5〕表示)
「日赤病院前」バス停下車(約40分)。
そこから徒歩1分

6番のりば

- 都市バス「長嶺団地」行(〔H4-1〕表示)
「県立大通り」又は「県立大学前」バス停下車(約40分)。
そこから徒歩1分
- 都市バス「長嶺小学校」行(〔G1-6〕表示)
「日赤病院前」バス停下車(約30分)。
そこから徒歩1分

その他

- バスにより桜町バスターミナル下車(約10分)
- 市電により辛島町電停下車(約10分)。
その後桜町バスターミナルまで徒歩約2分

JR新水前寺駅方面「水前寺駅通り」バス停(スーパーマーケット前)から

- 都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(〔H2-1〕、〔H3-1〕表示)
「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

JR水前寺駅方面南口「水前寺駅前」バス停から

- 都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(〔H2-1〕表示)
「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

JR水前寺駅方面北口「熊高正門前」バス停から

- 都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車(〔H1-1〕、〔H4-1〕表示)
「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分



〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096-383-2929(代) FAX 096-384-6765

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>
E-mail: kyoumu@pu-kumamoto.ac.jp

熊本県立大学

検索



この印刷物は環境に
配慮して植物油インキを
使用しています。